

Annual Report 2020

年 報 2020年(令和2年)度



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital

Annual Report 2020

年 報 2020年(令和2年)度

Contents

巻頭言 ——— 病院長の言葉	4
----------------------	---

トピックス

舞台はととのった！	名誉院長 藤本 吉範 6
中尾センター長に感謝状が贈呈されました	9
感染病棟に移動型 X 線装置「Tiara」整備！	10
新型コロナウイルス感染症の早期探知に尽力 ～SARS-CoV-2 PCR 検査を院内で開始～	11
感染防止対策室（ICT）活動報告	12
2020 年 4 月、広島総合病院内に廿日市休日夜間急患センターがスタートしました	13
ホスピタルアートが完成しました	14

病院の概要

病院概況	16
JA 広島総合病院のあゆみ	17

活動報告

呼吸器内科	20
循環器内科	22
腎臓内科	24
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	25
消化器内科	26
小児科	28
外科	29
乳腺外科	30
整形外科	31
形成外科	32
脳神経外科	33
呼吸器外科	36
心臓血管外科	37
皮膚科	38
泌尿器科	39
産婦人科	40
眼科	41
耳鼻咽喉科	42
放射線治療科	43
画像診断部	44
麻酔科	45
歯科口腔外科	46
救急・集中治療科	47
健康管理センター	49
病理診断科・病理研究検査科	51
臨床研修科	52
看護科	53
外来	54
外来治療センター	55
地域救命救急センター	56
ICU・西 3 階病棟	57
西 4 階病棟	58
西 5 階病棟	59
西 6 階病棟	60

西 7 階病棟	61
西 8 階病棟	62
東 3 階病棟	63
東 4 階病棟	64
東 5 階病棟	65
東 7 階病棟	66
手術室	67
居宅介護支援事業所	68
訪問看護ステーション	69
薬剤部	70
臨床研究検査科	71
中央放射線科	72
臨床工学科	73
リハビリテーション科	74
栄養科	75
診療情報管理科	76
医療安全管理室	77
地域医療連携室	78
総合医療相談室	79
総務課	80
施設資材課	81
栄養サポートチーム (NST)	82
呼吸療法サポートチーム (RST)	83
感染防止対策室 (ICT・AST)	84
心臓リハビリテーションチーム	85
DMAT 災害対策ワーキングチーム	86
がん化学療法チーム	87
緩和ケア科緩和ケアチーム	88
認知症ケアサポートチーム	90
各種委員会	91

実績

著書・論文	104
書籍・雑誌編集	108
学会発表	109
学会での座長	115
研究会講演・発表	116
研究会座長	120
地域活動	123
雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演	124
合同カンファレンス	125

クラブ活動

伯友会（ゴルフ同好会）	128
※華道部、野球部、テニス部、サッカー部、フットサル部、バスケットボール部につきましては、 新型コロナウイルス感染症の対応として 2020 年度は活動を自粛いたしました。	

資料

統計資料	132
------------	-----



巻 頭 言

2020年……、この年は100年いや200年以上経っても人類史に間違いなく記される年になるでしょう。2019年末に中国武漢に端を発した新型コロナウイルス感染症は、交通網の発達した現代社会に乗じて瞬く間に世界中に広まって多くの生命が失われ、第二次世界大戦以後最大の惨事となりました。東京オリンピックは史上初の1年延期となり、生活様式は「三密」回避の号令により一変し、社会経済活動にも多大な打撃を与えることになりました。そんな中、人間同士のコミュニケーションの方法も大きく様変わりしました。リモート会議・書面会議と称する行事が増える一方で、感染対策に万全を期することを使命とする医療従事者は、歓送迎会・忘年会などいわゆる「飲みニケーション」の行事の完全自粛を余儀なくされました。

激動の2020年は、広島総合病院にとっても大きな節目の年でした。4月1日病院長職が藤本吉範から松原昭郎にバトンタッチされ、同じ日に「廿日市休日夜間急患センター」を病院施設内に開設しました。広島県西部地域の一次救急は、廿日市市役所近くに位置するあいプラザ「廿日市市休日・夜間急患診療所」にて廿日市市運営のもとで主に佐伯地区医師会や他の医師会のご開業の先生方が担われていましたが、この機能を広島総合病院内に移して当院が運営母体となり、引き続きご開業の先生方に当院非常勤医として従事いただくことになりました。これにより二次救急の必要な一次救急患者の円滑な連携が可能となりました。コロナ対策では、保健所要請等によるドライブスルー形式のPCR検査実施、有熱者外来（後に帰国者接触者外来）の設置、コロナ対応病棟への転換による入院患者収容など、多くの職員とそのご家族の理解と献身的協力によって社会貢献することができました。この紙面を借りまして、関係された全ての皆様に深い敬意と感謝を申し上げます。

コロナ禍で翻弄された1年ではありましたが、制約の多い中でもそれぞれの部署で診療・看護・研究・事業活動に創意工夫を凝らして積極的に取り組めたことを非常に頼もしく思っております。トピックスでは、コロナ関連の話題とともに、藤本吉範名誉院長の廿日市メディカルタウン構想実現に向けてのこれまでの取り組みが熱く語られています。対面での交流の場から久しく遠ざかっております現状ですので、この年報を是非ご一読いただき、当院職員たちの奮闘ぶりの一端を感じていただければ幸甚です。

最後になりますが、辻山修司 年報編集委員長をはじめ、日常業務で多忙にもかかわらず発刊に尽力された全ての職員の皆様に深謝申し上げます。

2022年7月

広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院
病院長 石田 和史

舞台はととのった！

名誉院長 藤本 吉範



辻山修司編集委員長より原稿の依頼をいただいた。この年報が発刊されるころは、新病院の建設が着工されているはずである。新病院建設は病院職員の夢と希望であった。構想から着工までに要した時間は約 10 年、あっという間の 10 年であった。その間の思い出と職員へのメッセージを書かせていただく。

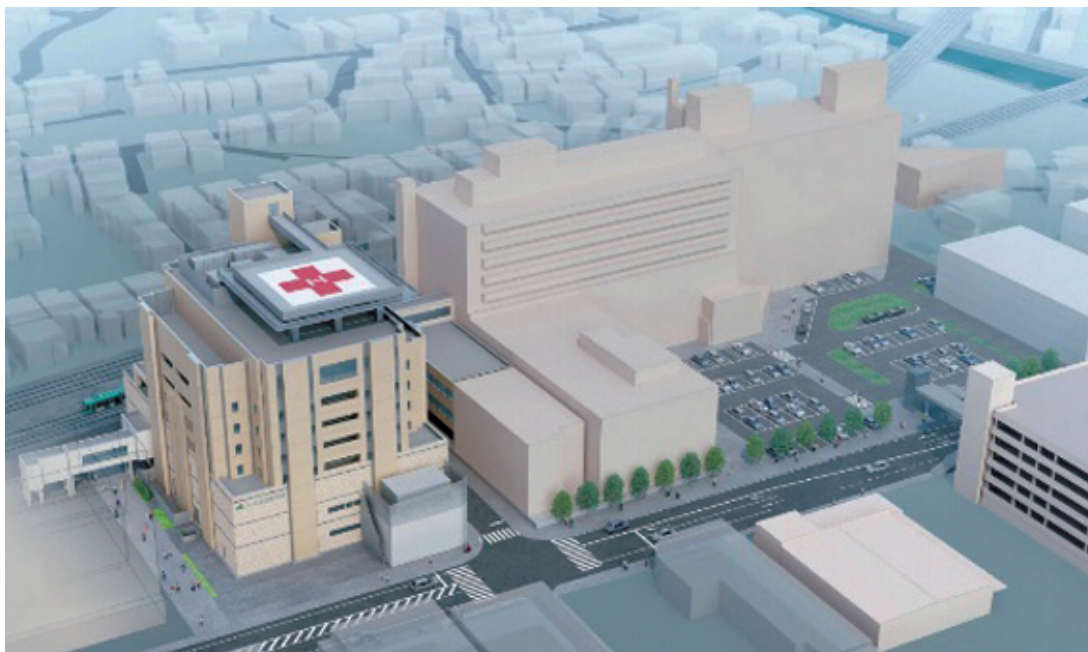
2012 年 4 月、大会議室、院長所信表明。『この病院を日本一にします。5 年後には病院を建て替えます』と声高らかに宣言した。直後、大会議室は水をうったようにシーンと静まり返った。新病院建設の話は時期尚早であり、職員にはまだ夢物語なのだろうなと思った。しかしその夜、安芸グランドホテルで開かれた全員懇親会で、渡正伸、大下彰彦が『日本一は目標が低いのではないか、世界一を目指しましょう！』

と言ってくれた。病院運営は院長単独では無理。小深田義勝院長補佐、中尾正和副院長（その後、統括副院長）、徳毛宏則副院長、馬場崎喜美子看護部長、青木晴美事務長に協働をお願いした。船を漕ぎだすためには、優秀な船頭と漕ぎ手は必須である。

航海には嵐はつきものである。院長就任 1 年目に最初の嵐に見舞われた。広島厚生連の経営悪化による職員ボーナスカット。黒字病院である広島総合病院の職員を含むボーナスカットである。信じがたい話である。臨時の運営委員会で討議、中光篤志、石田和史が『厚生連を背負っているのは広島総合病院である。われわれが頑張るしかない』と発言してくれた。危機感の共有ができた。その年、外科系は手術件数、内科系は入院患者数の増加が実現。最終的に約 7 億円の黒字を計上することができた。広島総合病院は文字通り広島厚生連を支えたのである。以後、広島総合病院は黒字路線を確保している。嵐は広島総合病院の団結を強くしたのである。

広島総合病院には耐震性のない建物が少なくない。もっとも古い管理棟（院長室、医局、大会議室、事務室、臨床・放射線検査室、糖尿病センターなどが入っている建物）は築 50 数年、ビートルズがデビューした年に建てられた歴史的な建物である。震度 6 以上の地震が発生した場合、真っ先に倒壊するのが管理棟である。安心かつ安全な地域医療を継続するには、災害にも負けない新病院の建設が喫緊な課題であった。一方、廿日市市は国交省の援助を受けて、コンパクトシティ構想を宮島・宮島口、宮島サービスエリア周囲地で展開していた。それぞれ観光、産業を主体とするプロジェクトであった。ゆめタウン廿日市の開設とともに病院西隣地のイオンが撤退することになった。2014 年、医療と介護を基盤とする廿日市医療拠点整備計画（廿日市メディカルタウン構想）が、廿日市市、広島厚生連、広島総合病院の三者で締結された。新病院構想は夢物語ではなくなったのである。

2022 年 2 月、イオン跡地に官民複合施設、廿日市市多世代サポートセンターが竣工する。将来、新病院と官民複合施設は連結される。地域医療日本一の病院になるための準備は着々と進んでいる。



新病院完成予想図

2022年2月には病院西隣には官民複合施設、サ高住が完成する。新病院の誕生によって、広島西医療圏の医療と介護のセンターとして、地域医療の先駆的なモデルとなるであろう。



虹のかなたへ

昨夏、新型コロナ第5波の波を乗り越えてシーカヤック・ツアーに出た。大野港から出発、対岸の宮島に渡った。大鳥居をくぐり抜けたところで大鳥居の上に虹が出現、広島総合病院の将来を啓示する素晴らしいシーンにめぐり合うことができたのである。

中尾センター長に感謝状が贈呈されました

3月24日、救急救命士の指導に携わるなど、救急業務の発展に貢献したとして中尾正和廿日市休日夜間急患センター長・麻酔科主任部長に廿日市市より感謝状が贈呈されました。

中尾センター長は、廿日市市の救急救命士の指導医師として、18年間実技指導を行うなど、救急隊員

の知識と技術の向上に尽くされました。

感謝状を贈呈された中尾センター長は、「多くの消防署員と一緒に勉強してきました。引き続き、密に連携を取りながらいろいろな形でサポートしていきたい。」と話されました。



中尾センター長に松本市長から感謝状、清水消防長から花束が贈呈されました

広報はつかいち令和3年5月号より掲載

感染病棟に移動型 X 線装置「Tiara」 整備！

我が国の新型コロナウイルス感染症政策の一環である「新型コロナウイルス感染症 重点医療機関等設備整備」制度を利用して、移動型 X 線装置「Sirius Starmobile Tiara」を 2 台整備しました（図 1）。一般病棟と感染病棟の装置を区別することで院内感染拡大のリスク低減が目的です。

本装置は、X 線発生装置と画像処理 PC が一体のため、消毒や充電など簡便に行えます。病室入口や狭いベッドサイドでも小回りのきく旋回操作で素早く反応します。静音設計モーター搭載のため、夜間走行でも静かで患者に優しい配慮がなされています。最大の特徴は、大きく見やすい 15 インチモニターで、ワイヤレス FPD（フラットパネルディテクタ）で撮影後、わずか数秒で画像確認できるため緊急を有する現場でも迅速に対応可能です。

また、院内全てのポータブル撮影において最新の画像検出器である FPD を使用でき、被ばくの低減や同一画像処理が可能となりました。ワンタッチで画像処理（カテ強調画像、ガーゼ強調画像）を変更することができ、術後の異物チェックや病室での胃管の確認、末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）の挿入時などに大いに役立っています（図 2）。

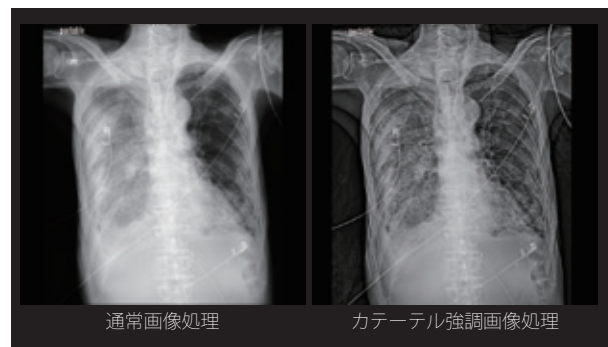
当初、新型コロナウイルス感染症のフォローは、3 日に 1 回の胸部ポータブル撮影で行っていました。しかし、進行の早い変異株による感染拡大をうけて、2 日に 1 回のフォローを行っています（図 3）。

未知なる感染症の対応には苦労しましたが、各検査の感染対策を見直すきっかけにもなりました。

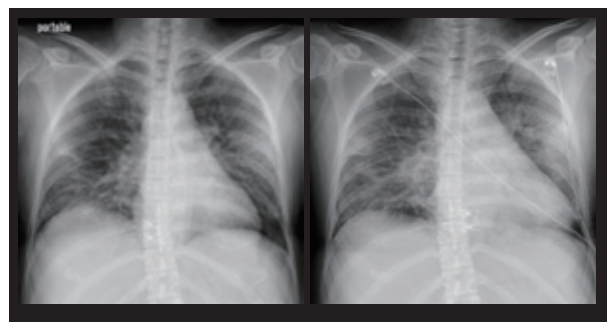
一日も早い、新型コロナウイルス感染症の終息を願うばかりです。



（図 1）病棟に設置された「Sirius Starmobile Tiara」



（図 2）PICC 挿入時のカテーテル先端位置が一目瞭然



（図 3）2 日間で悪化した肺炎の胸部ポータブル画像

新型コロナウイルス感染症の早期探知に尽力 ～ SARS-CoV-2 PCR 検査を院内で開始～

新型コロナウイルス感染症の臨床診断は PCR 検査が基本です。臨床研究検査科では、COVID-19 を早期探知する目的で、2020 年 3 月より SARS-CoV-2 の PCR 検査を院内検査として開始しました。

早期に PCR 検査を開始できた理由として、遺伝子検査実施のための設備が整っており、新たに機器を購入する必要がなかったことが挙げられます。しかし、既存のリアルタイム PCR 装置は導入から 15 年が経過し、すでに劣化が著しい状況であり、さらに大量検体を処理するには不向きな機器であったため、2020 年 6 月にリアルタイム PCR 装置「Thermal Cycler Dice Real Time System III」が変更されました。この装置は最大 96 テストを測定でき、大量検体の同時測定が可能となりました。また、SARS-CoV-2 の変異株解析も本装置にて実施しています。



図 1. リアルタイム PCR 装置

休日・夜間の緊急時にも対応するため、簡易型遺伝子解析装置「SmartGene」も導入し、24 時間 PCR 検査が実施できる検査体制を構築しました。

両装置は COVID-19 疑い時のみならず、予定手術前や入院前、転院前の PCR 検査にも活用され、患者様と病院のために多大な貢献をしています。

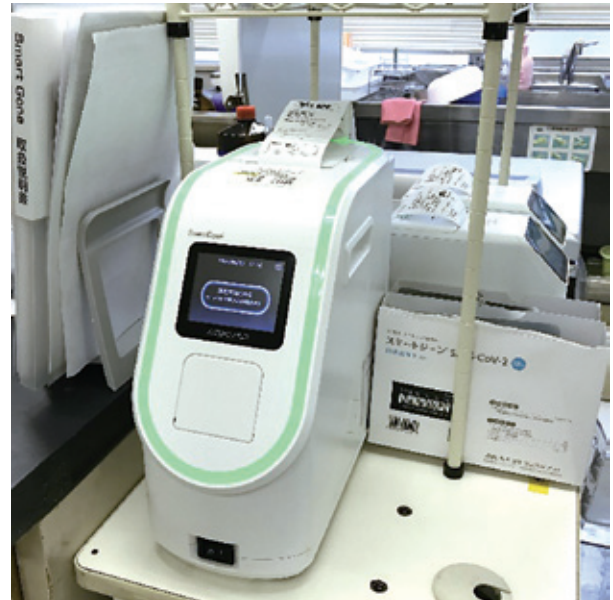


図 2. 簡易型遺伝子解析装置

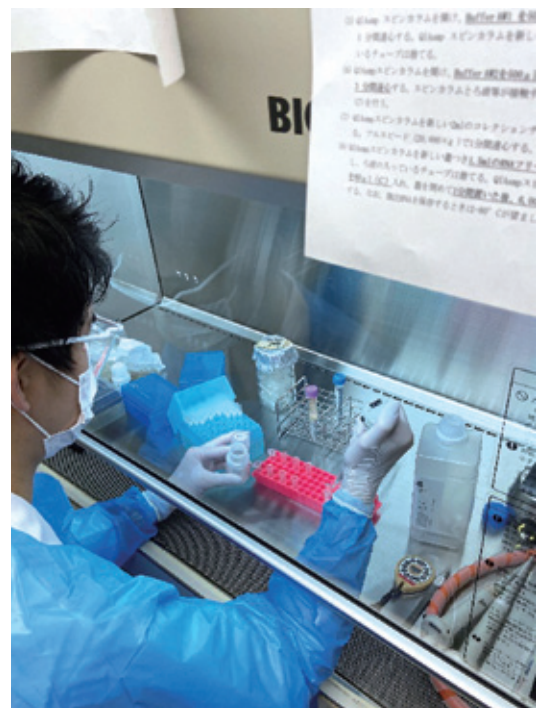


図 3. 測定風景

感染防止対策室 (ICT) 活動報告

■ ICT、AST とは

ICT とは、(Infection Control Team：感染制御チーム) の略称で、患者やその家族、職員など病院に関わるすべての人を感染から守るために、組織横断的に感染防止対策活動を行う実働部隊のことです。

また、AST とは、(Antimicrobial Stewardship Team：抗菌薬適性使用支援チーム) の略称で、感染症の治療効果を高め、耐性菌の出現を抑えるために検査や抗菌薬の適正使用について支援するチームのことです。

両チームとも、メンバーは感染制御の専門的な知識を持った医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務員で構成され、ICT メンバーが AST を兼務し、院内活動を行っています。今年度は、メンバーの変更もあり、新しいチームで院内感染対策活動に取り組みました。

■ (新) ICT・AST コアメンバー紹介

渡 正伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)
 近藤 丈博 (呼吸器内科医師)
 正畠 和美、角井 碧 (感染制御認定薬剤師)
 池部 晃司 (臨床検査技師)
 今本 紀生、平本 廉昂 (感染管理認定看護師)
 堤 昂志 (事務：医事課)

※「____」が今年度の新しいメンバー



■ 主な院内活動

1. 病院内における感染伝播の予防・対策
2. 感染対策における教育活動
3. 抗菌薬の適正使用に関する取り組み
4. 職員への感染防止対策
5. 衛生材料や病院設備 (空調、清掃など)
6. 院内感染対策ラウンド、ミーティング (週 1 回)



■ 主な院外活動 (地域連携活動)

【加算関連】

- ・ 8 つの連携施設と年 4 回の合同カンファレンス
- ・ 広島西医療センターと連携し、年 1 回相互ラウンド

【その他】

- ・ 広島県感染症支援チームからの派遣要請対応
→ 新型コロナウイルス感染症のクラスター発生施設の視察と感染対策指導
- ・ 院外研修会の講師担当

■ 新型コロナウイルス感染症流行期における ICT の役割と活動の実際

当院でも昨年度より、新型コロナウイルス感染症 (以下、COVID-19) の患者受け入れを開始しました。それに際し、特に COVID-19 受け入れ病棟の対応スタッフへの感染対策指導 (PPE の着脱、ゾーニングについて、手指衛生の徹底等) を強化し、自分達の安全を確保しながら COVID-19 陽性者の対応に当たっています。

また、スタッフのメンタルサポートも大きな問題の一つであると考えます。COVID-19 に対する職員の過度の不安や恐怖、緊張は患者ケアなどに影響を及ぼす可能性も考えられます。ICT としては、錯綜する情報、不確実な情報の選別をし、現場の声に向き合い不安を解消することを意識しながら、「院内クラスター防止」に向けて組織横断的に活動を続けました。

■ 今後の活動について

今後は、COVID-19 対応を継続するとともに、「広域抗菌薬、抗 MRSA 薬使用患者」「血液培養陽性患者」「その他感染徴候のある患者」などを対象に、感染症治療がスムーズに行えるよう、AST ラウンドを導入し介入していく予定です。

2020 年 4 月、広島総合病院内に 廿日市休日夜間急患センターがスタートしました

廿日市市休日・夜間急患診療所は佐伯地区医師会と廿日市市の主導で 2002 年から一次救急を担ってきました。2020 年 4 月に廿日市市総合健康福祉センター（あいプラザ）から広島総合病院内に移設され、新たに廿日市休日夜間急患センターとしてスタートしました。

これまでの急患診療所は二次三次救急を支える広島総合病院の負担軽減にも寄与してきましたが、病院から 1.3km 離れており、医師会からは「一次救急を安心かつ安全に行うためには、病院に隣接する場所で救急医療を行いたい」という要望がありました。今回の試みは廿日市市の『医療と福祉を基礎と

するまちづくり（廿日市メディカルタウン構想）』実現への第一歩です。

医療法上、経営母体は廿日市市から JA 広島厚生連に変更されましたが、従来通り地元医師会と薬剤師会で診療が行われています。開設時間も同一で、内科は月～土曜日の 19 時から 22 時、日曜祝日、年末年始は 9 時から 22 時までです。外科は月～金曜日の 19 時 30 分から 22 時です。

広島総合病院内で緊密な連携のもと、これからも更なる安心の救急医療を提供して参ります。ご支援ください。



ホスピタルアートが完成しました

令和2年10月2日に病院南棟2階の小児科や皮膚科などの外来待ち合いスペースの壁や柱にホスピタルアートが完成しました。

色彩プロデューサーの稲田恵子さんプロデュースの下、広島県出身、廿日市市在住のイラストレーターであり、作家である「にしもとおさむ」さんにより手掛けられました。

縦2.5メートル、横25メートルにわたり、1週間かけて描かれました。

テーマは「癒しから憩う場所へ」で、小鳥のさえずり、ネズミやフクロウ、ハチなどが木の枝の上で楽しそうにくつろぐ様子を描写しています。

ホノルルブルーと白の2色の無害な塗料を使用しており、患者さんにも安心して見ていただくことができます。

院内に癒しの空間を作る取り組みとして、ホスピタルアートを取り入れる医療機関は増えつつあります。その理由として、外来待ち時間の不快感を軽減し、つらい治療へ向かう苦痛をほぐす効果がある一方、スタッフの意欲向上も期待されるからです。

当院もホスピタルアートの効果で、患者さんとその家族の不安を和らげ、職員にとっても癒される特別な場所になることを期待しています。



■ Annual Report 2020 2020年(令和2年)度 年 報 ■

病 院 の 概 要

病院概況

病院基本理念

私たちは人間愛に基づいた医療を実践し地域社会に貢献します

基本方針

- 1 地域の医療機関と密接に連携した医療を提供します
- 2 医療の安全性を高め安心できるチーム医療を提供します
- 3 最新の知識と技術を習得し質の高い医療を提供します
- 4 説明と同意に基づき人権を尊重した医療を提供します

病院の概要

病院名	広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院
所在地	〒738-8503 広島県廿日市市地御前1丁目3番3号 TEL (0829)36-3111 FAX (0829)36-5573
開設年月日	1947年12月23日
許可病床数	531床（一般）
開設者	広島県厚生農業協同組合連合会 代表理事 岡田仁志
病院長	松原昭郎

区分	敷地面積	建物延面積
病院	12,825.33㎡	32,123.09㎡
住宅地	3,967.47㎡	3,632.41㎡
計	16,792.8㎡	34,815.15㎡

診療科目 (計37科)	内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、内視鏡内科、腎臓内科、糖尿病・代謝内科、緩和ケア内科、化学療法内科、神経内科、精神科・心療内科、小児科、小児アレルギー科、外科、消化管外科、肝・胆・膵外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓・血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんご科、リハビリテーション科、麻酔科、救急科、腹部救急科、脳血管救急科、心臓血管救急科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、歯科口腔外科、形成外科
----------------	---

西棟		階	東棟	
呼内・総診・放射線治療科	60床	8		
内(消化器)・画像診断部	55床	7	呼外・心外・糖内	52床
外	55床	6	泌・皮・腎	51床
整形外科	55床	5	脳外・歯科口腔外科	52床
産婦・乳外・ドック	46床	4	小・耳・眼	43床
地域救命救急センター	16床	3	内(循環器)・心外	46床
計	287床			244床
計531床				

指定等	<ul style="list-style-type: none"> ・病院群輪番制病院 ・災害拠点病院 ・脳死臓器提供病院 ・救急指定病院（救急告示番号第374号） ・臨床研修指定病院 ・地域医療支援病院 ・地域がん診療連携拠点病院 ・DPC対象病院 ・地域救命救急センター ・へき地医療拠点病院
併設事業所	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護ステーション ・居宅介護支援事業所

施設基準	<div>■基本診療料</div> <div>・初診料（歯科）の注1に掲げる基準</div> <div>・歯科外来診療環境体制加算1</div> <div>・一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）</div> <div>・総合入院体制加算2</div> <div>・救急医療管理加算1</div> <div>・救急医療管理加算2</div> <div>・超急性期脳卒中加算</div> <div>・診療録管理体制加算1</div> <div>・医師事務作業補助体制加算1（15対1）</div> <div>・急性期看護補助体制加算（25対1看護補助者5割未満）</div> <div>・看護職員夜間配置加算（12対1配置加算1）</div> <div>・療養環境加算</div> <div>・重症者等療養環境特別加算</div> <div>・栄養サポートチーム加算</div> <div>・医療安全対策加算1（地域連携加算1）</div> <div>・感染防止対策加算（地域連携加算・抗感染薬正使用支援加算）</div> <div>・患者サポート体制充実加算</div> <div>・ハイリスク妊娠管理加算</div> <div>・ハイリスク分娩管理加算</div> <div>・後発医薬品使用体制加算3</div> <div>・病棟薬剤業務実施加算1</div> <div>・病棟薬剤業務実施加算2</div> <div>・データ提出加算</div> <div>・入院費支援加算（地域連携診療計画加算・入院時支援加算）</div> <div>・認知症ケア加算1</div> <div>・せん妄・ハイリスク患者ケア加算</div> <div>・精神疾患診療体制加算</div> <div>・地域医療体制確保加算</div> <div>・救命救急入院料1</div> <div>・特定集中治療室管理料3</div> <div>・小児入院医療管理料4</div> <div>・短期滞在手術等基本料2</div> <div>■特掲診療料</div> <div>・遠隔モニタリング加算（ペースメーカー指導管理料）</div> <div>・糖尿病合併症管理料</div> <div>・がん性疼痛緩和指導管理料</div> <div>・がん患者指導管理料イ</div> <div>・がん患者指導管理料ロ</div> <div>・がん患者指導管理料ハ</div> <div>・がん患者指導管理料ニ</div> <div>・糖尿病透析予防指導管理料</div> <div>・乳腺炎重症化予防・ケア指導料</div> <div>・地域連携夜間・休日診療料</div> <div>・外来放射線照射診療料</div> <div>・ニコチン依存症管理料</div> <div>・療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算</div> <div>・開放型病院共同指導料</div> <div>・ハイリスク妊娠共同管理料（1）</div> <div>・がん治療連携計画策定料</div> <div>・肝炎インターフェロン治療計画料</div> <div>・薬剤管理指導料</div> <div>・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料</div> <div>・医療機器安全管理料1</div> <div>・医療機器安全管理料2</div> <div>・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料</div> <div>・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定</div> <div>・遺伝学的検査</div> <div>・BRCA1/2遺伝子検査</div> <div>・HPV核酸検出及びHPV核酸検出（陽性/ジェノタイプ判定）</div> <div>・検体検査管理加算（IV）</div> <div>・遺伝カウンセリング加算</div> <div>・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト</div> <div>・ヘッドアップディスプレイ試験</div> <div>・小児食物アレルギー負荷検査</div> <div>・画像診断管理加算1</div> <div>・CT撮影及びfMRI撮影</div> <div>・冠動脈CT撮影加算</div> <div>・心臓MRI撮影加算</div>	<div>・抗悪性腫瘍剤処方管理加算</div> <div>・外来化学療法加算1</div> <div>・無菌製剤処理料</div> <div>・心大血管疾患リハビリテーション料（1）</div> <div>・脳血管疾患等リハビリテーション料（1）</div> <div>・運動器リハビリテーション料（1）</div> <div>・呼吸器リハビリテーション料（1）</div> <div>・がん患者リハビリテーション料</div> <div>・リンパ浮腫複合的治療料</div> <div>・歯科口腔リハビリテーション料2</div> <div>・人工腎臓</div> <div>・導入期加算1</div> <div>・下肢末梢動脈疾患指導管理加算</div> <div>・CAD/CAM冠</div> <div>・組織拡張器による再建手術（乳房再建手術の場合に限る）</div> <div>・後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）</div> <div>・椎間板内酵素注入療法</div> <div>・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術</div> <div>・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）</div> <div>・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）</div> <div>・乳癌悪性腫瘍手術（乳癌乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳癌乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの））</div> <div>・乳房充損人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）</div> <div>・食道縫合術（穿孔・漏瘻（内痔瘻によるもの）、内痔瘻下置、十二指腸穿孔穿孔閉鎖術、胃腸吻合術（内痔瘻によるもの）、等</div> <div>・経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）</div> <div>・胸腔鏡下弁形成術</div> <div>・胸腔鏡下弁置換術</div> <div>・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術</div> <div>・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）</div> <div>・両室ペースメーカー移植術及び両室ペースメーカー交換術</div> <div>・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜き術</div> <div>・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術</div> <div>・大動脈/バルーンポンピング法（IABP法）</div> <div>・経皮的下肢動脈形成術</div> <div>・腹腔鏡下十二指腸腸切除術（内視鏡処置を併施するもの）</div> <div>・胆管悪性腫瘍手術（第12指腸切除及び肝切除（胆以上）を伴うものに限る。）</div> <div>・体外衝撃波胆石破砕術</div> <div>・腹腔鏡下肝切除術</div> <div>・体外衝撃波胆石破砕術</div> <div>・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍摘出術</div> <div>・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術</div> <div>・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術</div> <div>・膀胱水圧拡張術</div> <div>・腹腔鏡下膀胱癌悪性腫瘍手術</div> <div>・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術</div> <div>・腹腔鏡下仙骨骨固定術</div> <div>・輸血管理料II</div> <div>・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算</div> <div>・麻酔管理料（I）</div> <div>・麻酔管理料（II）</div> <div>・放射線治療専任加算</div> <div>・外来放射線治療加算</div> <div>・高エネルギー放射線治療</div> <div>・1回線量増加加算</div> <div>・画像誘導放射線治療（IGRT）</div> <div>・体外照射呼吸性移動対策加算</div> <div>・直線加速器による放射線治療（定位放射線治療）</div> <div>・定位放射線治療呼吸性移動対策加算</div> <div>・病理診断管理加算1</div> <div>・悪性腫瘍病理組織標本加算</div> <div>・口腔病理診断管理加算1</div> <div>・パクリタキセル静注内投与及びカルボプラチン腹腔内投与の併用療法</div>
認定	日本医療機能評価機構（一般病院2 Ver.1.1） DMAT 指定医療機関（災害派遣医療チーム）	

2020年4月1日現在

JA 広島総合病院のあゆみ

昭和21年6月、佐伯郡内の町村長および町村農業会長の代表の方々が県農業会を訪れ、廿日市方面の緊急対策として、原子爆弾による負傷者に対する医療施設を設置するよう強い働きかけがあった。そのため、佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して、地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し、農業会病院の誘致を決定する。

昭和22年12月23日、4診療科、スタッフ総員20名、60床の病床を有する農業会佐伯病院として開設された。その後、昭和37年と40年に相次いで増床と診療体制の充実を図り、昭和41年には総合病院の認可を受け、名称も佐伯総合病院と改称された。

爾来、同地域は広島市のベッドタウンとして開発が進み、診療圏人口の増加に伴って施設の狭隘化を来したため、昭和54年には大幅な増改築が行われ、これを機会に名称も現在の広島県厚生農業協同組合連合会 広島総合病院と改められた。その後更なる人口増加に伴う医療需要の増大により、地域の中核的病院の性格をもつに至り、昭和55年には二次救急病院の指定を受け、また昭和59年および平成元年には増築増床工事が実施され430床となる。

更に平成9年5月には、施設の狭隘化と老朽化に対する対策として、新棟建設と既存棟の改築工事が開始され、平成10年10月末に新棟完成、平成12年2月には全工事が完了し、同年4月より578床となる。その後透析用ベッドへの転用により平成15年に570床、外来化学療法用ベッドへの転用により平成20年に561床となる。

広島西二次保健医療圏の三次救急患者への速やかな高度医療の提供と、広島都市圏域全体の救急医療体制の充実強化のため、平成22年8月から平成23年2月にかけて救急棟新築工事が行われ、平成23年4月には「地域救命救急センター」19床を開設した。

昭和21年	8月	佐伯郡37ヶ町村および農業会が出資して地御前村元旭兵器(株)の工員宿舎を買収し農業会病院の誘致を決定
昭和22年	12月	診療科目(内科・外科・耳鼻科・歯科)、病床数60床、職員20名で広島県農業会佐伯病院として発足
昭和23年	4月	婦人科開設
昭和23年	6月	眼科新設
昭和24年	12月	結核病棟開設(一般49床、結核11床)
昭和25年	5月	外来診療室拡張のため(一般44床、結核11床)計55床に変更
昭和26年	3月	一般病床25床、結核病床25床計50床に変更
昭和29年	6月	一般病床37床、結核病床42床計79床に変更
昭和31年	7月	小児科新設
昭和37年	1月	病棟増築(一般130床、結核20床)
昭和37年	6月	皮膚泌尿器科新設
昭和37年	7月	整形外科新設
昭和40年	2月	病棟増築(一般160床、結核20床)
昭和41年	2月	総合病院の認可を受け、佐伯総合病院となる
昭和49年	9月	結核病床20床一般病床へ転用、16床増床し196床に変更
昭和54年	1月	脳神経外科新設、皮膚泌尿器科が分離独立し皮膚科・泌尿器科となる
昭和54年	4月	現在の広島県厚生農業協同組合連合会広島総合病院に名称変更
昭和55年	2月	第二次救急医療指定病院となる
昭和59年	7月	病棟増築100床(一般370床)
昭和60年	4月	麻酔科新設
昭和60年	9月	放射線科(治療部門)新設
昭和60年	10月	放射線治療棟完成
昭和63年	4月	心臓血管外科新設
昭和63年	7月	放射線科(診断部門)開設
平成元年	4月	精神科・心療内科新設
平成元年	4月	大竹市栗谷診療所の委託運営開始
平成元年	6月	病棟増築60床(430床)
平成2年	8月	形成外科新設
平成2年	11月	MRI棟完成
平成4年	3月	院内保育園開園
平成6年	5月	訪問看護ステーション開設
平成9年	2月	災害拠点病院指定
平成9年	9月	オーダーリングシステム稼働
平成10年	9月	広電・JA広島病院前駅開業式
平成10年	10月	新館西病棟落成
平成11年	4月	病棟増床59床(489床)
平成11年	11月	居宅介護支援事業所開設
平成12年	4月	病棟増床89床(578床)
平成12年	6月	開放型病床(20床)届出
平成13年	10月	呼吸器外科新設
平成15年	2月	一般病床8床を透析用ベッドに転用(570床)
平成15年	10月	臨床研修指定病院指定
平成16年	8月	地域医療支援病院
平成18年	8月	地域がん診療連携拠点病院指定
平成18年	8月	電子カルテシステム稼働
平成20年	4月	一般病床9床を外来化学療法用ベッドに転用(561床)
平成21年	4月	DPC対象病院
平成22年	4月	センター制度の導入(救急センター、循環器・呼吸器疾患センター、一般外科治療センター、健康管理センター、急性期リハビリテーションセンター)
平成23年	4月	神経内科新設
平成23年	4月	地域救命救急センター開設(19床)
平成23年	9月	へき地医療拠点病院
平成25年	2月	糖尿病センター
平成25年	4月	医療福祉支援センター
平成25年	4月	脊椎脊髄センター
平成25年	10月	内視鏡センター
平成26年	4月	電子カルテシステム更新
平成26年	10月	廿日市市地域医療拠点等整備に関する基本協定調印
平成26年	11月	第3駐車場運用開始
平成28年	10月	救命センターHCU病床の高規格化(ICU整備)のため、3床一般病床へ変更
平成28年	11月	老朽化に伴い医師住宅・看護師宿舎解体(平面駐車場整備)
平成30年	4月	総合診療科開設
平成30年	9月	外来化学療法治療室を東8階へ移設
平成30年	10月	病棟減少30床

呼吸器内科

■ スタッフ

主任部長 近 藤 丈 博 (1999 年卒)

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会専門医

部 長 大 月 鷹 彦 (2007 年卒)

日本呼吸器学会専門医

日本内科学会専門医

医 員 中 村 貴 志 (2015 年卒)

日本内科学会認定医

■ 診療科紹介

当科では肺がん代表される悪性腫瘍の診療だけでなく、多様な呼吸器疾患に伴う急性、慢性の呼吸不全や生理学的な呼吸機能障害、能力障害、社会的ハンディキャップに対する広い意味での医療的な支援形成を目指しています。今後は急性期にとどまらず、慢性期の治療とケア、リハビリテーション、在宅呼吸ケアなどと広がる有機的な支援体制が一層必要となってきました。「包括ケア」というキーワードは、このような状況から必然性を持って浮上してきました。この10年余りでICU、一般病棟、在宅での人工呼吸が大きく変遷しつつあります。1990年代半ばから非侵襲陽圧換気療法（NPPV）の導入が始まり、現在では慢性呼吸不全急性増悪時の人工呼吸の第一選択がNPPVとなり、スタッフの習熟とともに、一般呼吸器病棟でも当たり前のよう導入されるようになりました。そのような状況を背景として今後、急性期から慢性期にかけて「包括的呼吸ケア」という概念は今後一層の重要性を増してくるものと考えます。当科ではこのような時代の要請に合わせて、医師だけでなく病棟スタッフの教育・指導を行っています。

当科では以下のように呼吸器疾患の加療にあたっています。

【肺がん】

肺がんの治療法はここ数年でめざましい進歩を上げています。イレッサを始めとする分子標的薬剤は、耐性遺伝子を標的とした第3世代のEGFR-TKI（タグリッソ）の時代を迎え、また、ALK阻害薬もアレセ

ンサを始めめざましい生存期間延長をもたらしています。さらに2016年から臨床現場で使用可能となった免疫チェックポイント阻害薬（オプジーボ、キイトルーダ）は医療経済的な問題をはらんでいるものの、従来EGFR-TKIやALK阻害薬の恩恵にあずかることのなかった扁平上皮癌の患者さんを中心に大きな利益をもたらすこととなりました。当院呼吸器内科ではこれらの新規薬剤を積極的に導入し、全国的に見ても高い水準の肺癌治療が行える体制を整えています。また当院では初診から治療まで呼吸器外科と放射線治療部と連携し最速で2週間程で診断後治療に入れます。市内の大病院では治療まで一ヶ月前後かかるにもかかわらず、まだまだこの地域の患者さん達は市内の病院へ目を向けていると思われる。当院も市内と変わらないレベルの治療を行うことができることを知っていただき、もっと当院で肺がんの方を診てあげることができればと思います。

さらに、当院では超音波気管支鏡検査、局所麻酔下胸腔鏡などの最新の診断・治療技術を積極的に導入しています。



局所麻酔下胸腔鏡による実際の処置中の写真

【感染症】

当科で扱うのは主に肺炎です。高齢化の影響で誤嚥性肺炎なども多く、繰り返される傾向にあり最近では治療に難渋する傾向があります。また肺結核を早期診断し、外来加療を行ったり結核病棟のある病院への紹介も行っています。また最近増加している非結核性抗酸菌症の加療も行っています。

【気管支喘息】

吸入ステロイドの普及に従い、10年前と比べ喘息死は半数以下となっていますが、まだまだ吸入ステロイドは普及していないように思います。大学などと連携し、この地域の喘息患者さんに良い治療があることを知ってもらうことが大事だと思っています。

【COPD（慢性閉塞性肺疾患）：肺気腫、慢性気管支炎など】

マスコミを通じての啓発運動により、ここ数年でだんだんこの疾患名も知られてきました。日本人の場合は喫煙が原因です。当院では早期診断し、吸入薬などによる加療や必要に応じて在宅酸素療法の導入を行っています。

【びまん性肺疾患】

特発性間質性肺炎などです。早期診断し、薬物が効くタイプを鑑別するのが大事ですが当科では気管支鏡や画像診断で早期発見に努めています。

【睡眠時無呼吸症候群】

外来または入院でPSG検査を行い耳鼻咽喉科とも連携しつつ、CPAP等の導入を行っています。最近では徐々にCPAP治療をされる開業医の先生方も増えてこれたので逆紹介も行いたいと思っています。

その他にも様々な分野の呼吸器の疾患がありますが、当科は広島大学病院呼吸器内科や市中の病院の呼吸器科と連携を図り、最新の知見を吸収しつつ広島県西部地区の医療に貢献できればと思っています。

循環器内科

■ スタッフ

心臓血管内治療科主任部長

辻 山 修 司

日本循環器学会専門医

主任部長 前 田 幸 治

日本循環器学会専門医

CVIT 指導医

主任部長 (心臓カテーテル室担当)

荘 川 知 己

日本循環器学会専門医

日本内科学会専門医

主任部長 (不整脈担当)

渡 邊 義 和

日本循環器学会専門医

日本不整脈心電学会専門医

医 員 赤 澤 良 太

日本循環器学会専門医

医 員 藤 原 敬 士

日本循環器学会専門医

医 員 吉 富 勇 輝

■ 診療科紹介

2020 年 3 月現在、総勢 7 名の科です (日本循環器学会専門医 6 名・日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名)。また日本循環器学会認定循環器および心血管インターベンション学会研修施設です。

対象となる主な疾患は、心筋梗塞・狭心症などの冠動脈疾患、心不全、高血圧、高脂血症、不整脈などの循環器疾患の診断と治療を行っています。

バイパス術、弁置換術など外科的治療が必要な場合は、心臓血管外科医との合同カンファレンスで治療方針を検討しています。また、開業医の先生方との病診連携に重点を置き、年 2 回の病診連携の会や開業医の先生向けの講演会を開催し、その連携を深めています。

心臓いきいき推進事業の中核病院のひとつとしての活動も始まっています。

また、地域に貢献出来るよう急性期循環器疾患に対して夜間も待機体制をとり、地域救命救急センターの循環器領域を担っています。

【診療実績】

2020 年度の当科の実績を表に示します。2020 年は、心臓カテーテル検査 (診断を含) 301 例を施行し、そのうち経皮的冠動脈カテーテルインターベンション (PCI) 症例 257 例で、急性心筋梗塞例も 59 件含まれています。また PCI 時には狭窄部の形態・プラーク性状分析、適切なステント留置・薬剤溶出性バルーンのため血管内超音波 (IVUS) をほぼ全症例で使用しています。

高度の冠動脈石灰化病変に対して Rotablator も施行しています。大動脈内バルーンパンピング (IABP)、経皮的心肺補助装置 (PCPS) も重症例には施行しています。

末梢血管の閉塞性動脈硬化症に関しても心臓血管外科と協力して、血管内治療を積極的に行っています。

	2020
年間延べ入院患者数	829
急性心筋梗塞	118
【生理学的検査】	
運動負荷試験	37
ホルター心電図	472
経胸壁心エコー	5554
経食道心エコー	141
【心臓カテーテル検査】	
心臓カテーテル検査総数	301
緊急カテーテル治療 (PCI)	109
待機的 PCI	148
【末梢血管カテーテル治療】	
経皮的末梢血管形成術 (PTA)	25
経皮的腎動脈形成術 (PTRA)	1
【不整脈関連】	
カテーテルアブレーション	88
ペースメーカー (ICD 含) 植込み	45
【非侵襲的冠動脈検査】	
心臓核医学検査	477
冠動脈 CT	505
【心臓リハビリ】	
急性心筋梗塞/心不全	605

また非侵襲的検査も多数実施しています。心臓 CT 検査（カテーテル検査数に匹敵する 505 例）、心臓核医学検査（477 例）を施行し、カテーテル検査の補助診断として活用しています。また 5554 件を超える心臓超音波検査や 141 例の経食道心エコー検査、ホルター心電図の検査も 472 例施行しています。

また、渡邊 Dr を中心に特に心房細動を主としたカテーテルアブレーションも 88 例施行し、近隣からの相談・紹介も増えてきました。

また、心臓いきいき推進事業の柱として心臓リハビリを積極的に進め、新規に 605 例の実績でした。

【将来展望】

心臓いきいき推進事業の中核病院のひとつとして、現在も循環器領域の救急患者に対応しており、今後も適切かつ積極的な医療活動を行っていきます。

腎臓内科

■スタッフ

主任部長 荒川 哲次 (1998年広島大学卒業)
 日本内科学会総合内科 (専門医・指導医)
 日本腎臓学会・透析医学会 (専門医・指導医)
 部長 下田 大紀 (2009年関西医科大学卒業)
 日本内科学会総合内科 (専門医)
 日本腎臓学会・透析医学会 (専門医)
 医員 藤井 賢治 (2017年広島大学卒業)
 医員 山村 恒平 (2017年関西医科大学卒業)

■診療科紹介

2020年度より新開医師が広島大学の大学院に進学のため退任し、新たに山村医師が着任しました。先任の荒川・下田医師と合わせ4人体勢で診療を行いました。当院は日本腎臓学会研修施設および日本透析医学会教育関連施設に認定されています。

当科には広島西医療圏の医療機関の皆様から多くの患者さんを紹介して頂いています。原発性糸球体疾患・尿細管間質性疾患・嚢胞性腎疾患などの一次性腎疾患、高血圧・糖尿病・膠原病・血液疾患に伴う二次性腎疾患、およびその結果としての進行した慢性腎臓病はもちろん、急性腎障害、高血圧、電解質異常など、あらゆる腎臓内科疾患に対し幅広く診療に当たっています。

経皮的腎生検や画像診断に基づく疾患特異的な治療介入を積極的に行います。また、進行した慢性腎臓病に対しては薬剤科・栄養科と協力し進展抑制に心がけています。慢性腎臓病は心血管疾患の発症と生命予後に強く影響を与えることが多くの研究で明らかです。Renalism (腎臓原理主義：腎機能を気にするあまり積極的な合併症精査を遅らせること) に陥らないように他科の協力のもと、心血管疾患の一次～三次予防に努めています。

救急救命科のバックアップで急性腎障害や重症患者の血液浄化療法も可能です。急性腎障害のなかでも、慢性腎臓病の急性増悪での入院症例は多く、急性腎障害からの慢性腎臓病の移行・増悪を防止するという観点から適切なマネージメント、フォローアップを心がけています。



写真 当科での腎生検

血液透析においては14床の透析ベッドを臨床工学科とともに管理・運用しています。近年の高齢化社会を反映して糖尿病性腎硬化症と高血圧性腎硬化症の増加に伴い、ハイリスク導入例が増加しています。一方で透析非導入を希望する患者さんやご家族もおられ、看護科と協力して十分な情報提供と話し合いに基づいた意思決定を支援する体制をとっています。治療開始後も近隣の施設と連携いただき、シャントトラブルを含めた合併症対応を行っています。各種疾患に対するアフェレシス療法も積極的に行っています。また、患者家族との共有意思決定に基づき腹膜透析を推進しています。

■診療実績

2020年度実績

腎生検数	30例
血液透析件数 (延べ)	4042件
腹膜透析患者数	21名

■教育・研修活動

コロナ禍で規模は縮小されていますが、研究会および全国学会への聴講および発表、若手に対するセミナーなどへの積極的な参加を奨励しています。

糖尿病代謝内科・糖尿病センター

■スタッフ

主任部長 石田 和 史 (1986 年卒、1988 年 4 月～)
 副部長 濱岡 彩 (2013 年卒、2017 年 4 月～21 年 3 月)
 医員 由田 彩 佳 (2014 年卒、2018 年 4 月～)
 医員 山本 祐太郎 (2015 年卒、2019 年 4 月～21 年 3 月)
 日本糖尿病療養指導士：19 名

■診療状況

糖尿病 外来定期通院患者実数（一時的な受診者を除く）計 2,049 名（平均年齢 69.1 歳、平均罹病期間 18.5 年、平均通院期間 12.2 年、インスリン治療者の割合 33.5%）

1 型糖尿病 7.7%、2 型糖尿病 91.5%、その他 0.8%
 糖尿病入院患者 123 名／他科周術期管理 393 名

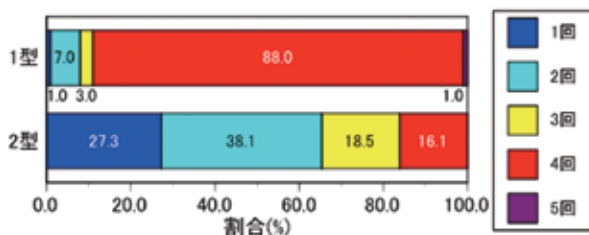


図1 インスリン注射回数の内訳(1型には緩徐進行型も含む)

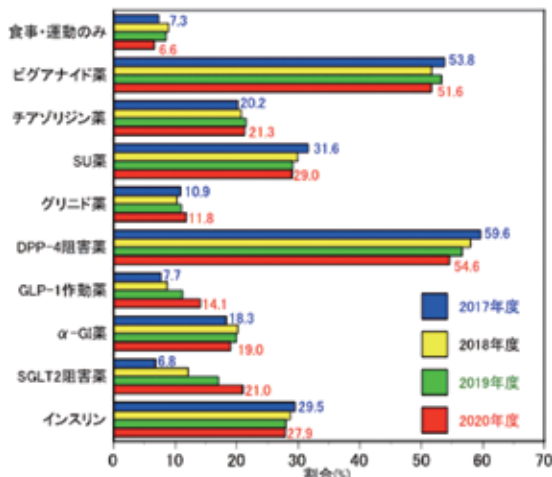


図2 2型糖尿病における治療内容の内訳(重複あり)

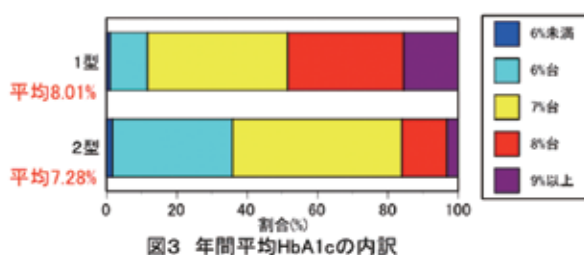


図3 年間平均HbA1cの内訳

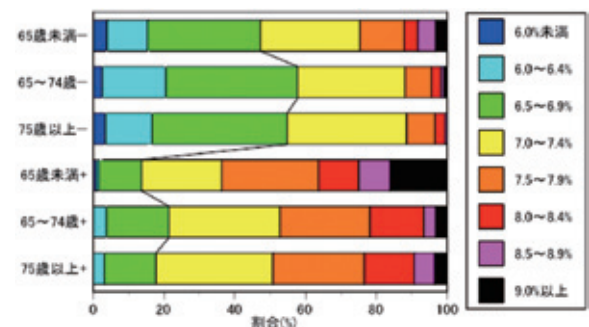


図4 2型糖尿病における年代別治療状況 (SU薬and/orインスリン使用:有→+, 無→-)

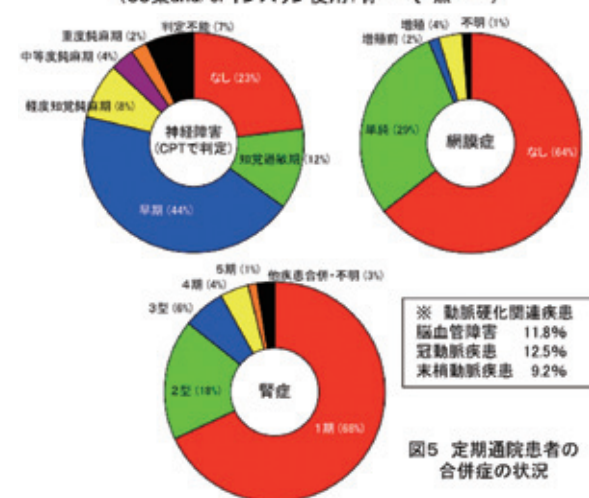


図5 定期通院患者の合併症の状況

甲状腺疾患 397 名（バセドウ病、慢性甲状腺炎のみ／糖尿病合併例を含む）※甲状腺腫瘍病変は他科で取り扱い

副腎疾患 132 名

■研究活動

研究テーマ

- 1) 電流知覚閾値検査 (CPT) を用いた糖尿病神経障害の病期および治療効果の評価（実臨床におけるインクレチン関連薬の神経障害進展阻止作用、アルドース還元酵素阻害薬との比較）
- 2) 体組成分析（インピーダンス法）を用いた臨床研究（体組成に着目した適正な糖尿病治療薬選択の究明）
- 3) CGM を用いた各種インスリン製剤の臨床効果の比較
- 4) シスタチン C を用いた SGLT2 阻害薬の糖尿病腎症に対する臨床効果の評価
- 5) 糖尿病患者における膵癌早期発見指標の探究

消化器内科

■ スタッフ

副院長、消化器内科主任部長、内視鏡センター長

徳 毛 宏 則 (Hironori Tokumo) 1980 年卒

消化器病学会専門医・指導医

消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長、消化器内科部長

相 坂 康 之 (Yasuyuki Aisaka) 1990 年卒

消化器病学会専門医・指導医

肝臓学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長（代謝領域担当）、消化器内科部長

兵 庫 秀 幸 (Hideyuki Hyougo) 1992 年卒

消化器病学会専門医・指導医

肝臓学会専門医・暫定指導医

膵・胆道内科主任部長、消化器内科部長

藤 本 佳 史 (Yoshifumi Fujimoto) 1993 年卒

消化器病学会専門医・指導医

膵臓学会認定指導医

食道・胃腸内科主任部長、消化器内科部長

古土井 明 (Akira Furudoi) 1993 年卒

消化器病学会専門医・指導医

消化器内視鏡学会専門医・指導医

肝臓内科主任部長（光学医療担当）

野 中 裕 広 (Michihiro Nonaka) 1997 年卒

消化器病学会専門医・指導医

肝臓学会専門医・暫定指導医

消化器内科部長

趙 成 大 (Songde Cho) 1998 年卒

消化器病学会専門医

消化器内視鏡学会専門医・指導医

医 員 石 橋 一 樹 (Kazuki Ishibashi) 2015 年卒

医 員 進 藤 源太朗 (Gentaro Shindo) 2016 年卒

医 員 山 下 未 紗 (Misa Yamashita) 2016 年卒

■ 診療科紹介とトピックス

当科の診療スタッフは総勢 10 名となっています。

消化器といっても多数の臓器があり、消化器内科が担当する疾患は多岐にわたります。当科では各臓器領域の専門指導医がスタッフ間で連携を取りながら診療にあたっており、すべての消化器疾患に適切に対応することができる体制となっています。

当科は、近隣の病院やクリニックとの連携に力を入れており、様々な勉強会、研究会共同活動を行っています。主な活動をあげると、RIGD Net（固い絆：地域相互消化器医師ネットワーク）、膵癌胆道癌教

室、広島胃瘻と経腸栄養療法研究会（広島ページェント）などです。これらの情報は末尾の JA 広島総合病院消化器内科フェイスブックから確認できます。これらの活動に加えて、廿日市市、佐伯地区医師会と共同で開始した、廿日市市胃内視鏡検診があります。これは業務委託を受けた佐伯地区医師会とともに当科が住民の胃がん検診を精度高く行うとする事業です。

当科では「膵臓がん胆道がん教室」という、患者さんやご家族を対象とした患者支援事業を行っています。当院医師や地域の先生方のみならず、多職種専門職とともに、毎月 2 回、全 4 回のシリーズで様々な催しを行っていましたが、今年度はコロナの為に中止を余儀なくされました。

肝臓領域では C 型肝炎に対する内服による抗ウイルス薬が引き続き行われており、8 週間から 12 週間という短い期間の治療で、治療効果は慢性肝炎から、非代償期肝硬変に関わらずほぼ 100% の高率になっています。

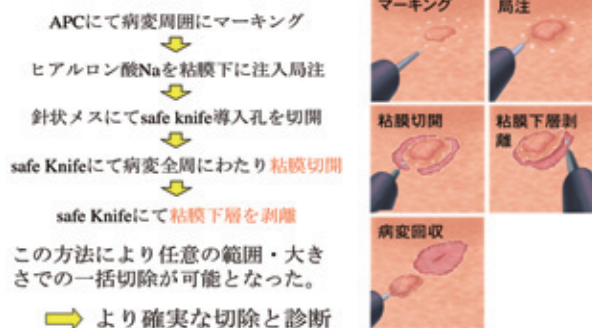
また、非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）や、非アルコール性脂肪性肝炎（NASH：ナッシュ）に対して NASH 専門外来を開設し、診療しています。さらに、全国多施設での共同研究を進めるとともに、糖尿病薬による NASH 改善の多施設共同の臨床研究なども進めています。

消化器内科のさまざまな検査処置を行う場である内視鏡センターでは、充実した内容の診療をしています。

内視鏡診断においては、新しい内視鏡の導入により、特殊光による観察や、拡大観察が可能となり、色素散布と併せて用いる事により微小病変の発見と共に診断の精度の向上に貢献しています。また、検診などでは経鼻内視鏡（細径内視鏡）など人に優しい内視鏡機器を使用しています。処置などの時には、安楽な内視鏡処置を目的として二酸化炭素送気による検査や、鎮静麻酔下なども積極的に行っています。

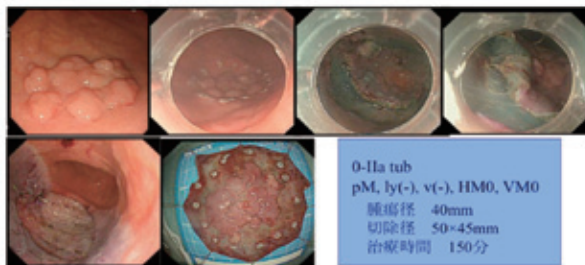
食道、胃腸といった消化管の分野では、早期癌等

内視鏡的膜下層剥離術 (ESD)



フェイスブック <https://www.facebook.com/GH.JAHGH>

80 歳代男性 (体下部大彎 40mm 大 IIa)



に対して内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD) という侵襲の少ない革新的な方法で癌切除を行っており、多くの患者さんに貢献しています。

また、胃瘻に関しては全国的に先進的な取り組みを行っている施設として知られています。

■ 研究活動

当科は、実地臨床の中で積極的に臨床研究を行い本誌別記のごとく多数の学会発表や論文での報告を行っています。

■ 検査実績

消化器内科・内視鏡センター検査処置件数 (2020 年度)	
上部消化管内視鏡検査 (含小腸内視鏡)	4,214
上部消化管内視鏡処置 (含 EUS)	662
十二指腸内視鏡検査処置 (ERCP 等)	334
小 計	5,210
下部消化管内視鏡検査	1,313
下部消化管内視鏡処置治療	1,079
小 計	2,392
全消化管検査処置合計	7,602
腹部超音波検査 (含造影 US)	4,309
腹部超音波下処置	74
超音波関連検査処置合計	4,383
その他 (造影等)	100
消化器内科検査処置合計	12,085

小児科

■ スタッフ

主任部長 辻 徹 郎 (1993 年卒)
日本小児科学会専門医・指導医
日本アレルギー学会専門医

部 長 二 神 良 治 (2008 年卒)
日本小児科学会専門医

部 長 小 野 大 地 (2010 年卒)
日本小児科学会専門医

部 長 森 本 彩 (2011 年卒)
日本小児科学会専門医

嘱託医師 中 畠 千恵子 (1970 年卒)
日本小児科学会専門医・指導医

嘱託医師 岡 島 宏 易 (1980 年卒)
日本小児科学会専門医・指導医
日本アレルギー学会専門医・指導医

■ 診療科紹介・診療実績

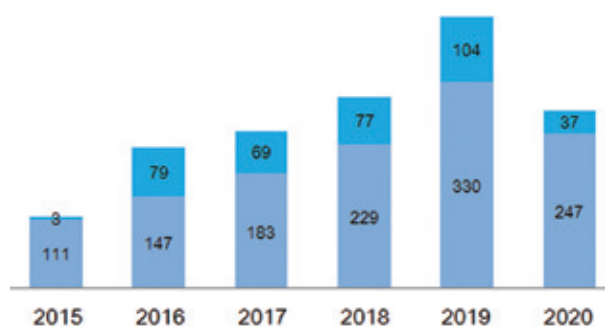
当科は、常勤医師 4 名、嘱託医師 2 名の計 6 名が外来、病棟診療を行っています。アレルギー学会専門医資格を有する者が 2 名在籍し、感染症をはじめとする一般小児科診療に加え、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなどのアレルギー疾患に対する専門的診療が可能となっています。

【気管支喘息】

臨床症状のコントロールのみならず、積極的に肺機能検査や呼気 NO 濃度測定、呼吸抵抗測定等の検査を実施しており、包括的管理を心がけています。重症喘息症例に対する生物学的製剤の投与も積極的に行っています。

肺機能検査実施数推移

■ 吸入 ■ 呼吸抵抗



【アトピー性皮膚炎】

生後早期からの保湿剤を用いたスキンケアの導入による発症予防を積極的に心がけています。発症後の治療に関しても、アレルギーマーチ進行を抑制する観点から、ステロイド外用剤を上手く用いた積極的な寛解維持療法により、新たな抗原感作を防ぐことや、食物アレルギーの合併対策を行っています。重症例に対しては病態形成に関わるサイトカインの作用を阻害する生物学的製剤も登場しており、重症例への治療効果が期待できます。

【食物アレルギー】

食物経口負荷試験による正確な原因食物の診断、及び必要最低限の除去を心がけており、検査実施数は年々増加しています。

食物経口負荷試験(OFI)実施件数推移

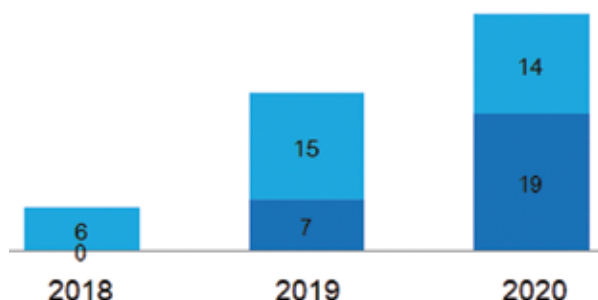


【アレルギー性鼻炎】

既存の抗ヒスタミン薬などによる治療に加え、近年はアレルギー性鼻炎の根治を目指した舌下免疫療法を行う症例が増えています。

舌下免疫療法SLIT実施症例数推移

■ 花粉SLIT ■ 花粉SLIT



外科

■ スタッフ

副院長、医療福祉支援センター長

中 光 篤 志 (1982 年卒)

日本外科学会専門医

日本消化器外科学会認定医

診療部長、一般外科センター長、肝・胆・膵外科主任部長

佐々木 秀 (1991 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

消化管外科主任部長

香 山 茂 平 (1993 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (大腸)

腹部救急治療科主任部長

田 崎 達 也 (1997 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (ヘルニア)

消化管外科主任部長 (上部消化管外科担当)

杉 山 陽 一 (1997 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本内視鏡外科学会技術認定医 (胃)

消化管外科部長

埜 越 宏 幸 (2004 年卒)

日本外科学会専門医

消化管外科部長

山 口 拓 朗 (2009 年卒)

日本消化器外科学会専門医

医 員 岡 本 暢 之 (2015 年卒)

医 員 土 井 寛 文 (2015 年卒)

医 員 柴 田 祥 之 (2017 年卒)

■ 診療科紹介

上部消化管 (杉山)、下部消化管 (香山・埜越)、肝・胆・膵 (佐々木・山口)、ヘルニア／甲状腺 (田崎) の臓器別チームに分かれ、安全な手術と周術期管理をこころがけています。各チームリーダーはそれぞれの領域で、県下で数少ない日本内視鏡外科学会技術認定医資格 (胃、大腸、ヘルニア)、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医資格を有しています。各学会の評議員として活躍し、治療成績を積極的に論文・学会発表するとともに、次世代の高度技能専門医、技術認定医を育成すべく、後輩の指導にあたっています。



■ 診療実績

主な手術件数は以下のとおりです。(カッコ内は内視鏡手術)

・ 上部消化管外科

食道癌手術 4 例 (4 例)、胃・十二指腸潰瘍 8 例 (2 例)、胃悪性腫瘍手術 68 例 (36 例)、胃空腸バイパス術 4 例

・ 下部消化管外科

大腸悪性腫瘍手術 131 例 (102 例)、直腸良性疾患 19 例、人工肛門造設 11 例、虫垂切除 91 例 (78 例)、腸閉塞手術 42 例

・ 肝・胆・膵外科

肝切除 27 例 (15 例)、膵頭十二指腸切除 12 例、膵体尾部切除 7 例 (3 例)、膵中央切除 1 例、胆嚢摘出 186 例 (腹腔鏡 172 例)、総胆管結石手術 5 例

・ 鼠径部・腹壁ヘルニア外科

鼠径部ヘルニア 207 例 (162 例)、腹壁ヘルニア 26 例 (10 例)、閉鎖孔ヘルニア 3 例 (1 例)

・ 甲状腺外科

甲状腺良性腫瘍手術 1 例、甲状腺悪性腫瘍手術 4 例

■ 研究活動

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、日本外科感染症学会の修練・認定施設です。

全国学会、広島臨床腫瘍外科研究グループなどが主催する多施設共同臨床研究に登録、参加しています。

日本環境感染学会および厚生労働省による手術部位感染サーベイランスに参加しています。

乳腺外科

■ スタッフ

主任部長 大 原 正 裕 (2000 年卒)
 日本外科学会専門医
 日本乳癌学会専門医 指導医

部 長 梶 谷 桂 子 (2001 年卒)
 日本外科学会専門医
 日本乳癌学会専門医
 人類遺伝学会 臨床遺伝専門医

部 長 佐々田 達 成 (2002 年卒)
 日本外科学会専門医
 日本乳癌学会専門医 指導医

■ 診療科紹介

2017 年から引き続き 2020 年も上記 3 名体制で診療を行いました。これまで通り、外来診療は 2 つの診察室にて行い、少しでも待ち時間が短縮できるように留意いたしております。年間 375 名の初診患者さんに来院いただきました。乳房超音波・マンモグラフィはすべて女性技師に担当していただき、女性患者さんの心的配慮をおこなっております。新規マンモグラフィ機器の導入により石灰化病変も精査可能となり、ステレオガイド下マンモトーム生検を 5 例行いました。

周術期の治療方針についても、放射線治療科・診断科・多職種とのカンファレンスにて決定いたしました。

積極的に地域連携パスの運用をおこない、100 件算定することができました。患者さんに継ぎ目・待ち時間のない診療を提供すべく努力しております。

広島西部においても他と遜色ない乳腺診療が行えるように診療情報を更新していきます。今後はがんゲノム医療・臨床腫瘍学会認定施設としてさらに症例を集積していければいいと考えております。

■ 診療実績

〈手術〉

乳腺悪性腫瘍手術	
胸筋温存乳房切除術	38
皮膚温存乳房切除術	1
乳頭温存乳房切除術	3
乳房部分切除術	56
腫瘍摘出術	0
小計 (件)	98

腋窩リンパ節郭清 20

センチネルリンパ節生検

→腋窩リンパ節郭清 4

センチネルリンパ節生検 86

乳房再建

エキスパンダー 3

インプラント 3

腹直筋皮弁 10

植皮術 1

乳腺再発手術

小計 (件) 10

乳腺良性手術

小計 (件) 15

その他

小計 (件) 0

合計 (件) 123

〈外来化学療法〉

術前化学療法 14

術後化学療法 16

進行再発化学療法 42

合計 (名) 72

整形外科

■スタッフ

名誉院長、非常勤医師

藤 本 吉 範 (1979 年卒)

医学博士、日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

診療部長、脊椎・脊髄センター長

山 田 清 貴 (1999 年卒)

医学博士、日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

主任部長 橋 本 貴 士 (2000 年卒)

日本整形外科学会専門医

主任部長 水 野 尚 之 (2001 年卒)

日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

日本骨粗鬆症学会認定医

部 長 宇治郷 諭 (2005 年卒)

医学博士、日本整形外科学会専門医

日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医

医 員 小 野 翔一郎 (2017 年卒)

医 員 村 上 欣 (2018 年卒)

■診療状況

当科は 2020 年 9 月から水野尚之、6 名が常勤として勤務しています。当科は広島県西部地区の基幹病院として地域の病院、医院の先生方と密接に連携を取りながら診療を進めています。2020 年度の初診患者数は 2,118 名で、コロナ禍にも関わらず多くの患者さんを紹介して頂いています。また地域医療支援病院紹介率は 118.4%で、当院で手術した患者さんは再び地域の先生にご加療いただいています。

2020 年度の手術件数は 1,182 例でした。そのうち脊椎手術が 786 例と脊椎・脊髄疾患の手術が多いのが当科の特徴です。広島県内のみならず、中・四国地方、関西、関東からも藤本名誉院長のもとに紹介されて来られる患者さんも多くおられます。

当科では経皮的椎体形成術を、先進医療として中四国厚生局から認可された唯一の施設として積極的に行ってきました。2011 年からは経皮的後弯矯正術 (BKP) として保険診療が可能となり、継続して多く行っています。2020 年度の BKP 手術例は 111 例でした。当院では脊椎脊髄疾患に対しては顕微鏡下手術を基本術式としていますが、新しい手術方法であ

る全内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術、椎間板内酵素注入療法も行っております。

2013 年に開設した脊椎・脊髄センター（センター長：山田清貴、部長：宇治郷諭）は、脊椎・脊髄疾患の治療を、医師とコメディカルが密接な連携を取りながら、チームとしてより集学的に行うことを目標としています。脊髄損傷や化膿性脊椎炎など重篤な障害の治療も、積極的に行っています。

さらに 2019 年からは側弯症外来を開始しており、学童期に多い成長期の側弯症（特発性側弯症）や、成人脊柱変形（変性側弯症）の患者さんに対して専門的な治療を行っております。

また、整形外科診療の大きな柱のひとつである人工関節置換術については、橋本主任部長が中心となり股関節・膝関節の治療を積極的に行っています。地域の先生方から患者さんをご紹介いただくことも多く、手術症例数は年々増加しています。

骨折や靱帯損傷など整形外科の基本的な外傷は、2011 年に当院に開設された地域救命救急センターの医師と互いに協力しつつ、多くの患者さんの治療にあたっています。当院には多数の救急搬送がありますが、救命救急医による全身管理の上で、整形外科的外傷に対して、質の高い治療を行うよう心がけています。また大腿骨頸部骨折の手術と後療法については、アマンノリハビリテーション病院、廿日市記念病院、大野浦病院と当院で地域連携診療を行っており、円滑に治療が進むように努めています。

手術症例数が多いのが当科の特徴ですが、その一方で学会や研究会での活動も大切と考え、積極的に行っており、国際学会にも演題が採用され発表の機会が増えています。当科の治療成績は良好なものと思われませんが、学会・研究会で発表し、評価を受けながら常にこれを向上させる姿勢を持ち続けていきたいと考えています。

形成外科

■ スタッフ

部長 長谷川 美 紗 (2003 年広島大学卒業)
 医学博士
 日本形成外科学会専門医
 日本創傷外科学会専門医
 小児形成外科分野指導医
 再建・マイクロサージャリー分野指導医

■ 診療科紹介

形成外科は、身体に生じた組織の異常や変形、欠損、または整容的な不満足に対して、あらゆる手法や特殊な技術を駆使し、機能のみならず形態的にもより正常に、より美しくすることによって、患者さんの生活の質の向上に貢献する、外科系の専門領域です。特定の臓器や部位が治療対象な訳ではありませんので、対象症例は多岐にわたります。

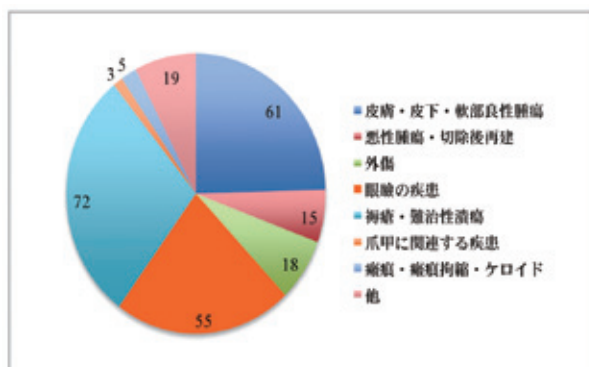
2012 年より一人体制で診療に当たって参りましたが、本年より広島大学形成外科医局より手術援助に来ていただけることになり、少しばかりではありますが戦力アップいたしました。

■ 診療実績

初診患者数	306 例
手術症例数	計 248 件
内訳 全身麻酔	40 件
腰麻・伝麻	43 件
局所麻酔	165 件

症例の内訳では褥瘡・難治性潰瘍、皮膚・皮下・軟部腫瘍、眼瞼の疾患が三大柱で例年と大きな差異はありませんでした。

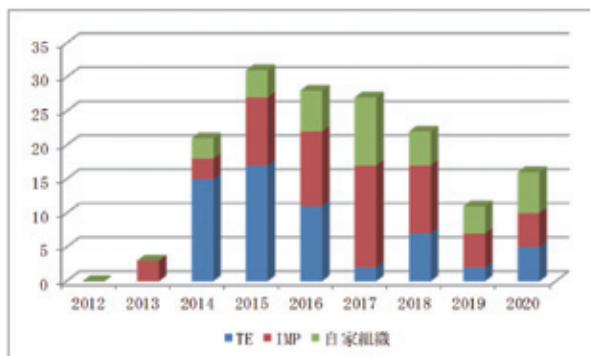
手術総数は徐々にではありますが増加傾向にあり、開設当時より 2.5 倍に増加いたしました。



■ トピックス

乳房再建方法の推移

2019 年には乳房再建数が落ち込み、特に組織拡張器 (TE)、人工乳房 (IMP) を用いた方法が激減しています。この年はアラガン社製の人工乳房の使用により、プレスト・インプラント関連未分化大細胞型リンパ腫 (BIA-ALCL) の発生が多数報告され、販売中止となったことが影響していると考えられます。



脳神経外科

■スタッフ

脳神経外科主任部長、副院長

黒 木 一 彦 1991 年広島大学卒
日本脳神経外科専門医
日本救急医学会専門医
日本脳卒中学会認定医
日本脳卒中の外科 技術指導医

脳神経外科部長

築 家 秀 和 2007 年愛媛大学卒
日本脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医
医 員 竹 石 雄 介 2016 年広島大学卒
日本脳神経外科専門医
日本脳神経血管内治療学会認定専門医

上記のスタッフで地域市民の脳を 24 時間体制で守っています。

■診療科紹介

当科では脳梗塞、一過性の虚血発作、脳血管狭窄、脳出血、くも膜下出血、脳動静脈奇形、脳腫瘍、頭部外傷、髄膜炎、原因不明の意識障害、顔面けいれんや三叉神経痛、水頭症など多岐にわたって診療、治療をおこなっています。2020 年では 593 人の入院がありました。2020 年手術数は 260 例；脳動脈瘤手術 24 例（clipping 16 例、コイル塞栓 8 例）、頸動脈ステント留置術（CAS）28 例、脳腫瘍摘出術 23 例、血栓回収 35 例、開頭血腫除去術 17 例、慢性硬膜下血腫 63 例でした。

代表的な疾患である脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳腫瘍における最近の治療について簡単に説明したいと思います。

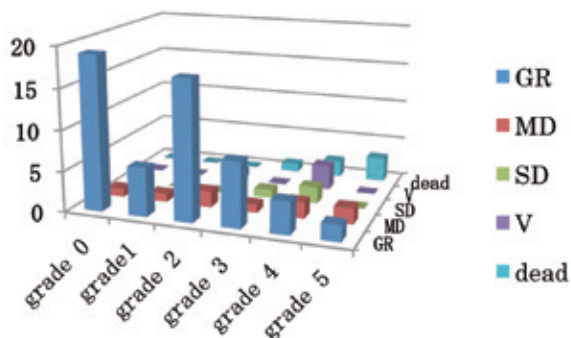
【脳梗塞】大きく分けて脳塞栓症と脳血栓症に分類できます。脳塞栓症は心房細動などが原因となり、心臓などで形成された血栓が太い脳血管を閉塞する疾患です。致死的になることが多く、予防が極めて重要と考えています。最近の抗凝固薬は副作用の出血率が低く、他の薬との併用や食事に制限が必要なく、内服しやすくなっています。また、発症 4 時間 30 分以内では遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ（tPA）の投与、発症 8 時間以内で、条件を満たす疾患であればカテーテルによる

血栓除去も可能となっています。最近のデータでは発症から 24 時間以内でも適応となる症例もあることがわかってきました。いずれにしても脳梗塞は時間との闘いになります。救急部の医師と連携し迅速に対応しています。tPA は時間経過だけでなく、出血既往や手術既往、血圧や血糖、血小板数など禁忌項目も多く、適応を判断しつつ、内頸動脈や中大脳動脈閉塞症例では同時にカテーテルによる血栓除去治療の準備を行います。そのため発症早期の脳梗塞患者が搬送されると担当脳神経外科医が速やかに来院し、治療に取り組んでいます。このため 3 人の医師が 24 時間常に待機状態を強いられる過酷な勤務状況です。働き方改革に逆行するような仕事ぶりですが、幸い皆仕事に大きな情熱を持っている医師ばかりなので前向きに仕事に取り組んでいます。

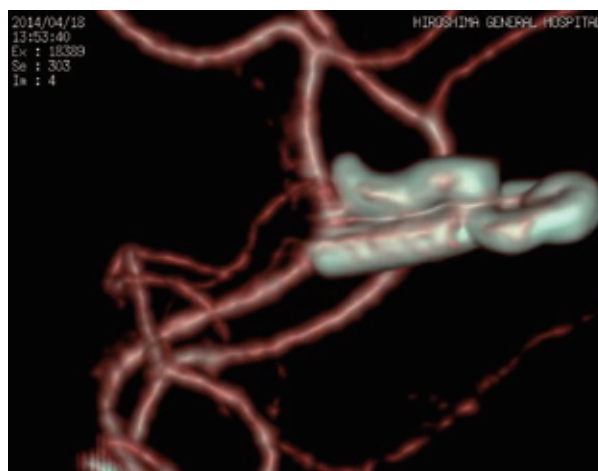
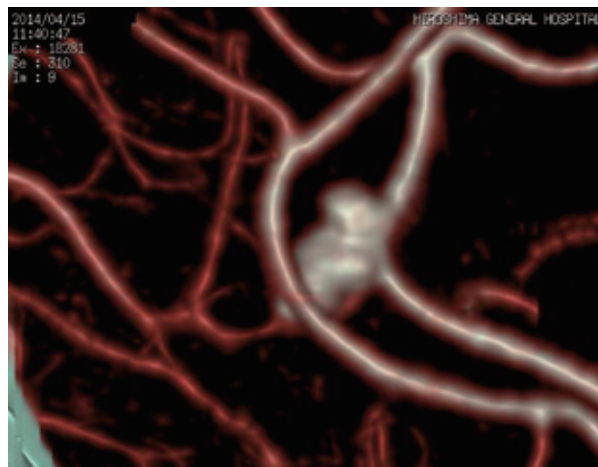
また、一過性脳虚血発作などで発症する頸部内頸動脈狭窄病変が増加傾向にあります。血管内壁にアテロームといわれる粥腫が塞栓源となったり、血流低下が症状の原因となります。頸部を切開し、アテロームを切除する頸動脈内膜剥離術（CEA）という治療やカテーテル治療による血管拡張術（CAS）を行っています。血栓の状態や病変の位置などで治療方法の適応を判断しています。また、中大脳動脈狭窄も一過性脳虚血発作の原因として多くみられる疾患です。この病態に対しては浅側頭動脈を頭蓋内血管と吻合する浅側頭動脈 - 中大脳動脈吻合術が予防治療として有効です。

【脳出血】高血圧管理に対する関心が高まり、開頭手術を要する脳出血の頻度は少なくなっています。出血量が多い場合には救命目的の開頭手術、中等量であれば機能改善を目的とした定位血腫除去を行っています。最近の症例は小出血が多く、点滴・降圧剤投与による保存的加療を行う症例が多くを占めています。小出血であっても錐体路に障害が及ぶと後遺症は必発です。予防的治療、生活習慣の是正がなにより重要だと考えています。

【くも膜下出血】脳動脈瘤が破裂をおこすことで



(grade 0: 無症状、grade V は昏睡状態です.)
開頭クリッピング術治療成績



遠位前大脳動脈瘤破裂
脳動脈瘤クリッピング前後の 3D-CT 画像



ステントアシストコイルの
模式図

生じる疾患で、発症時の重症度によって軽度の頭痛から突然死までその症状には差がみられます。治療の目的は再出血予防であり、開頭クリッピング術と血管内コイル塞栓術があります。重症度、年齢、合併症、動脈瘤の部位・大きさ・形状により治療法を選択します。椎骨脳底動脈瘤や前床突起近傍動脈瘤はコイル塞栓術のよい適応です。以前は wide neck な動脈瘤はコイル塞栓術が困難でしたが、最近はステントアシストコイルという新たな方法を用いることにより、治療の幅が広がっています。

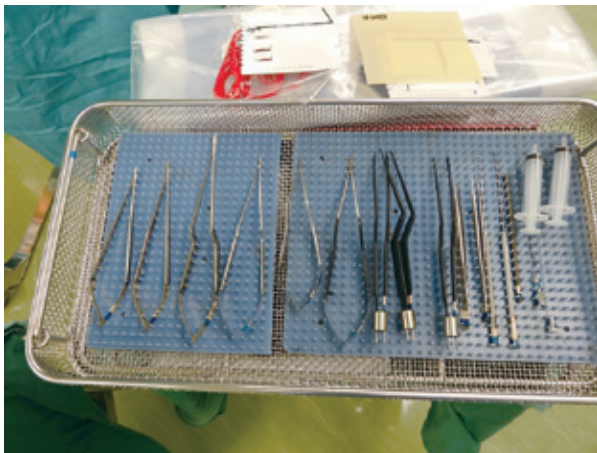
開頭クリッピング術は症例の蓄積のある確立された治療法です。いびつな形状の瘤や wide neck、血腫を伴うくも膜下出血は開頭クリッピング術が適応となります。一般的に入院時重症度の高い症例や高齢者は予後も不良となる傾向が強いのですが、当科での治療成績は非常に良好であると自負しており、積極的に手術をお勧めしています。

【脳腫瘍】脳腫瘍の発生率は 1 年間に 10 万人あたり 10 人くらいといわれ、そのほとんどが原因不明です。種類も細別すると 100 種類くらいありますが、70%は髄膜腫、神経膠腫、下垂体腫瘍です。脳腫瘍の多くは手術が必要と判断されますが、その目的には①腫瘍の種類を確認するため（生検）、②腫瘍の体積を減らし、放射線治療や化学療法を併用して治療する、③全摘出で治癒を目指す、と大別することができます。腫瘍の部位、ひろがりや神経機能を総合評価し、治療方針を個々に検討します。脳内に発生する神経膠腫は grade I-IV までありますが、浸潤性に発育するため治癒が困難であり、特に grade IV においては 30 年以上にわたり治療成績が目立った改善がみられない難治腫瘍であり、今後の更なる研究が待たれるところです。

これまで当科では年齢を考慮し、手術治療を選択してきましたが高齢者が以前より体力的に向上していること、手術技術、麻酔技術、術後管理が進歩していることから高齢者でも手術をためらう必要性は乏しいと感じています。

実際、手術成績も他施設と比較し遜色はないと自負しています。

【慢性硬膜下血腫】頭部外傷後1か月くらい経過して発症することが多い疾患です。硬膜下に徐々に血腫が貯留し、脳を圧迫することで歩行障害や手の巧緻運動障害、認知症などの症状を呈し、認知症と誤認されることもあります。穿頭洗浄術という簡単な手術で症状の改善がみられ、脳神経外科領域では最も多くみられる疾患です。



呼吸器外科

■スタッフ

主任部長 渡 正 伸 (1986 年卒)

日本呼吸器外科学会評議員

日本外科学会指導医

胸部 CT 検診認定医

部 長 三 隅 啓 三 (2000 年卒)

日本呼吸器外科学会専門医

日本外科学会専門医

医 員 伊 崎 悠 (2016 年卒)

医 員 石 田 聖 幸 (2018 年卒)

■診療科紹介

当科は 2001 年 10 月に開設され、足かけ 20 年が経過しました。近年増加の一途である肺癌は日本人の癌死亡の 1 位となっています。今日、外科分野では内視鏡を用いる内視鏡手術が主流となっています。大きく開胸して行う場合と比較し、低侵襲と言われています。故に、より専門性の高い技術が要求され、臓器別の外科専門医制度が普及し、呼吸器外科専門医による専門的な診療、手術が必要となっています。

最近の年間手術症例は約 170 例、そのうち肺癌根治術は約 80 例を行っています。手術侵襲を最小限とするために胸腔鏡を多用しています。

また肺疾患（COPD など）や低栄養、低体力、高齢の肺癌患者さんなど、手術のハイリスク患者では栄養科、リハビリテーション科と連携し術前から患者さんに関わり、肺疾患治療、栄養改善、体力改善などを行い耐術能力が向上した状態で手術を行うチーム医療を 2009 年より、いち早く導入して良好な成績をあげています。低体力、低肺機能の肺癌症例に上記の術前管理を応用して根治術を行っています。

また肺癌をより早期で発見するために胸部 CT 検診も 2002 年より人間ドックのオプションとして行っています。胸部 CT 検診の有用性は 2011 年の米国の報告（NLST）で証明され、県内でも実施する施設が増えてきました。しかし被曝線量を考慮し低線量 CT で行う必要があり、胸部 CT 検診認定医による検診が必要です。

■診療実績

2020 年度までの手術件数を図 1 に示します。上

記の術前チーム医療を行うようになり、術後合併症の減少を目指して努力してきました。

また、2012 年 7 月より開始した術前肺機能外来による潜在 COPD 患者スクリーニングと診断治療については、国内外の数多くの学会で発表してきました。COPD は今後日本人の死亡原因として上位にランクされるようになる疾患です。そのために健康日本 21（第 2 次）でも COPD の認知度の向上とその早期発見を目標としています。我々は術前肺機能外来という新規のシステムにより当院の外科系の全診療科の手術患者に対して、術前肺機能検査を通して潜在 COPD 患者の発見とより良い周術期管理が期待できる新たな取り組みを行ってきました。しかしコロナ禍で術前肺機能を網羅的に実施出来ない状況に陥り、現時点では本活動は本意ですが停滞している状況です。

肺癌根治術件数とその他の手術件数の推移

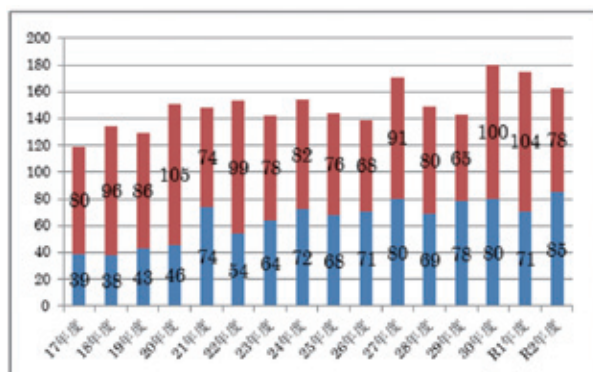


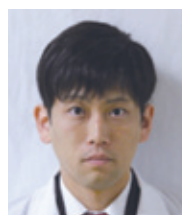
図 1；肺癌根治術（下段）、その他の手術（上段）

■今後の展望

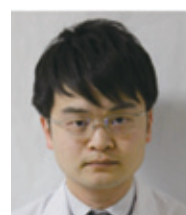
2020 年 3 月で、熊田高志医師が転勤となりました。そして 2020 年度からは原医研外科の岡田守人教授にお願いして 3 名のスタッフを派遣していただいております。彼らと共に頑張っております。よろしくお願いいたします。



三隅啓三 医師



伊崎悠 医師



石田聖幸 医師

心臓血管外科

■スタッフ

主任部長 濱 本 正 樹 (1995 年卒)
心臓血管外科専門医、修練指導医
外科学会専門医、指導医

主任部長 (血管外科担当)
小 林 平 (1999 年卒)
心臓血管外科専門医
修練指導医、脈管専門医

医 員 岡 崎 孝 宣 (2016 年卒)
弾性ストッキングコンダクター

■診療科紹介

心臓疾患

心臓疾患は弁膜症と冠動脈疾患の2つが代表的です。弁膜症とは、心臓にある弁が加齢・感染症・外傷・先天的などの原因により正常に機能せず、心臓のポンプ機能に支障をきたした状態です。弁膜症は、エコー検査の異常や心不全などの症状が出現したときに手術を考慮します。外科的手術だけでなく、近年ではより侵襲度の低いMICS手術やカテーテルによる治療も行われています。冠動脈疾患は、生活習慣によりコレステロールなどのアテローム性動脈硬化がおこり、心臓を栄養する血管が狭くなり、狭心症や心筋梗塞などを起こします。内科的なカテーテル治療が適応とならない場合には冠動脈バイパス手術が適応になります。2020年の弁膜症手術は23例、冠動脈手術は16例でした。

胸部大動脈疾患

胸部大動脈の疾患は、大動脈解離と大動脈瘤の2つが代表的です。大動脈解離は大動脈の壁の中膜に亀裂が入り、大動脈が裂ける病気です。急激に発症し、胸痛や背部痛などの症状が有名ですが、裂ける血管により様々な症状が出現します。一般的に、Stanford A型解離では緊急手術、B型解離では血圧を下げて保存的に治療します。大動脈瘤は自覚症状がほとんどなく、前触れなく破裂をきたし、大量出血から死につながる場合があります。大きな瘤では、声帯の神経を圧迫して声が枯れたり、食道を圧迫して飲み込みにくくなる場合があります。治療は、血

圧コントロールなど保存的に行い、破裂の危険性が高くなったときは予防的に人工血管置換術やステントグラフトなどの手術を行います。2020年の胸部大動脈疾患は9例でした。

腹部大動脈疾患

腹部大動脈瘤は自覚症状はありませんが、破裂すると致命的な病気です。治療法として、開腹下での人工血管置換術もしくはステントグラフト内挿術があります。それぞれ長所・短所があるため、解剖学的な条件、年齢、基礎疾患、全身状態などを考慮し治療法を決めています。最近では穿刺のみでのステントグラフト内挿術にも取り組んでいます。2020年の腹部大動脈手術症例は17件（人工血管置換術：10件、ステントグラフト内挿術：7件）でした。

末梢動脈疾患

重症下肢虚血は動脈硬化を背景とした下肢切断に至る可能性もある疾患です。外科的血行再建、血管内治療、血管新生療法など様々治療を組み合わせ、他職種での集学的治療により8割以上の症例で下肢救済ができるようになっていきます。2020年は重症下肢虚血に対する下肢動脈バイパス65例を含む84例の外科的血行再建を施行し、血管内治療は339例に施行しました。

チーム一丸となって医療を行っています。



皮膚科

■ スタッフ

主任部長	梅田直樹 (2007年卒)
	資格：皮膚科専門医
	専門：皮膚科一般、皮膚外科（腫瘍、熱傷、創傷治癒等）
部長	天野愛純香 (2012年卒)
	専門：皮膚科一般、皮膚外科（腫瘍、熱傷、創傷治癒等）
医員	田中友里恵 (2014年卒)
	専門：皮膚科一般
非常勤医師	吉屋直美 (2001年卒)
	資格：皮膚科専門医
	専門：皮膚科一般

■ 診療科紹介

皮膚科の診療内容としては湿疹・皮膚炎群などの炎症性疾患、带状疱疹・蜂窩織炎などの感染症、皮膚の自己免疫疾患、良性・悪性の皮膚腫瘍など、皮膚疾患を全般的に扱っております。

2020年度からは火曜日を終日手術日としており、外来診療は行っておりませんので御理解のほどよろしくお願いいたします。さらに初診、再診担当医を曜日ごとに完全に分けることで、患者さんの待ち時間をより少なく、効率よく診療できるようになりました。地域連携を通してご紹介いただくと、初診の患者さんでもほとんどお持たせすることなく、対応できるかと思えます。その一方で地域連携を通さず、直接受診いただくと、かなりのお時間をお待ちいただくことになり、その日の予約状況によってはお受けできないこともあります。そのため、お手数ですが必ず地域連携を通して紹介いただくようお願いいたします。

急患については曜日ごとの初診担当医にお電話いただければ可能な限り対応させていただきます。火曜日の急患については梅田に問い合わせいただければ対応させていただきます。

外来担当医表

		月	火	水	木	金
外来診療前		朝の病棟カンファレンスおよび病棟処置				
午前	初診	梅田		天野	梅田	田中
		天野		梅田	天野	梅田
	再診	田中	手術 (手術室)	田中	田中	天野
		吉屋		吉屋		吉屋
午後		外来手術		外来手術		

■ 皮膚科領域のトピックス

近年、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、じんま疹、

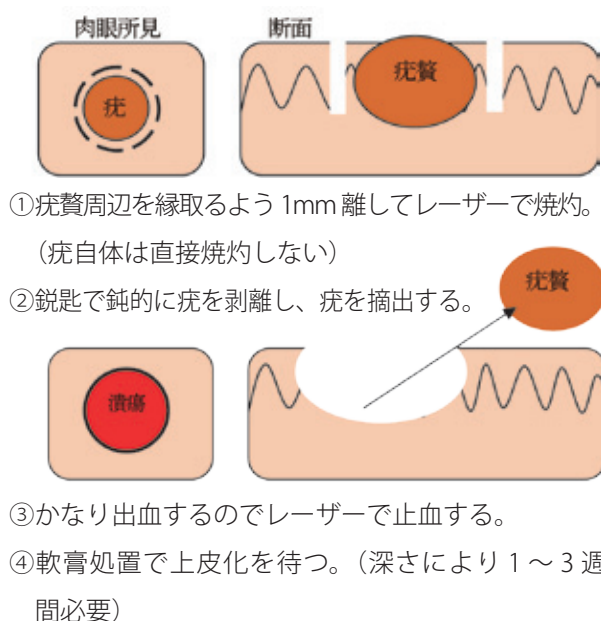
化膿性汗腺炎に対して様々な生物学的製剤が使用可能となっております。抗アレルギー薬の内服やステロイドの外用でも難治であるアトピー性皮膚炎やじんま疹に対しては劇的な効果が期待できます。尋常性乾癬については効き方に個人差がありますが、現在10種類の生物学的製剤が使用可能であり、治療の選択肢が広がっています。化膿性汗腺炎については重症度に応じて手術と生物学的製剤を組み合わせで治療します。

■ 当科での最近の試み

・尋常性疣贅に対するレーザーいぼ剥ぎ法

尋常性疣贅はありふれた疾患ですが、万人が完治する有効な治療法はありません。液体窒素療法やサリチル酸ワセリンの外用などで加療されることが多いですが、何年も治療を継続しても難治な方も多数おられます。そのような方に対して2020年7月より炭酸ガスレーザーを使用したいぼ剥ぎ法を行っています。数年来治療をするも難治である方を中心にいぼ剥ぎを行っておりますが、現在のところ、7割程度の方が術後の再発なく経過しています。難治性の疣贅の方がいらっしゃいましたら、是非、ご紹介ください。(局所麻酔が必要で痛みを伴います)

レーザーいぼ剥ぎ法のシエマ



泌尿器科

■スタッフ

主任部長 加藤 昌生 (1996 年卒)
日本泌尿器科学会専門医 指導医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医
日本排尿機能学会認定医

部長 上田 晃嗣 (2008 年卒)
日本泌尿器科学会専門医 指導医
日本泌尿器科学会・日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

部長 藤井 照護 (2011 年卒)
日本泌尿器科学会専門医

医員 田坂 晋作 (2016 年卒)
顧問、医療秘書室長

小深田 義勝 (1979 年卒)
日本泌尿器科学会専門医 指導医
日本がん治療認定医機構暫定教育医

病院長 松原 昭郎 (1985 年卒)

■診療科紹介

多くの手術を開腹手術から腹腔鏡手術に移行し、腹腔鏡技術認定医 2 人体制で、質の高い腹腔鏡手術を実践しております。

腎癌の手術は、腎機能温存のために、可能な限り腹腔鏡下腎部分切除を行っております。

浸潤性膀胱癌の手術は、腹腔鏡下膀胱全摘除術を行っております。高齢の患者様に対しても適用範囲が広がりました。

前立腺癌の手術は、腹腔鏡下前立腺全摘除術を行っております。術後の早期尿禁制を図るために、適用症例に対しては可能な限り神経温存を意図した手術を行っております。

女性泌尿器科にも積極的に取り組んでおります。腹圧性尿失禁に対する中部尿道スリング手術 (TVT)、骨盤臓器脱に対する腹腔鏡下仙骨脛固定術 (LSC) を行っております。

■診療実績 (2020 年 手術件数)

・前立腺	
腹腔鏡下前立腺全摘除術	90
経尿道的前立腺切除術	25
・腎尿管副腎	
腹腔鏡下副腎摘除術	1

腹腔鏡下腎摘除術	15
腹腔鏡下腎尿管全摘除術	12
腹腔鏡下腎部分切除術	15
・膀胱	
経尿道的膀胱腫瘍切除術	220
腹腔鏡下膀胱全摘除術	14
尿膜管摘出術	1
・結石	
体外衝撃波結石破碎術	125
経尿道的尿管結石破碎術	43
経尿道的膀胱結石破碎術	12
・陰茎・陰囊	
陰囊水腫手術	8
精巣摘出術	10
包茎手術	8
精巣捻転手術	1
・女性泌尿器科	
LSC	20
TVT	3
尿道脱切除術	4



加藤 藤井 田坂 上田

産婦人科

■ スタッフ

主任部長	中西 慶喜 (1984 年卒)
	日本産科婦人科学会専門医・指導医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
部長	高本 晴子 (1996 年卒)
	日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医師
部長	佐々木 美砂 (2005 年卒)
	日本産科婦人科学会専門医・指導医 母体保護法指定医師
医員	三浦 聡美 (2015 年卒)
	日本産科婦人科学会専門医
医員	梅木 崇寛 (2016 年卒)
	日本産科婦人科学会専攻医
医員	竹石 直子 (2016 年卒)
	日本産科婦人科学会専攻医

■ 診療科紹介

2019 年 5 月から産休を取得していた佐々木医師は、育休明けを待たず 2 ヶ月半早く 2020 年 3 月 27 日から復帰してくれました。3 月で綱掛医師、榎園医師、八幡医師が退職となり、4 月から三浦医師と梅木医師が赴任しました。10 月には梅木医師が大学病院に異動となり、竹石医師が赴任しました。

診療内容は平日午前中に外来診療を行い、月・水・金曜日の午後に手術をしています。火曜日と木曜日の午後には子宮鏡や子宮卵管造影などの検査を行っています。当院はセミオープンシステムを導入しており、大竹市ではシルククリニックとレディースクリニックとよしま医院、廿日市市では青葉レディースクリニックとかとうレディースクリニック、広島市佐伯区ではさくらウィメンズクリニックに妊婦健診ができるかかりつけ医として健診をお願いしています。休日・夜間等の緊急時にかかりつけ医に連絡が取れないときは、最終的に当院が受け入れ病院となるシステムを広島県西部地域保健対策協議会で 2012 年 3 月に構築しました。

産科に関しては、2020 年は 410 件の分娩がありました。2020 年 9 月に廿日市市のひさまつ産婦人科医院が閉院となり、2019 年の 370 件から微増となり、徐々に増加傾向にあります。母体搬送は 31 件を受

け入れました。但し当院には NICU がなく、35 週未満での早産が予想される場合には他院に搬送をしています。2020 年は大学病院に 4 件、県立広島病院に 3 件、広島市民病院と土谷総合病院にそれぞれ 1 件医師同乗で母体搬送を行いました。

婦人科に関しては、悪性腫瘍に対しては手術・化学療法・放射線治療等で集学的治療を行っています。また良性疾患に対しては積極的に腹腔鏡下手術を取り入れており、2020 年は良性疾患（子宮筋腫、卵巣腫瘍）のうち 50%が腹腔鏡下での手術となっています。骨盤臓器脱には積極的に手術療法を勧めており、2020 年は 20 件の子宮脱手術を行いました。新型コロナウイルス感染症拡大のため、良性腫瘍や子宮脱の手術を延期したため、2019 年に比べ婦人科手術件数は若干減少しました。

■ 診療実績

分娩数 410 件 (2019 年 370 件)

婦人科手術数 292 件 (2019 年度 329 件)

悪性腫瘍	子宮頸癌	2 例
	子宮体癌	20 例
	卵巣癌	15 例

■ 研究活動

広島大学病院産科婦人科との共同研究「妊娠の生理と病態における sFlt-1/PlGF 比の動態」を 2020 年 3 月から開始しました。

眼科

■スタッフ

主任部長 二井 宏 紀 (1986 年卒)
 資格 眼科専門医
 専門 緑内障、白内障
 部長 馬場 太 郎 (2016 年卒)
 専門 眼科一般

■診療科紹介

眼科スタッフは医師は昨年同様、当院が 22 年目の私（二井）と、赴任後 2 年が過ぎ当院に慣れてきた馬場太郎先生の 2 診体制です。他は、看護師が 2 名、視能訓練士が 3 名で、他に事務 1 名（OMA の有資格者）、医師事務作業補助者 1 名（OMA の有資格者）の計 9 名と、変化ありません。

■診療実績

午前は外来診療、手術は週 3 回午後から行っており、概ね一日 4～5 例行っております。

2020 年度手術件数は、白内障 316 例、緑内障 157 例（緑内障単独手術 82 例、緑内障・白内障同時手術 75 例）、緑内障手術の内訳は、線維柱帯切開術が 22 例（ μ LOT）、線維柱帯切除術が 33 例、白内障手術併用線維柱帯切開術が 69 例、白内障手術併用線維柱帯切除術が 1 例、白内障手術併用隅角癒着解除術が 5 例、MMC 併用濾過胞再建術 27 例、翼状片 6 例、その他 15 例、計 494 例と緑内障手術が年々増加傾向です。最近調べたところ、当院で緑内障点眼を 3 剤以上投薬している緑内障患者さんが 50% もおられ、緑内障点眼を減少させ QOL の向上を目指し、2016 年末から合併症の少ない極小切開緑内障手術（低侵襲緑内障手術）であるマイクロフック線維柱帯切開術眼内法（ μ LOT）を積極的に行っており、良好な結果を得られています。この術式では入院期間も概ね 1 週間以内ですみ、早期の通常生活への復帰が可能です。白内障手術は、極小切開白内障手術（切開幅 2.2mm）を行っています。幸い 2020 年度も白内障手術・緑内障手術ともに最も忌むべき合併症である術後感染や駆逐性出血は経験しておりません。レーザーは 205 件（後発白内障切開術 23 件、

網膜レーザー 138 件、緑内障レーザー 44 件（選択的線維柱帯形成術 38 件、他は虹彩切開と隅角形成術）でした。他に、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症に対するマキュエイドテノン嚢下注射とルセンティス・アイリーア硝子体注射を合わせ 123 例に施行しています（術後感染の可能性を少しでも減らすため手術室で行っています）。

■研究活動

手術症例の多い緑内障・白内障をメインに学会報告・論文発表を行っています。また、緑内障新薬の治験も行っています。

耳鼻咽喉科

■ スタッフ

主任部長 高 本 宗 男 (1992 年卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医・専門研修指導医
気管食道科学会専門医
めまい平衡神経科学会めまい相談医

部 長 長 陽 子 (2001 年卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医

部 長 有 木 雅 彦 (2011 年卒)
日本耳鼻咽喉科学会専門医

■ 診療科紹介

2020 年度も 2019 年 7 月よりひきつづき上記耳鼻咽喉科医師の 3 人体制にて耳鼻咽喉科全般の診療にあたっています。3 人とも日本耳鼻咽喉科学会専門医師であり、ほとんど毎日お互いの診療内容のカンファレンスを行い、共同して病院診療にあたっております。

■ 診療実績

診療体制自体の大きな変化はありませんでしたが、2020 年度は当科も新型コロナ肺炎の蔓延によるいわゆるコロナ禍に対する政策や学会指導による影響を多大に受けてしまいました。すなわち、まず最初の全国的な非常事態宣言に従う「不要不急の外出制限」についての解釈から、投薬など慢性管理を中心とした定期診療の方の自主的な再診キャンセルや投薬のみ受診から始まり、発熱者受診の感染防御対応による医療資源枯渇問題から自然に 1 日の診療者数の減少となりました。また耳鼻咽喉科はその診療や処置・手術時にウイルスのエアロゾル発生を誘発しやすい（医療者ならびに従事者に対する感染のリスクを高めやすい）性質から日本耳鼻咽喉科学会の指導によりエアロゾル発生が予測される手術の中止もしくは延期と感染の完全防御態勢での手術を行うことになりました。幸い当病院は元々病院内でのウイルス PCR 検査が、行える設備がありましたので ICT（院内の感染防御チーム）や検査科のご協力で診療・手術入院の方の検査を行っていただき、感染リスクの少ないことを確認していただきました。このことは医療者側としてはかなり心強いものでした。

徐々に感染予防を行いつつ今までと同様の診療対応可能な状況が判明し、医療資源の充足も進みましたが、受診者側の心配（外出や病院受診による感染など）からのいわゆる受診控えは結局高齢者ならびに医療従事者へのワクチン接種がある程度進むまで継続されました。

そのため昨年までは増加していた診療件数も 2020 年度は減少しております。

耳鼻咽喉科手術件数

2020 年度	157 件
2019 年度	253 件
2018 年度	190 件

件数自体は減少しておりますが、それこそ「不要」でない手術に真摯に対応いたしている所存であります。



図 1 内視鏡下鼻内副鼻腔炎手術



図 2 嚥下造影検査

放射線治療科

■ スタッフ

主任部長 伊 東 淳 (1995 年卒)

医学博士

日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医

日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

診療放射線技師は 3 名体制で、海老谷京子（科長・放射線治療品質管理士）、中村哲之（放射線治療専門技師）、砂田研二が常勤で担当しています。他にローテーションの技師が 1 名です。

看護師は河野佐代子（がん放射線療法看護認定看護師）、受付は奥田志帆です。

以上 7 名で診療に当たっています。

■ 診療科紹介

放射線治療は手術、抗がん剤とならぶ、癌治療の 3 本柱です。

メスを入れずに癌を治療する、したがって体にやさしい治療であることが放射線治療の特徴です。また、臓器を残す（温存する）ため、機能・形態が温存可能というメリットがあります。

また、（治癒をめざした）根治照射から、（症状軽減のための）緩和照射まで、その役割は多岐にわたります。

全身のあらゆる疾患が対象になるので

月曜日：放射線治療カンファレンス

（当科医師、大学病院医師、診療放射線技師、認定看護師）

火曜日：緩和ケアカンファレンス

（呼吸器内科・循環器内科・外科・精神科・栄養科・リハビリ・薬剤部・地域連携・当科）

水曜日：cancer board

（消化器内科・外科・画像診断部・当科）

水曜日：呼吸器カンファレンス

（呼吸器内科・呼吸器外科・画像診断部・当科）

水曜日：乳腺カンファレンス

（乳腺外科・画像診断部・当科）

金曜日：頭頸部癌カンファレンス

（耳鼻咽喉科・当科）

と院内でもカンファレンスが多いのも当科の特徴です。

他には（昨年とあまりかわりませんが）、

1. IMRT、体幹部定位照射といった高精度放射線治療をおこなっている一般病院である。
2. 化学放射線療法では抗癌剤の効果を最大限に活かすよう時間調整している。
3. 毎回 EPID で写真を撮り、より正確な照射を行うよう取り組んでいる。

などが、当科の特徴といえるかと思います。

今後も、がん拠点病院における放射線治療部門として、広島県西部の癌治療に貢献していきたいと考えています。

■ 診療実績

1) 脳・脊髄	2
2) 頭頸部	15
3) 食道	6
4) 肺・気管・縦隔	50
4) のうち肺	49
5) 乳腺	79
6) 肝・胆・膵	2
7) 胃・小腸・大腸	9
8) 婦人科	4
9) 泌尿器系	45
9) のうち前立腺	32
10) 造血器・リンパ系	2
11) 皮膚・骨軟部	3
12) その他（悪性）	1
13) 良性疾患	0

2019 年度の新患者数は 218 人（昨年度 231 人）、のべ治療患者数は 243 人（昨年度 249 人）です。新患の原発巣別内訳は上記の如くです。

高精度放射線治療としては、前立腺癌の IMRT を 7 人（昨年度 13 人）に、体幹部定位照射を 1 人（昨年度 3 人）に施行しています。定位照射（脳）は 0 人（昨年度 0 人）でした。

他に前立腺癌の骨転移に対し塩化ラジウム内用療法を開始し、良好な症状改善効果を得られています。

■ 研究活動

2001 年 4 月更新の直線加速器を使用しており、機器の更新時期を迎えていること、医師一人体制のためマンパワー不足もあり、対外的な活動に手が回らない状況です。

画像診断部

■ スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (1995 年卒)
放射線診断専門医

部 長 岡 崎 肇 (1993 年卒)
放射線診断専門医

部 長 廣 延 綾 子 (2010 年卒)
放射線診断専門医

医 員 岸 田 直 孝 (2014 年卒)

医 員 東 堀 遥 (2015 年卒)

医 員 前 田 智 郷 (2017 年卒)

■ 診療科紹介

- ・ CT、MRI、核医学等各種検査の画像診断や、胃透視の読影をしています。
- ・ 今年度は新型コロナウイルス感染症が蔓延し、コロナ患者の入院時に胸部 CT を撮影して病態の評価を行いました。
- ・ IVR は、肝細胞癌に対する TACE、膀胱癌動注のためのリザーバ留置、救急での外傷、動脈出血に対する塞栓術などを行っています。
- ・ Nonvascular IVR として、CT ガイド下生検、CT ガイド下膿瘍ドレナージを行っています。
- ・ 検診では、脳ドックを行い、希望者には結果説明や頸動脈エコーもを行っています。また胃透視の読影、乳腺マンモグラフィーの一次読影を行っています。
- ・ 開業医から依頼された CT、MRI や骨塩定量、マンモグラフィーなどの検査や画像診断を行っています。
- ・ 救急外来から依頼された時間外読影を iPad を利用して在宅で行っています。
- ・ 呼吸器内科・呼吸器外科・放射線治療科の三科カンファレンスへの参加、乳腺カンファレンスや整形外科カンファレンスへの参加、救命救急センターとの画像カンファレンスを毎週行っています。
- ・ 2017 年 11 月に導入された 256 列 Revolution CT で dual energy 撮影が可能になり、物質の弁別など従来と異なる CT を施行しています。

■ 診療実績

2020 年度 読影、IVR 業務

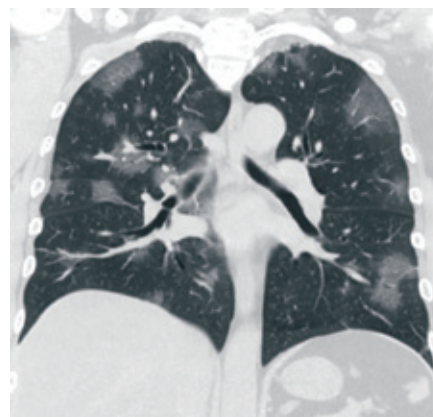
CT	16,960 件
MRI	5,995 件
核医学	347 件
Vascular IVR	53 件
Non-vascular IVR	
CT 下生検	14 件
CT 下ドレナージ	25 件



全員写真



新型コロナウイルス肺炎の胸部 CT



同冠状断像

麻酔科

■スタッフ

主任部長 中 尾 正 和 (1979 年卒)
日本麻酔科学会麻酔指導医、臨床研修プログラム責任者

主任部長 (心臓血管麻酔)
新 澤 正 秀 (1993 年卒)
日本麻酔科学会認定医

主任部長 (救急・麻酔治療科)
本 多 亮 子 (1998 年卒)
日本麻酔科学会麻酔指導医

主任部長 (手術・中央材料部)
村 上 俊 介 (1998 年卒)
日本麻酔科学会専門医

主任部長 (麻酔科外来)
石 橋 優 和 (1998 年卒)
日本麻酔科学会専門医

副部長 河 本 佐 誉 子 (2008 年卒)
日本麻酔科学会認定医

副部長 佐々木 陽 子 (2012 年卒)
日本麻酔科学会認定医

医 員 宮 地 くる実 (2018 年卒)

医 員 (歯科)
小 田 綾 (2013 年卒)
歯科麻酔科学会認定医

医 員 (歯科)
本 池 芹 佳

■診療実績

2020 年度の総手術件数は 5,067 例で、うち麻酔科管理は 3,812 例で、中央部門として大きな役割を果たしています。

	全症例 (%)	麻酔科管理 (%)
総 数	5,067	3,812
予 定	3,580 (70.6)	2,681 (70.3)
追 加	846 (16.7)	589 (15.5)
当 日 緊 急	641 (12.7)	542 (14.2)

麻酔科管理症例 3,812 症例のうち、3,689 症例 (96.8%) が全身麻酔症例でした。診療科別内訳は、外科 965、整形外科 1,146、泌尿器科 528、産婦人科 331、心臓血管外科 166、耳鼻科 146、乳腺外科 142、呼吸器外科 159、脳外科 97、口腔外科 66、形成外科 32、皮膚科 38、眼科 14 となっています。

■トピックス

- ①今年度のトピックスは、新しい全身麻酔薬であるレミマゾラムが上市されたことです。これまでも静脈麻酔薬のみで全身麻酔を完結させる完全静脈麻酔を積極的に行い、数々の知見を生み出してきましたが、従来の鎮静薬プロポフォールに加えて、新発売のレミマゾラムをいち早く取り入れました。シリンジポンプの情報を自動麻酔記録システム；paperChart にオンライン接続して血中濃度シミュレーションを行うシステムを構築し、血行動態への影響、覚醒までの時間や質などの評価を行っています。
- ②全身麻酔において確実な気道確保は必須ですが、喉頭展開が非常に困難な症例に遭遇することがあり、ビデオ喉頭鏡の導入や喉頭鏡に装着するビデオカメラの開発などに取り組んできました。それらは困難気道症例のみならず、救急救命士や初期臨床研修医の教育にも役立っています。今年はマックグラス®の画像を iPhone の画面に投影する技術を開発し、国際学会で発表しました。
- ③近年、区域麻酔のみで管理する症例は減少し、全身麻酔が 96% を占めていますが、全身麻酔に区域麻酔を併用することで質の高い術後疼痛管理を行っています。とくに超音波ガイド下末梢神経ブロックは近年のトピックスの一つであり、適応症例には積極的に行っています。体表面の解像度の高い超音波装置を新規に導入し、神経ブロック、血管確保などに役立てています。

■研究活動

研究活動としては、筋弛緩モニター TOF Watch® を用いた筋弛緩薬の効果消失のシミュレーション、麻酔深度のための脳波モニタリング時の問題点の抽出、新規麻酔薬レミマゾラムの使用方法などについての検討を行い、学会等で発表しています。

歯科口腔外科

■ スタッフ紹介

主任部長 島 末 洋 (1996 年卒)
 日本口腔外科学会専門医・指導医
 日本顎関節学会暫定指導医
 日本口腔ケア学会口腔ケア認定医
 臨床歯科医研修指導医

部 長 原 田 直 (1986 年卒)
 日本口腔外科学会専門医・指導医
 臨床歯科医研修指導医
 歯学博士

医 員 大 井 尚 志 (2014 年卒)
 日本口腔外科学会認定医

頬粘膜悪性腫瘍切除術（頬粘膜癌） 1 件
 舌腫瘍摘出術（舌腫瘍） 3 件
 上顎洞根治術、腐骨除去術、唾石摘出術 1 件
 外来小手術：骨内埋伏歯、水平埋伏歯抜歯術、
 顎骨嚢胞摘出、創傷処理等 894 件

■ 研究活動

日本口腔外科学会認定研修施設であり、口腔外科疾患調査や口腔がん登録に参加しています。



(手術風景)

■ 診療科紹介

当科は、歯科医師 3 名、歯科衛生士 3 名、事務職員 3 名の体制で、診療を行っております。主任部長の島末は 2020 年 4 月より広島大学病院より赴任致しました。

業務内容は、歯科口腔外科がメインであるため虫歯治療や義歯作成等の一般歯科診療は行っておらず、顎顔面の外傷・骨折、悪性腫瘍（口腔がん、唾液腺腫瘍）、顎骨腫瘍・嚢胞、難抜歯（埋伏智歯、有病者の抜歯等）、歯性感染症（蜂窩織炎、膿瘍、薬剤性顎骨壊死、上顎洞炎等）、顎関節症等の顎顔面領域の疾患を取り扱っております。

月曜、木曜日は全身麻酔での手術、火曜、水曜日は外来手術を行い、年間約 1000 件の手術を行います。2020 年度は新型コロナウイルスの影響で予定手術の延期および外来診療の中止により OP 件数、患者数は減少しました。

また、2013 年より全身麻酔の手術や、化学療法を受ける患者の全身管理の一環として口腔ケア（周術期口腔機能管理等）を行っております。

■ 診療実績

2020 年度 全身麻酔手術

埋伏歯抜歯術	22 件
顎骨腫瘍・嚢胞摘出術	29 件
舌悪性腫瘍切除術（舌癌）	5 件
口底悪性腫瘍切除術（口底癌）	2 件

救急・集中治療科

■スタッフ

地域救命救急センター長、主任部長

吉田 研一 (1984 年卒業)
医学博士 日本救急医学会専門医
臨床教授 (広島大学 救急医学)

主任部長 (集中治療部)

櫻谷 正明 (2006 年卒業)
日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医

部長 河村 夏生 (2010 年卒業)

日本救急医学会専門医

部長 高場 章宏 (2011 年卒業)

日本救急医学会専門医
日本集中治療医学会専門医

医員 岩本 桂 (2016 年卒業)

日本救急医学会

医員 堂 埜 恵理 (2016 年卒業)

日本救急医学会

医員 岩田 和佳奈 (2017 年卒業)

日本救急医学会

■診療科の紹介

2020 年度、当科は総勢 7 名で救急・集中治療の診療を施行しました。また当院は日本救急医学会認定救急専門医研修基幹病院 (専攻医 3 名) でもあります。

救急・集中治療科は、内科系、外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し強力かつ集中的に緊急治療・看護を行うことにより、その効果を期待する部門です。

2011 年 4 月から地域救命救急センターとして組織変更し、いわゆる三次救急体制を正式に発足しました。地域に愛され信頼される急性期病院として、さらに設備と体制の整備をすすめていく計画です。御支援をよろしくお願いします。

■診療実績

2020 年度

年間救急搬送患者数 3,313 台

年間救急来院患者数 6,003 人

2020 年度の年間重篤患者数を表 1 に示します。

年間重篤患者数 (2020 年 4 月～2020 年 3 月)

表 1) 救急・集中治療科実績 (厚生労働省報告) (人)

番号	疾病名	患者数	退院・転院	死亡
1	病院外心肺停止	152	3	149
2	重症急性冠症候群	88	79	9
3	重症大動脈疾患	22	17	5
4	重症脳血管疾患	105	63	42
5	重症外傷	72	63	9
6	重症熱傷	3	3	0
7	重症急性中毒	34	34	0
8	重症消化管出血	62	65	6
9	重症敗血症	46	38	8
10	重症体温異常	16	16	0
11	特殊感染症	18	13	5
12	重症呼吸不全	76	44	32
13	重症急性心不全	63	52	11
14	重症出血性ショック	12	4	7
15	重症意識障害	22	10	12
16	重篤な肝不全	5	1	4
17	重篤な急性腎不全	5	5	0
18	その他の重症病態	1	1	0
合 計		802	511	299

※上記のなかには敗血症、横紋筋融解症、各種ショックなど含まれない疾患もあります。

■研究活動

①重症感染症 (敗血症) 患者の救命率の向上

重症感染症 (敗血症) は、細菌によって引き起こされた全身性炎症反応症候群 (SIRS) です。細菌感染症の全身に波及したもので非常に重篤な状態であり、無治療ではショック、DIC、多臓器不全などから早晩死に至ります。もともとの体力低下を背景としていることが多く、治療成績も決して良好ではありません。当院でもその死亡率は高く、28-38% (2008-2015 年) の患者さんが亡くなられています。

Surviving Sepsis Campaign Guideline 2021 では循環管理だけでなく感染対策、続発する臓器不全や周辺病態に対しての集中治療が示されています。当院では特に初期蘇生の循環管理について積極的に押し進めています。

②脳低温療法の導入

脳低温療法とは、脳が障害を受けた際に脳の障害がそれ以上進行することを防止するため、体温を低

く保つ治療法です。通常、脳が重大な障害を受けた際には脳組織に浮腫が起こるほか、カテコールアミンやフリーラジカルなどが放出され、進行的に組織が破壊されていきます。救急の脳障害においては、この進行的な脳組織の破壊を抑制することで救命率・機能予後の向上が見込まれ、またそれを抑制する事が重要な課題となっています。

蘇生ガイドライン 2020 でも脳低温療法が新たに加えられたことを契機に、当院でも水冷式ブランケットを用いて患者の体温を 34℃程度に下げること、代謝機能を低下させて、脳内での有害な反応の進行速度を抑え、蘇生後脳症の治療成績の向上に努めています。

③オートプシー・イメージングの検討

オートプシー・イメージング (Autopsy imaging、Ai) とは、狭義では死亡時画像診断のことです。コンピュータ断層撮影 (CT) や核磁気共鳴画像法 (MRI) などによって撮影された死後画像により、死体にどのような器質的病変を生じているのかを診断することによって、死亡時の病態把握、死因の究明を目的とします。

当院では 2007 年よりオートプシー・イメージングを導入し画像診断部の支援のもとに、Ai 認定施設 (クラス A) となっています。救急搬送された患者のうち、340 例近くの Ai 施行にて、約 4 割の患者の死亡原因の診断・推定に役立ちました。

救急搬送される症例には、自宅での服毒自殺や幼児虐待などの外因死の可能性がある症例が含まれます。体表の情報からこれらを判断するには限界があり、Ai を取り入れることにより正確な判断が可能になる可能性があります。外因死などが疑われる場合には、所轄の警察署へ届け出るとともに、今後も死因究明のため積極的に Ai を施行します。

健康管理センター

■スタッフ

診療部長・センター長／主任部長／臨床研究検査科部長

碓井 裕史 (1977 年卒業)

日本人間ドック学会認定医・産業医・臨床検査管理医

課長 (保健師)

増本 順子

主任 生田 佑子

保健師 4 名

看護師 1 名

事務 4 名

業務委託 (受付・予約) 4 名

(車両業務) 1 名

臨時職員 (医師 5 名、看護師 8 名、助手 1 名、臨床検査技師 2 名)

【取得資格】

人間ドックアドバイザー 6 名、転倒予防指導士 1 名、第一種衛生管理者 1 名

【所属学会】日本人間ドック学会、日本癌学会、日本人類遺伝学会、日本農村医学会、日本乳癌検診学会、日本禁煙学会、日本転倒予防学会

【担当事務局】

広島県農村医学研究所、広島県農村医学研究会、日本農村医学会

■概要

当センターでは、厚生連の基本理念に基づき、JA グループ・行政・医師会との連携によって広島県西部地域の JA 組合員、住民の健康管理活動の推進に努めています。病院併設型の機能を活かし、診療部門、臨床研究検査科、中央放射線科など優れたスタッフの協力により精度の高い健診活動に取り組んでいます。

■主な活動内容

1. 施設内健診

当院独自の人間ドックに加え、廿日市市、広島市、大竹市、各健康保険組合等の委託ドック、各種がん検診他、10 月第 3 日曜日に JMS マンモグラフィーサンデー (10 回目) を行いました。希望された方には乳腺エコー検査を実施し、好評でした。

2. 巡回健診

JA グループ、廿日市市、佐伯地区医師会等の委託健診を中心に実施しています。

3. 地域の健康教育活動

JA 組合員健康教室や JA 広報誌の執筆活動も行っています。健診後には結果の報告会を実施し、健康相談も行っています。

■事業の紹介

当センターでは、ホスピタリティマインドを大切に健診を心がけており、受診者ひとりひとりの健康に関する心配事に目を向けています。日頃の生活習慣を見直し、より健康的な習慣に取り組むきっかけになれるような健診をめざしております。

今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防対策を講じながら事業を行いました。緊急事態宣言が発令されている間は健診事業を中止することになり、再開後も肺機能検査の中止、受診者人数の制限など感染予防対策を徹底し、健診事業を行いました。契約している事業所、健保組合、市町の担当者と打ち合わせ、安全に安心して受けていただけるように協力し実施しました。

健診を受けていただくだけでなく、精密検査が必要であると診断された方には、医療機関へ受診していただけるように健診結果書と一緒に紹介状を発行しています。未受診、未把握の方には 4 か月後に再度受診を促す手紙を郵送しています。精検受診率を上げるための対策として、消化器内科、内科外来の協力のもと、2018 年 7 月から大腸がん検診で精密検査が必要である受診者に対して人間ドック当日に当院での受診を勧めました。希望された方は内科外来へご案内し、大腸カメラの予約をとっていただきました。人間ドック当日に精密検査の予約ができることで、受診者の通院回数や待ち時間を減らすことができ、受診者からも好評です。そして、大腸がん検診の精検受診率も向上しています。

生活習慣病の早期発見およびその予防、がんの早期発見だけでなく、地域に寄り添った活動ができるようにスタッフ一同、心をこめて事業を展開したいと思っています。

2021 年度活動実績

○施設内健診

	受診者数 (人)
入院ドック	10
外来ドック	2,405
協会けんぽ健診	1,201
原爆 (一般・がん・二世)	108
脳ドック	245
肺ドック	115
痔ドック	32
個別子宮がん検診	98
個別乳がん検診	89
個別大腸がん検診	23
健康診断 (一般・簡易)	468
当院職員健康診断	1,415
個別特定健診	62
骨密度検診	113
計	6,384

○巡回健診

	実施日数 (日)	受診者数 (人)
生活習慣病予防健診	17	498
職員健診	60	3,331
健康診断	7	512
特定・後期高齢者健診	2	108
大腸がん検診	2	109
肝炎検査	2	5
計	90	4,563

○保健指導

	受診者数 (人)	
特定保健指導	27	
施設内保健指導	2,400	
	実施回数 (回)	受診者数 (人)
健康教育	0	0
巡回健診後の事後指導	5	54

2020 年度がん検診部位別精密検査受診状況

○施設内健診

		受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部	バリウム	920	21	2.3	13	61.9	0	0.00
	カメラ	2,063	161	7.8	149	92.5	2	0.10
胸部	レントゲン	4,009	104	2.6	73	70.2	0	0.00
	CT	116	1	0.9	1	100	0	0.00
大腸 (便潜血反応)		3,413	163	4.8	116	71.2	7	0.21
乳部		1,031	36	3.5	30	83.3	2	0.19
子宮頸部		902	49	5.4	39	79.6	0	0.00
前立腺 (PSA)		426	16	3.8	9	56.3	3	0.70

○巡回検診

	受診者数 (人)	要精検者数(人)	要精検率 (%)	精検受診者数(人)	精検受診率(%)	がん発見数(人)	がん発見率(%)
胃部間接レントゲン	0	0	0	0	0.0	0	0.00
胸部レントゲン	4,487	33	0.7	18	54.5	0	0.00
大腸 (便潜血反応)	1,255	51	4.1	26	51.0	0	0.00
前立腺 (PSA)	354	8	2.3	3	37.5	0	0.00

※ 2020 年度より巡回胃がん検診は中止

病理診断科・病理研究検査科

■ スタッフ

主任部長	台 丸 裕
科 長	高 田 愛
医 師	1 名
臨床検査技師	6 名
事 務	1 名

■ 取得資格

病理専門医	1 名
細胞診専門医	1 名
病理解剖資格	1 名
細胞検査士	4 名
国際細胞検査士	2 名
二級甲類臨床病理技術士	4 名
	(病理学 4)
診療情報管理士	1 名
医療情報技師	1 名
認定病理検査技師	2 名
特化物四アルキル鉛等作業主任者	3 名

■ 所属学会

日本病理学会
日本臨床細胞学会
日本臨床衛生検査技師会

■ 業務内容

病理組織検査・細胞診検査・病理解剖

検査件数 (2020 年度)

組織検査	5731 件	(2019 年度 6178 件)
術中迅速検査	307 件	(" 340 件)
細胞診検査	6106 件	(" 6275 件)
迅速細胞診	203 件	(" 143 件)
病理解剖	1 件	(" 4 件)

■ トピックス

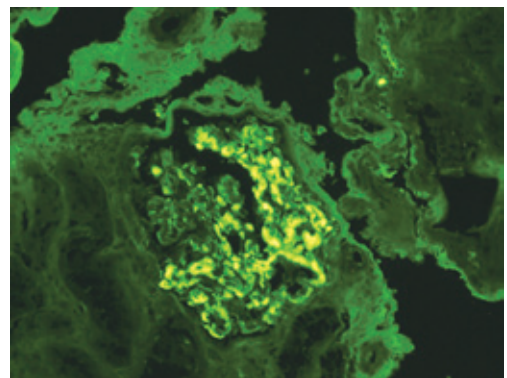
〈蛍光顕微鏡デジタルカメラ更新〉

カルテ棟解剖室の隣には暗室があり、そこには蛍光顕微鏡と撮影装置が設置されています。蛍光顕微

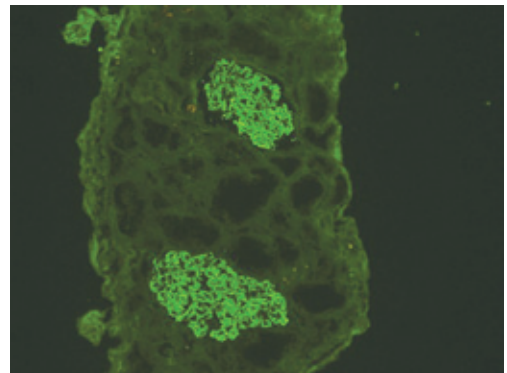
鏡用デジタルカメラ DP-71 が、故障により修理不能となったため、後継機の DP-74 に更新しました。

蛍光顕微鏡は、腎臓内科、皮膚科の生検検体での蛍光抗体法の標本観察に使用します。蛍光抗体法の標本は保存することができず、退光、退色するため、観察時に写真撮影し画像を保存する必要があります。腎臓内科では IgA 腎症や膜性腎症などの各種腎臓病の鑑別に、皮膚科では天疱瘡や血管炎など自己免疫性皮膚疾患の診断に用いられます。

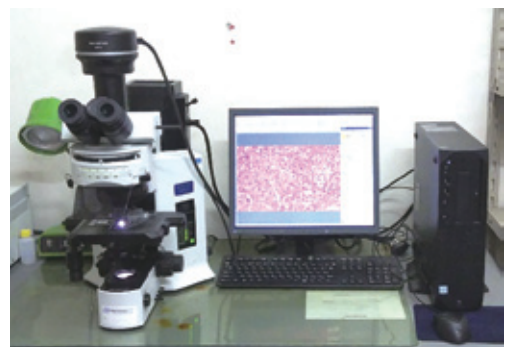
光顕の標本も写真撮影できます。リアルタイムに複数視野の画像をつなぎ合わせて、ルーペ像のような広い視野の画像を作製する機能もあります。



学会発表、論文投稿などでミクロ写真が必要な場



合はご利用ください。



臨床研修科

■ スタッフ

〈2年目初期臨床研修医〉

伊藤里紗、大岡達子、川口晃、五月女洋介、前雄平、満谷尚子、森田智子、安岡悠希、安富和果、山根大寛

〈1年目初期臨床研修医〉

折出純、折出ゆうか、島田幸暢、中木優羽、新山敏信、松島大地、松原佑吾、光延仁雄、森田俊介、横崎美遼、柴田浩輔、濱本幸愛

■ 概要

初期臨床研修医 2 年次 10 名、1 年次 12 名の計 22 名が所属しています。それぞれが当院の初期臨床研修プログラムに沿って、各診療科をローテーションする研修を行っています。

■ 活動内容

1 年次は内科 6 ヶ月、外科系 1 ヶ月、麻酔科 2 ヶ月、救急集中治療科 2 ヶ月の計 11 ヶ月が必修科となります。

残りの 1 ヶ月は自由に選択することができます。

2 年次は産婦人科 1 ヶ月、小児科 1 ヶ月、精神科 1 ヶ月、地域医療 1 ヶ月が必修科となり、残りの期間が自由選択となります。精神科と地域医療に関しては、院外の医療機関で研修をさせていただいています。

研修内容は各診療科によって異なりますが、指導医の先生方のもとで外来での初期対応や病棟に入院している患者様の診療に携わっています。外科系の診療科では手術に助手として参加させていただくこともあります。麻酔科では、全身麻酔の導入・維持および覚醒までの一連の管理を指導医とともにを行います。静脈路確保や気管挿管、人工呼吸器の操作といった基本的な手技もここで習得します。医療従事者として未熟な点の多い私たちですが、患者様と積極的にコミュニケーションをとり、些細な出来事に気づくことができるよう心がけて診療に当たっています。

日々の診療に加えて、救命救急センターにて夜間・休日の日当直業務を行っています。救急医 1 名と一般当直医 1 名に加えて、1 年次・2 年次研修医が 1 名ずつの計 4 名で診療時間外に救急外来を受診され

た患者様の対応をしています。これまでに得た知識や経験を活かしながら、目の前の患者様に対して適切な初期治療を行うことを意識しています。上級医として救急医もしくは一般当直医が必ずいるため、受診される患者様にとってはもちろんのこと、私たち研修医にとっても安心できる環境です。当院救命救急センターは、年間救急搬送件数が 3,000 件以上、年間来院患者数が 5,000 人以上であり、研修医にとっての日当直業務は、軽症から重症まで幅広い症例を経験する貴重な機会でもあります。

毎週火曜日には Early Bird Lecture という研修医のための勉強会が開かれています。そこでは研修医の 15 分ほどの発表に加え、各診療科の先生方をお招きして 30 分ほどの講義をいただいています。研修医発表は、発表の練習になるだけでなく、スライド作成の過程で症例を深く理解することにもつながっています。また、各診療科の先生方の講義により、不足している自身の知識を補い、実践的なものへとアップデートできていると感じております。

残念なことに今年は COVID-19 感染症の流行のため BLS・ACLS・JPTEC・JATEC といった外部の講習会は開催中止となったものが多くありました。一方で COVID-19 感染症のため制限される部分もありましたが、上級医の指導を仰ぎながら、学会発表をする機会は得られていたと思われます。

そのほかの特徴として、初期臨床研修を終了した後の 3 年目からも後期臨床研修医として当院での勤務を希望する先生が数多くいることがあげられます。これは、指導熱心で信頼できる先輩の元、働きやすい環境で 2 年間充実した研修を送ることができているからだと思われます。



看護科

■スタッフ

看護部長 馬場崎 喜美子

看護副部長 佐藤 澄香

村中 好美

久保 知子

藤本 七津美 (総合医療福祉相談室兼務)

■概要

看護科職員数は702名(2020年4月1日現在)で病院内最大の人員数です。今年度は看護科目標を、「心と心の通い合うハートふるナースィング～Let's Try 地域包括ケア～」とし、質の高い看護の提供に努めています。

■看護

1. 看護職員の職務満足の上昇に関する活動

今年度のトピックスは日本看護協会主催の「看護業務の効率化 先進事例アワード2020」において当院手術室の「チーム医療による新たな手術室運営方法の確立～組織を巻き込んだ3カ年計画の取り組みを通して～」が最優秀賞に選ばれたことです。数年に及び、組織を巻き込んだフィールドイノベーション活動では、2交代制の導入や新たな教育システムの整備、外科系病棟への療養支援の導入など勤務環境を改善し、外科系看護師のキャリアデザインの構築に取り組むことができました。詳細については日本看護協会のホームページや厚生労働省の公式Webサイトで公開されています。

2. 助産師の交流事業

今年度も山口厚生連周東総合病院に当院の助産師が出向し、相互支援・助産技術の向上を図る等の機会を得ています。

3. 看護の普及啓発に関する活動

○ふれあい看護体験

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催中止となりました。

4. 看護の人材確保と定着推進活動

○るるん広場(ママ友会)

育児休暇中の看護職員の復帰支援を目的に毎年開催しておりますが、今年度はコロナ禍の影響を受け、7月と11月にメッセージカードと育児・復職についてのリーフレットを郵送しました。

○病院見学会

今年度は4月～7月の6日間で感染防止対策をとり、対面方式あるいはWEB方式で開催し、計238名の看護学生の参加がありました。内容は看護部長による病院概要や先輩看護師による部署紹介、質問はチャット機能を用いて対応しました。WEB方式は初めての試みでしたが、参加者からは「病院のことがよくわかった。先輩の話が聞けてよかった」などの感想が寄せられました。

○サマーインターンシップ

新人看護師が就職後にリアリティショックなくスムーズに医療現場に入れるように、急性期総合病院の職場体験(環境整備、シーツ交換など)を毎年企画しております。8月3日～14日の期間に実施し、46名の看護学生の参加がありました。

■教育

○看護実践能力の開発支援

広島厚生連3病院共通のクリニカルラダー認定制度を推進し、今年度はラダーⅠ85名、ラダーⅡ28名、ラダーⅢ1名の認定を受けました。

○e-ラーニングによる学習支援

クリニカルラダー取得に際しては研修受講を必須とするなど看護の質を確保するための教育も注視しています。また、認知症ケア研修や看護補助者研修にも活用しています。

■院内における研究・発表



外来

■スタッフ

科 長 中 元 美 恵 (糖尿病センター)
 新 田 克 己 (外科系、外来科長室)
 本 山 敏 恵 (内科、中央採血室)
 槌 谷 滋 乃
 (内視鏡センター、中央検査処置室、
 地域救命救急センター)
 主 任 平 外 仁 美、益 田 尚 恵
 坂 手 友 子、竹 野 香 織
 辻 幸 枝、槌 井 美 穂
 伊 藤 昭 範
 副 主 任 米 田 直 美
 他 看護師 70 名 看護助手 1 名

■概要

外来部門は各診療科と地域救命救急センター、検査部門で看護を行っています。近年、高齢化社会の延長や入院期間の短縮化により、外来患者の高齢化や重症度も高くなっています。外来での検査や治療、在宅治療に向けて指導の場面も増えています。地域病院との連携を取り、多職種や地域連携室と情報共有を行うことで、地域の住民の方に安心して受診して頂けるよう努力しています。

また、地域救命救急センターでは、三次までの救急患者の受け入れを行っており、2020年度の救急車受け入れ台数は、3305台でした。重症患者の救命処置を行うだけでなく、患者家族の精神的な配慮を大切に看護しています。



【外来での自己注射指導場面】

■看護

外来診療部門では、時短勤務者とパート勤務者も多数看護しています。そのため、外来科長室チームが応援体制を緻密に設定し、サポートに入ることによって、少人数で長時間対応している各外来スタッフの時間

外業務の削減や休憩時間の確保ができるようになりました。固定のスタッフ以外でも看護の質が保てるよう専門分野の習得に努めています。

4月以降、COVID-19感染拡大に伴い、外来患者も発熱患者や感染疑いの患者が増加しました。他の外来患者への感染を防止するために発熱外来が設置されました。そしてマニュアル作りやシミュレーションを行い、物品の整備も行いました。

地域救命救急センターでは、デスカンファレンスや倫理カンファレンスなどの話し合いを行い、振り返りを行っています。重症患者や家族との日々の関わりに活かせるようにしています。

■教育

2020年度は、RST委員会を中心にAEDの勉強会を行いました。外来での急変患者の対応が適切に行えるよう継続して行いたいと考えています。

地域救命救急センターでは、コードブルーのシミュレーションを行い、プロトコルの作成をしました。

中央採血室では、新薬の説明会とその注射方法についてレクチャーを受けました。

2020年度は、外来全体での集合勉強会ができなかったため、各部署毎に専門性に合わせたオンラインセミナーを受講し、知識を深めました。

■院内における研究・発表

2020年度院内看護研究発表会

(題) 当院の急性期虚血性脳卒中の初期治療における時間短縮に向けた取り組み

研究者：山崎克仁



【内視鏡センター ポスター展覧】

外来治療センター

■ スタッフ

科 長 野 村 昌 代	
他 放射線治療科	1 名
透析室	7 名
化学療法治療室	4 名
病棟兼務看護助手	1 名

【資格取得】

がん放射線療法看護認定看護師：河野佐代子

がん薬物療法看護認定看護師：野村昌代 奥村麻美

【所属学会】

日本放射線治療学会

日本臨床腫瘍学会

日本がん看護学会

■ 概要

東 8 階：透析室 14 床、化学療法治療室 15 床で稼働

2020 年度外来薬物療法治療述べ	5097 件
外来 1 日平均	21 件
看護師指導件数	485 件
2020 年度放射線治療 診療同席	240 件
放射線治療オリエンテーション	181 件
透析治療療法選択指導	15 件

■ 看護

治療センターでは、がん放射線治療・がん薬物療法及び透析をうける患者とその家族がよりよい療養生活を維持・継続できるように、抱えるそれぞれの多様な問題に指導・相談の支援を行っています。患者個人が抱える身体的な問題だけではなく、心の問題や生活環境の問題などを理解したうえで、患者・家族のもつ不安・混乱・迷いなどを受け止め、患者自身が疾患と向き合い納得した治療の選択と自立した生活が送れるように、必要な社会的資源の連携など地域を巻き込んだ患者中心のチーム医療を実践しています。

がん患者においては、放射線治療やがん薬物治療導入時の IC 同席や治療中の支援を専門的に認定看護師による説明・指導・相談を実施しています。

透析関連では、慢性腎不全になり、やがては透析が必要になる患者とその家族を対象に、人工透析と腹膜透析及び腎移植の療法選択について説明してい

ます。早期に関わることで、患者や家族が透析治療を受容し、適応していく段階に応じて自立した生活が送れるように支援を実施しています。

■ 教育

一般的な知識のみならず、専門的な透析・薬物療法・放射線治療が行われる中、緊急時に直ちに対応出来る能力やリスクを予測して行動する実践力が求められます。その為実践力の維持向上を期待出来る研修や教育に取り組んでいます。

1) スタッフ参加型（学習）を活用しています。

経験の豊富なスタッフの特性から専門的知識と実践に即した臨床判断能力の習得のためにマニュアルの確認・修正をすることで、スタッフ自身が思考しながら行動に移し、体験しながら知識と実践力を身につけるアクティブラーニングの体制を取っています。

2) 知識や実践力の確実な定着・実施に向けて、専門的に実施される研修会や勉強会への参加を積極的に取り入れています。

3) 各分野において、実習生の受け入れを支援しています。

■ トピックス

- ・ 年々増加傾向にある外来治療患者待ち時間対策に外来治療ソファ 2 床仮造設
- ・ 腎不全学会年度末透析患者状況報告に診療情報企画課との協働

地域救命救急センター

■ スタッフ

科 長 村 田 美智子
主 任 杉 中 知 子
 畝 小百合
他 看護師 26 名 看護助手 1 名

■ 概要

2011 年に地域救命救急センターが開設され、救急外来・病棟として救急患者の受け入れを行ってききましたが、2018 年 4 月より、地域救急救命センター救命病棟として新たにスタートしました。病床数 8 床（個室 1 床）を有し、救命救急加算対象患者を中心に受け入れています。小児、産科を除く全科の救急患者が入室可能であり、昨年は、年間入室患者数 995 名（前年より -26 名）、平均滞在日数 2.8 日でした。定期手術後患者入室・ICU 満室時の転床受け入れもあり、救命救急加算対象患者は入室患者数の 87.1%でした。

■ 看護

4：1 の看護体制をとっており、安心・安全な看護を効果的に提供できるように、日勤帯では受け持ち制と PNS（パートナーシップ）を用い、重症度が高い症例に対応しています。救急外来で処置を終えて入室となる患者が多いため、「患者家族看護」に重点を置き、家族の気持ちに寄り添う看護の提供を心がけています。患者やその家族の権利や意志の尊重を守ることを目指して、最善な看護介入ができるように、医師・看護師・コメディカルと倫理カンファレンスを行い情報共有に役立てています。また、倫理カンファレンスで事例を振り返ることで、スタッフのファシリテーターのスキル向上やスタッフの倫理的感受性を育むように努めています。

■ 教育

新人看護師教育は、プリセプターが中心になり、教育計画を提示し、毎月評価しながら個人の成長に合わせて進めています。日常生活援助から疾患・検査など根拠から丁寧に指導をしています。定期的に

プリセプター会議を設け、新人の成長を確認し、必要時は、勉強会の企画や教育計画の修正を行っています。スタッフ全体教育では、他部署からの異動者を中心に、OJT 教育に力を入れています。呼吸・循環アセスメント能力強化に向けて、呼吸器・循環器・脳外科を中心に、ミニ勉強会・事例検討を行っています。

COVID-19 感染重症患者受け入れ病棟として、病棟内のゾーニング・防護服の着脱方法の勉強会と防護服の着脱の実践を繰り返し行いました。マニュアルの作成・修正をスタッフ全員で行い、緊急入院にスムーズな対応を心がけました。そしてリリーフナースとして、病棟応援に力を入れ、応援へ行くスタッフも PNS を活用し、2 名以上で共働して看護ケアを行うようにしました。慣れない処置もお互いの知識を活用することができ、相手の知識を実践的に学びながら、ジェネラリストとして活躍出来るように日々奮闘しています。



COVID-19 感染重症患者・他職種カンファレンスの風景

■ 院内における研究・発表

2020 年度院内看護研究発表会

倫理カンファレンス後の情報共有に対する看護師の意識調査

研究者：○木村美沙季 岡崎裕美

ICU・西3階病棟

■スタッフ

科長 吾郷 志津枝
主任 岩藤 美穂、坂井 真理子
大野 真由美
他 看護師 31名



■病棟の概要

ICUは、生命維持装置、患者監視装置などを用いての診療を必要とする患者の集中治療・看護を行う病棟です。対象は、緊急入院患者、大手術後の患者、および院内の急変患者であり、その治療に全力で対応をしています。

ICUは、特定集中治療室管理料3を取得しています。病床数は8床で2対1の看護体制です。

■看護

看護師の勤務形態は、病院内で唯一の三交代制であり、24時間2対1で切れ目のない看護を行っています。

今年は、5つの病棟活動チームを編成しテーマごとに活動しました。

1. 医療安全チーム

配合変化に注意が必要な薬剤についての一覧表の見直し、注意喚起を行いました。

内服薬のインシデントが多いため、定型指示の手書きを電子カルテに切り替えました。各科医師の協力を得ながら継続できています。

2. 業務改善チーム

記録での時間外削減を目標にし、手書き経過表の見直しを行いました。血ガスデータの転記を廃止し、今後経過表の廃止に向けて調整しています。

SPDのカード紛失、休日前のSPD物品在庫確認不足などスタッフに意識改善を促しています。

3. 家族ケアチーム

COVID-19拡大のため家族の面会が制限された年であるため、1泊入室以外の患者さんに対してICUダイアリーを導入し、ICUでも日々の変化、看護師の思いを記載し患者さん、ご家族にお渡ししています。

毎週金曜日の評価カンファレンス、医師を含め倫理カンファレンスの実施もできました。

4. 合併症予防チーム

救急医とリハビリスタッフと時間を調整し、リハビリカンファレンスを行っています。

VAP(人工呼吸器患者の肺炎)に関しては、全スタッフにポジショニング講習を行い、スタッフ全員が背面開放など適切な看護が提供できるよう指導できました。

5. 栄養管理チーム

早期栄養管理加算が始まり、精度やカンファレンスについてスタッフへ勉強会を行いました。毎週水曜日のカンファレンスについては、医師、薬剤師、管理栄養士、ICUリーダー看護師、受け持ち看護師が意見を出し合い実践できています。

■教育

新人教育は、プリセプター制を取っています。プリセプターも3年目のため、心に寄り添ってもらってお姉さんの役割をしてもらっています。技術については病棟全体で指導しています。新人は1年間、日々を振り返る用紙を使用して指導者と日々の看護を振り返っています。

COVID-19のため歓迎会を行えなかったので新採用者4名(うち新人2名)

にスタッフ全員のメッセージカードのついた「りんごの木」を送りました。



西 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 古 井 良 子

主 任 前 田 智 子、植 野 祐 子
麻 川 真 代

副 主 任 下 谷 恵 子、中 村 由 香 里

他 助産師 26 名 看護師 14 名 看護補助者 3 名

■ 病棟の概要

診療科は産婦人科・乳腺外科の混合病棟で、唯一の女性病棟です。病床数は 46 床、病床稼働率は 72.1% で、平均在院日数は 7.4 日です。重症度看護必要度の年間平均は 40.6% です。

2020 年度の分娩件数は 4347 件でした。（経膈分娩 314 件、帝王切開 120 件）婦人科では主に良性・悪性腫瘍手術、化学療法、異常妊娠、切迫流早産などの治療を行っています。乳腺外科は、主に乳癌や良性腫瘍の摘出術、化学療法を行っています。入院時から多職種で協働し、安心して治療に望めるように努めています。

■ 看護

2019 年 6 月より産後ケア事業、2019 年 10 月より助産師による全褥婦対象の産後 2 週間健診を開始しました。

産後の母親の心身の不調や産後うつ等を防ぐため、母子への心身のケアや育児サポートなどを行っています。

新型コロナウイルスの影響により、2020 年からマタニティクラスを休止しています。そのため、妊娠期の保健指導は個別指導で対応しています。外出制限や行動制限により、妊産婦の精神的ストレスは強い傾向にあります。助産師による保健指導の機会を妊産婦さんの精神的支援の場としても活用しています。また、ハイリスク妊婦に関しては、臨床心理士・医療ソーシャルワーカーと情報共有しています。2020 年度は保健師さんへ 132 名の要支援育児情報を提供しました。

名病棟外来一元化は 5 年目となり、病棟から外来へ交替で勤務し、現在ではスタッフの半数が外来業

務を行えるようになりました。病棟と外来での情報共有やスタッフの応援体制もとれるようになっていきます。

乳腺外科・婦人科では周手術期の看護や悪性腫瘍の化学療法・放射線療法の看護、終末期患者に対して同じ女性としての目線で患者さん・ご家族に寄り添った看護を提供しています。



■ 教育

新人看護師教育では、5 月～8 月に 15 回スタッフが講師を務める勉強会を企画しています。癌看護を中心に、全スタッフに対しての勉強会として 3 回企画しました。

助産師の能力向上を目的として、山口県の周東総合病院へ、2 名の助産師が出向しました。他施設での取り組みを体験し、助産業務の改善と個々のスキルアップができています。

■ 院内における研究発表

パートナーの主體的な育児を支えるために両親学級でできること～産後 1 ヶ月の育児を経験したパートナーと母親へのアンケートを用いて～

津賀麻美 竹本有里 植野祐子 麻川真代
田尾由美子 古井良子

西 5 階病棟

■スタッフ

科 長 西 村 留 美
主 任 高 野 正 義、島 津 加奈子
副 主 任 美 濃 智 子、中 田 恵 梨
他 30 名

■病棟の概要

診療科は整形外科で主に脊椎疾患患者の看護、急性期の看護を行っています。病棟スタッフは、看護師 30 名、看護助手 3 名で構成されており、勤務体制は 2 交代勤務です。

2020 年度の整形外科手術件数：1183 件 病床稼働率：83.0% 平均在日数 11.8 日

■看護



当科では固定チーム＋受け持ち制を行っており、入院時に患者さんへ受け持ち看護師が挨拶し、入院から退院までを責任をもって継続した看護を提供することに努めています。

男性看護師が 9 人在籍しており、看護師の 1/4 を占めています。男性看護師は患者さんの移乗や体位変換時に力を発揮してくれており、頼りがいがあると患者さんからの声もいただいています。

学会認定運動器看護師が 2 名在籍しており、中心となって開発的な看護を実践しています。

倫理カンファレンスを月 1 回開催し、よりよい看護のあり方は何かをスタッフ全員で摸索し、毎日の看護実践をより良いものにする事を心がけています。

■教育

コロナ下で参加出来る研修に限りがありますが、個人の趣味、感心に基づき、Web 研修会に参加しています。

スタッフ全員のキャリアラダー認定合格を目指すと共に、リーダーや実習指導者を育成しスタッフがさらに成長できるよう支援を続けています。

「整形外科看護にやりがいを持ち、働きやすい職場作り」を病棟目標の一つに挙げ、新人看護師とリーダー育成にペアナーシング制度を取り入れ、安心・安全な看護を提供しています。更に、時間外労働削減の為に、日勤では 8 時 15 分以降に出勤し、8 時半からパソコンにて情報収集開始することを徹底し、始業前残業を削減しています。勤務開始を定時通りとし、ゆとりをもって出勤できています。



■院内における研究・廿日市支部発表

「急性期整形外科病棟に勤務する看護師に腰痛予防ストレッチを実施した前後の腰痛及び対処行動の変化」

発 表 者 野川佳純 福岡遥

共同研究者 米原文江 島津加奈子

西 6 階病棟

■ スタッフ

科 長 秦 真規子
主 任 竹 村 美 鈴、平 本 廉 昂
岡 崎 裕 美
副 主 任 小 田 浩 子、有 本 ま い
他 看護師 35 名 看護補助者 3 名

■ 病棟の概要

【診療科】消化器外科

【病床数】60 床

消化器外科周術期から終末期まで幅広い看護を提供しています。2020 年度の平均病床稼働率は 85.5%、平均在院日数は 13.3 日となっています。また、在宅復帰率は 92.1%となっています。

■ 看護

看護体制は固定チームナースングをとっており、外科周術期看護、抗がん剤治療や緩和ケアを中心に看護を展開しています。「外科看護に特化した病棟」であるため、周術期医療・看護では、専門性を強化し、クリニカルパスを多数導入し、術後の合併症予防や皮膚・排泄ケア認定看護師と協働しながらストーマセルフケア指導に力を入れています。また、術後早期より、リハビリテーションの介入をし、地域連携室の多職種と連携をとりながら、早期より退院支援に取り組んでいます。

がん看護に対する抗がん剤治療や症状緩和看護では、薬剤導入時や食事摂取困難な患者に対して薬剤師や管理栄養士と協働してケアを展開しています。また、患者の自律性を守るように倫理的視点を踏まえたカンファレンスの実施を毎日行っています。これからも患者のニーズに対応できるよう支援していきます。

2020 年度の病棟目標は、

1. 患者に寄り添った充実した看護を提供する
2. 各委員会リンクナースが主体的に病棟内で活動する
3. 物品管理の意識を高める

と設定し日々の看護に励んでいます。安全で質の高い看護を目指し、チームリーダーを中心に、チーム

カンファレンスを実施し、情報共有しながら看護・医療の提供を行っています。

■ 教育

外科系看護に関することだけでなく、新人教育、接遇においても年間計画を立案し、病棟全体で勉強会を実施しています。また、院外研修への参加も推奨し、広島県看護協会で開催された研修会に各自が自主的に参加し伝達講習を行い、病棟全体の知識向上を目指しました。

新人看護師教育では、アソシエートが中心となり、主任やプリセプターと協働して年間計画の立案から勉強会の開催を行っています。それに基づき、チェックリストに添って基礎看護技術に対する OJT を行いました。

また、各委員会リンクナースが病棟内での活動による業務改善や、勉強会を通じて積極的な教育的活動に取り組みました。

コロナ禍で新人看護師を迎え、歓迎会もレクリエーションも実施できなかったため、新人看護師全員に巡視で使えるライトをプレゼントしました。これからも、よりコミュニケーションを図り、共有する力、伝える力を新人看護師にも伝えていけるよう教育していきたいと考えています。



■ 院内における研究・発表

第 34 回中国・四国ストーマリハビリテーション研究会で発表しました。

ストーマ看護教育実践能力尺度を用いた A 病院看護師の実態調査

研究者：○乗金利絵 三上理恵 岡崎裕美
今後も看護研究に取り組んでいきます。

西 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 村 中 ひろみ

主 任 平 野 有 紀、森 田 敬 子

副 主 任 立 石 久 子

他 看護師 33 名 看護助手 3 名

■ 概要

当病棟は病床数 55 床、個室（院内唯一の特別室 1 床を含む）7 室、4 人部屋 12 室を有する内科病棟で、病棟編成により消化器内科に加え、呼吸器内科患者さんも受け入れるようになりました。

消化器疾患では胆・肝・膵疾患の診断、治療のための内視鏡検査、呼吸器内科では肺炎・肺癌の患者さんが多く、2020 年平均在院日数は 10.9 日です。

■ 看護

看護体制は固定チームナーシングをとっており、それぞれ毎朝ミニカンファレンスを行い、情報共有してから 1 日をスタートしています。内視鏡検査は当日入院がほとんどで緊急入院も多いため、限られた時間の中で安心・安全な看護を提供するために毎月リーダー会を行い、業務改善に取り組んでいます。

2020 年から毎月倫理カンファレンスを行い、看護の振り返りをし、必要な症例があれば、地域連携室や外部の医療スタッフを交えてデスカンファレンスを行っています。

「膵がん・胆道がん教室」を集団指導から個別指導へ変更しました。社会情勢の変化に伴うものでしたが、質を落とすことがないよう看護研究という形で評価を行っています。

■ 教育

2020 年度は消化器内科経験豊富な看護師が講師を務め、内視鏡検査と看護について、また呼吸器内科から異動してきた看護師が講師となり、呼吸器内科疾患と看護について勉強会を行いました。新人教育についてはプリセプターが中心になり、独自のプログラムを作成し、それに沿って「腹水穿刺・還元」等シミュレーションを交えた勉強会を行っています。



もみの木森林公園ディキャンプ



愛情たっぷりカレー

■ 研究発表

廿日市支部看護研究発表会

消化器内科病棟におけるせん妄患者に対する看護師の意識調査～看護師のケア対応の違い～

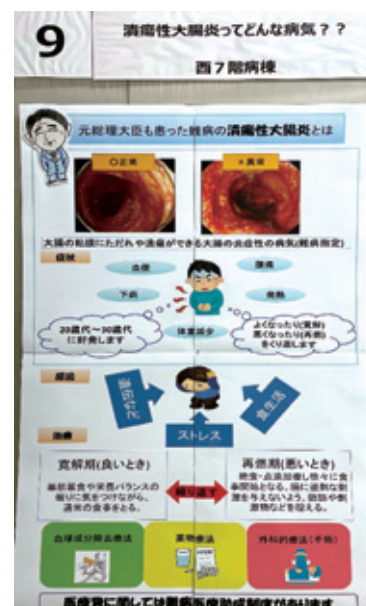
○村中美希 大越麻由子 松浦美由紀

院内研究発表会

膵がん・胆道がん教室不参加者の実態調査

～アンケート結果を通してみてきたこと～

○吉川真美 平野有紀



ポスター展

西 8 階病棟

■ スタッフ

科 長 宮 本 英 美
主 任 岡 本 信 子、岡 本 真 理
副 主 任 土 井 紘 子
他 看護師 30 名 看護補助者 3 名

■ 病棟の概要

当病棟は、呼吸器内科をはじめとする 3 つの診療科の混合病棟でしたが、COVID-19 感染拡大に伴い 2020 年 8 月より病床数 18 床の COVID-19 感染患者の専門病棟として稼動を開始しました。軽症から中等症Ⅱの患者を受け入れており、1 日あたりの新規入院患者数は平均 1 ～ 2 名でした。

■ 看護

COVID-19 病棟の稼動にあたり、院内感染を起こさないことを目標に掲げ、PPE の適切な着脱方法をはじめとした感染予防対策について、正しい手順を再確認し目標達成に向けて取り組みました。

パートナーシップナーシングシステムで看護を提供しており、日々の看護業務に加え、個室隔離入院のため、日常生活に必要な買い物や洗濯・掃除などを代行しています。また、タブレット面会や電話・メールを用いた患者・家族間のコミュニケーションの支援を行い、患者のストレスや家族の不安軽減にも努めています。勤務開始時には、ミニカンファレンスを行い、統一した看護が提供出来るよう情報共有に努めています。



■ 教育

看護職全員が協力し、COVID-19 の患者対応が出来るよう、スタッフ全員でマニュアルを作成し、異動者へ教育・支援を行っています。

また、院内留学制度を活用し、個人の知識を深めるだけでなく、伝達講習により知識・技術の共有も行いました。病棟全体では、定期的に勉強会を開催し、知識の共有を行いました。看護職だけでなく、医師や薬剤部など他職種も講師に迎え、勉強会をすすめていきました。

〈2020 年度開催した勉強会〉

- ・ COVID-19 について（医師）
- ・ COVID-19 の治療薬について（薬剤部）
- ・ 患者急変時のシミュレーション（看護師）
- ・ 酸素療法・HFNC（看護師）
- ・ 感染対策（看護師）
- ・ 院内留学後の伝達講習（看護師）

■ 院内における研究・発表

認知症・せん妄を有する患者のケアに対する困難感や抑制を行うことへの看護師のジレンマ～アンケート調査を行って～

◎下前敦子 高原さおり 若松優子 高橋早絵



東 3 階病棟

■スタッフ

科 長 川 村 洋 子

主 任 松 浦 美由紀、門 内 美 鈴

副 主 任 小 野 直 子

他 看護師 32 名 看護補助者 4 名

■概要

東 3 階病棟は、循環器内科・心臓血管外科を主とする混合病棟です。循環器内科では心筋梗塞・狭心症のカテーテル検査や治療、不整脈や心不全の患者、心臓血管外科は、心臓弁膜症・虚血性心疾患の外科的治療が必要な患者が入院されます。

■看護

看護体制は固定チームナースングを取り入れ、チームリーダーを中心に質の高い看護の提供に努めています。入院から退院まで切れ目のない看護を提供することを目的に、プライマリナース制度も導入しています。

【新人看護師教育体制の検討】当病棟では、毎年新人看護師を受け入れ、育成に励んでおります。今年度は、今までの教育体制を見直し、新人看護師のリアリティーショックを最小限にし、職場に安心して適応できることを目的に、教育計画を立案、実施いたしました。プリセプターがメンター（精神的な支え、良き相談相手）としての役割に専念できるように、指導的役割は他のスタッフが主に担当しました。その結果、プリセプターは新人看護師の良き相談役として、不安の緩和や悩みの相談役として、新人看護師のスムーズな職場適応に貢献することができました。また、病棟スタッフ全員で新人看護師を育成する風土の醸成の一助となりました。

【倫理カンファレンスの開催】近年は高齢の慢性心不全患者が増加し、入退院を繰り返しながら徐々に心機能が憎悪するケースが増えています。本人の意志とは反して元の生活に戻ることが難しいケースや治療の選択など、本人や家族の意思決定が求められる場面も多くみられます。看護師は患者・家族の意思決定支援を行いながら、患者にとってこの選択は本当にこれで良かったのか？患者や家族の想いは叶えることができたのか？といった倫理的ジレンマを感じる場面が増えてきています。今年度は主任を中

心に、医療や看護上の問題を倫理的な視点で捉えて、他職種を含めた倫理カンファレンスを定期的に開催しました。テーマには「患者にとって最善の選択はなにか」「患者の自宅に帰りたいという希望をあきらめていいのか？」などカンファレンスで患者・家族と向き合い、患者の QOL 向上をめざして看護に取り組むことができました。また、「その人らしさや想いを尊重して残された時間を寄り添えたか」「なぜケアを拒否し続けたのか？」など患者の退院後にも振り返りとして開催しました。振り返りを通して、看護師個々が倫理的看護実践とは何かを考える良い機会となりました。



(A さんの誕生日会)

■教育

教育担当主任を中心に立案した計画をもとにスタッフ全員で各研修会に取り組んでいます。講師には、医師や認定看護師など他職種にお願いし、専門的な知識習得に努めています。2020 年度は 8 回の研修会を開催しました。

RST 急変対応委員が企画した急変対応のシミュレーションは、コロナ渦の中、感染対策に注意し開催しました。致死的不整脈発生時の対応を中心に、気管内挿管の介助や心臓マッサージの実施など実践力を高める内容で企画・開催されました。シミュレーションの成果として、「心肺停止時の挿管介助技術に自信がもてた」などスタッフの技術習得に貢献しました。



東 4 階病棟

■ スタッフ

科 長 鶴 谷 理 恵
主 任 手 島 未 貴、坂 井 真理子
副 主 任 山 崎 美 佳
他 看護師 33 名 看護助手 2 名

■ 病棟の概要

東 4 階病棟は病床数 43 床の小児科・耳鼻咽喉科・眼科を主とし、いろいろな診療科の受け入れも行っている混合病棟です。8 月より病棟編成の変更により泌尿器科が加わりました。

■ 看護

2020 度は、患者さんも職員も満足できる看護実践を行うため、ペアナースの導入を行いました。目指す姿として①スタッフ間で情報共有し、自信をもって患者に安全なケアを提供できる。②知識・技術の伝達により、相乗効果が得られ人材育成ができる。③時間外が減少し、自己の時間が持て生き生きと働くことができる。としました。

ペアナースを導入することで新人看護師育成やインシデントの減少、患者満足度の向上に繋がっています。また、導入後のペアナースの意識調査でも良い方向へ変化したと多くの看護師が返答しました。急患入院・患者さんの急変など想定外の場面でも協力体勢が取りやすくなりました。9 月より完全に泌尿器科が加わり、それに伴って看護師の配置転換がありました。院内での配置転換によって生じるストレスに対してもペアナースにより、看護師間のコミュニケーションが増し、安心して看護を提供することができました。協働作業によってベッドサイドでリアルタイムに記録が出来ることから、時間外削減にも繋がり、それぞれがなりたい自分を目指し、日々自己研鑽に努めています。

泌尿器科では、週 4 回、主に膀胱癌・前立腺癌・腎癌・骨盤臓器脱などの手術があり、術前から術後まで患者さんに合った個別的な看護を行っています。また、がん治療のため、抗癌剤や放射線治療なども行い、

日々の全身状態の観察・家族看護も含めたケアをしています。

必要時には、入院時から個別性を考えて退院支援・調整に取り組んでいます。

■ 教育

看護の充実を図り、急性期における看護が提供できるよう技術研修・勉強会を行っています。

2020 年度 取り組み内容

- ・泌尿器科看護・術前・術後の看護
- ・前立腺生検の検査前後の看護
- ・鼠径ヘルニア手術前後の看護
- ・小児看護・外来看護・小児看護技術
- ・放射線治療・化学療法の看護
- ・急変対応

看護学生の小児看護学領域の実習も受け入れています。今年度は感染症の流行に伴い実習生を受け入れる体制も変更しました。少人数で、実習期間も短縮し、より多くの学生が臨床実習に参加できるように工夫し、未来の看護師育成にも力を入れています。

■ 院内における研究・発表

2020 年度院内研究発表会（書面発表）

「看護師ペアで行う業務導入後の看護ケアに対する意識調査」

○堀優太 戸田真巳子 辻由利恵 鶴谷理恵



東 5 階病棟

■ スタッフ

科 長 丸 澤 葉志子
主 任 岡 本 真 理、岩 崎 文 江
副 主 任 川 岡 めぐみ、小 西 香 理
中 村 香 織

■ 病棟の概要

東 5 階病棟は脳神経外科・歯科口腔外科の混合病棟で、2020 年 8 月から皮膚科も併診となりました。2020 年度の平均病床稼働率 82.4%、1 日辺りの平均患者数は 42.9 人でした。また、主科に関わらず診療科でも受け入れる体制で、空き病床があれば緊急入院を受けています。

■ 看護

2020 年度は 3 つの病棟目標を掲げました。

病棟目標

1. 患者・家族が安心・安全な入院生活が送れるように、看護を提供できる。
2. 職員が満足する看護ができるよう環境を整える。
3. 急性期病院として患者さんが安心して退院できるよう支援する。

昨年度は、申し送りを廃止し、時間外労働時間の削減に取り組みましたが、今年度は病棟間も職員の異動もあり、時間外が多い現状にありました。そのため、職員間の現場での教育と業務の補完を目的に 2020 年 8 月～ディペアナーシングを導入しました。ディペアナーシングの導入により、全体の時間外労働は 100 ～ 150 時間削減され、休憩時間も平均的に確保できるようになりました。

また 2020 年 12 月より、2019 年度看護業務効率化先進事例で最優秀賞を受賞した「ユニフォーム 2 色性とポリバレンタナース育成による持続可能な残業削減への取り組み」を熊本地域医療センターのサポートのもと、ユニフォーム 2 色性について取り組みました。ユニフォーム 2 色性は、時間管理を育む 1 つの戦略であり、日勤・夜勤でユニフォームを替えることで、誰に声をかけたらいいのかが一目瞭然

となり、スムーズな仕事の引き継ぎや残業削減につながることを期待できる試みです。

取り組みを行って、平均の時間外勤務時間の変化はみられませんでした。医師を含めた他職種・患者さんからの勤務者への声かけが増え、色で業務時間帯を区別した効果がみられました。また、業務の引き継ぎに関する、看護師の意識にも変化がみられ、2021 年 3 月で取り組みは終了しました。

脳神経外科の患者さんは特に、診療上の指示に従えない方が多く、安全のために見守りやセーフティコールの対応を行っています。これからも患者さんの安全を守り、職員も働きやすい環境になるよう取り組みを行っていきます。



日勤 8:30～17:00



夜勤 17:00～9:30

■ 院内研究・発表

急性期脳神経外科病棟看護師の腰痛予防行動実績の効果と今後の課題

中村香織 川岡めぐみ 山本なつみ
相原理紗 前田奈月 丸澤葉志子

東 7 階病棟

■ スタッフ

科 長 今 本 紀 生
主 任 加賀美 昌 美、平 野 有 紀
阿 部 伸 也
副 主 任 大 浦 真 美、安 藤 知 佳
他 看護師 36 名 看護補助者 2 名

(2020.9 現在)

■ 病棟の概要

東 7 階病棟は病床数 52 床、個室 12 室（うち重症個室 4 室）、4 人部屋 10 室の呼吸器外科、心臓血管外科、糖尿病代謝内科、腎臓内科の外科・内科の混合病棟です。

※新型コロナウイルス感染拡大に伴う病棟（診療科）の再編により、新たに腎臓内科が加わりました。

呼吸器外科では肺癌・気胸・膿胸・縦隔腫瘍、心臓血管外科は下肢閉塞性動脈硬化症・腹部動脈瘤・下肢静脈瘤、糖尿病代謝内科では糖尿病教育入院・血糖コントロール、腎臓内科では腎炎・ネフローゼ症候群・慢性腎不全等の治療を行っており、検査入院から外科的治療・終末期治療・教育入院まで幅広く受け入れています。

2020 年度の平均病床稼働率は 89.6%、平均在院日数は 14.0 日、看護必要度は 28.7%です。（※新型コロナウイルス病棟編成の影響を考慮し、下半期のデータで算出しています。）

■ 看護・他職種連携

看護方式は固定チームナースングと受け持ち制、一部パートナーシップ・ナースング・システムを併用しています。また、チーム医療の推進を目的に 4 診療科のカンファレンスを毎週（火：心臓血管外科、水：糖尿病代謝内科、木：腎臓内科、金：呼吸器外科）開催しています。カンファレンスでは、多職種がそれぞれの情報を提示し、患者情報を共有するとともに、今後の治療や退院・転院に向けた個別の問題についても検討し、在宅支援を進めています。



■ 教育

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2020 年度は学習の場が激減しましたが、従来、専門分野だけでなく幅広い知識の習得に向けて、院内外の研修に参加し、チーム内での伝達講習を行っています。また看護の知識だけでなく、カンファレンス内で多職種へ勉強会をお願いし知識の向上に努めています。

■ 手指消毒の啓発と手技の質向上に向けて

病棟の手指消毒回数（1 患者 1 日あたり）は全国規模で実施されているサーベイランスデータの平均を大きく下回っているため、まずは部署目標数に到達することを目指しています。また、実施数を増やすと同時に、正しい手指消毒の手技が定着することを目指して感染対策委員が音頭をとり、朝礼後に全員で手技を確認しながら手指消毒を行っています。



手術室

■スタッフ

科 長 山 村 健 二
主 任 中 村 多恵子、後 藤 友 美
副 主 任 田 中 猛、井 川 真 奈
黒 河 拓 矢
看護師 51名
臨床工学技士 2名
委託業者（日本ステリ、清掃・滅菌・中材業務）

■病棟の概要

当院手術室は13診療科の手術を行っており、2020年度の年間手術件数は5154件でした。急性期病院の手術室として患者さんが安心して手術を受けられ、安全で円滑に手術が進行するように知識、技術の習得に励んでいます。

近年の医療環境の変化に伴い、手術室看護師に求められるスキルも多様化、高度化してきています。その中で教育を推進していくと共に働き続けられる環境づくりが必要となります。今年度は日本看護協会主催の「看護業務の効率化 先進事例アワード2020」において、手術室の「チーム医療による新たな手術室運営方法の確立～組織を巻き込んだ3カ年計画の取り組みを通して～」が最優秀賞に選ばれました。フィールドイノベーション活動で可視化された問題点に対し、2交代制の導入や新たな教育システムの整備、外科系病棟への療養支援の導入など、勤務環境を整備し外科系看護師のキャリアデザインの構築に取り組んだ成果が評価されました。詳細については日本看護協会のホームページや厚生労働省の公式Webサイトで公開されています。



■看護

今年度の部署目標

- 1) 患者さんが安心・安全な手術を受けられる周術期看護を実践しよう

- ・実践した周術期看護を見える化していこう
(カンファレンスの場を持ち、どのような看護を行ったのかを振り返り共有する)
- ・周術期管理チームのスタッフ育成を通して専門的な知識を身につけよう
- 2) 急性期病院手術室としての役割を果たし、地域へ繋ごう
- ・療養支援を活かし、周術期看護を実践しよう
- ・二次的合併症を予防し、在院日数の短縮に努めよう



■教育

新人・病棟からの異動者に対しては“みんなで育てよう”をスローガンにスタッフ一丸となり育成に取り組んでいます。教育資料に関しても毎年スタッフが分担して作成しています。手術につくまでの1ヶ月間を座学による学習や実施トレーニングを行い、安心して手術室業務や看護を実践出来るよう取り組んでいます。

夜勤2交代制の導入に伴い、手術が行われていない時間は手術関連病棟への療養支援を実践しています。療養支援を通し、術中看護だけではなく、術後も患者さんと関わることが出来る体制が確立した事は、外科系看護師のキャリアデザインの構築にも繋がっています。今後は、周術期という一連の流れで手術室看護師が患者さん、ご家族と関わり看護実践出来る体制構築を目指していきます。

■研究発表

学会発表へ向け、1件取り組み中です。

居宅介護支援事業所

■スタッフ

管理者 奥 元 直 美

(介護支援専門員、看護師)

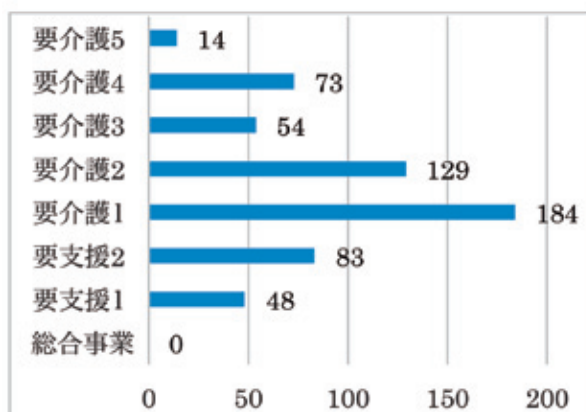
他 介護支援専門員(看護師) 1 名

■概要

介護が必要な方ができるかぎり住み慣れたご自宅や地域で自立して暮らせるように支えるのが、居宅介護支援事業所です。当事業所は、急性期病院、訪問看護ステーションに併設し、がん終末期の方や医療依存度の高い方を中心に、看護師の視点を活かし、丁寧な観察と状況予測に努め、介護サービスを提供する事業所や関係機関とも連携して、利用者とその家族の意向を尊重し、生活をサポートします。

■実績

- ・年間実利用者数 49 名
- ・新規利用者数 44 名 終了者数 33 名
- ※要介護度別利用者数 (のべ人数)



今もなお介護支援専門員(ケアマネジャー)が何をするのかを理解していない方も多く、介護保険がどのようなものか知らない人もいるのではないかと思います。今回は介護保険の基本的な事をポスター展で説明しました。

■教育

廿日市市地域包括支援センター、広島県介護支援専門協会、廿日市市介護支援専門員連絡協議会、廿日市市五師士会、院内外の研修(コロナ禍のため主

にオンライン)で自己研鑽に努めています。

■支援の実際

A氏: 90歳代 男性 妻と2人暮らし

妻のケアマネで介入中。肝臓癌が見つかり市内の病院へ緊急入院。コロナの影響で思うように面会ができず、息子様が在宅での看取りを希望されました。区分変更申請し、環境を整えて在宅療養開始。

スイカを食べたりしておだやかに過ごされ、2週間後に家族に見守られ、静かに息を引きとられました。

今年度は在宅で亡くなられた方が5人、病院で亡くなられた方が12人で、ターミナルケア加算が7名(癌病変の方で、亡くなる2週間以内に2日以上訪問が必要)取れました。在宅で看る自信の無かった方達も、コロナ禍で面会ができなため、連れて帰ってみようと思われた件数が多かったように思います。



今年度は車を購入していただきました。フル装備の新車に乗って、どこでも行こうと思います。

訪問看護ステーション

■スタッフ

管理者 藤本 七津美 (兼務)

副主任 本賀 邦子

他 看護師 6名

■概要

当訪問看護ステーションは急性期病院、居宅介護支援事業所に併設していることから、医療依存度の高い方やがん末期の方の利用も多い状況です。院内外の専門職との連携を図り、利用者の皆様が住み慣れたご自宅で安心して過ごせるように支援させて頂いています。

本年度より、土曜日営業日としており、夜間休日については待機制を取り、24時間365日電話対応・緊急訪問を行っております。

【実績】

	2020年度	2019年度
利用者数	86人	76人
新規利用者数	57人	43人
訪問件数	2,526件	2,156件
在宅看取り	16件	14件
介護保険割合	64.5%	50.7%
医療保険割合	35.5%	49.3%

■看護

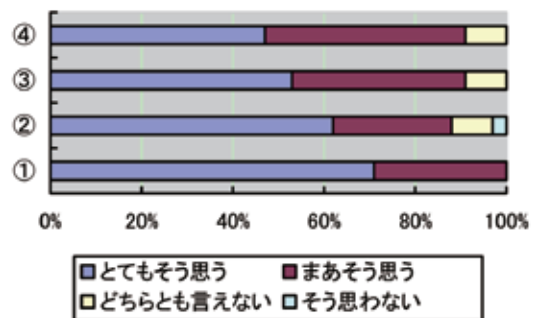
訪問看護は、医療保険・介護保険での利用ができ、医師の指示により個々の状況に応じた計画を立案し、週に数回から月に数回在宅療養者宅を訪問し、病状観察や清潔ケア、医療処置などを行います。一回の訪問時間はケア内容に応じて、30分～1時間30分以内となります。

実施する身体的なケアには「病状の観察」「人工肛門の管理や指導」「入浴介助などの清潔援助」「在宅酸素の管理」「床ずれ予防・処置」「在宅での看取り援助」などがあります。また、本年度はコロナの流行により利用者の皆さんの感染予防への取り組みについても指導をさせて頂く機会がありました。当ステーションの利用者の病名は、がん・循環器疾患・呼吸器疾患が8割近くを占めています。このため、先の身体ケアに加え内服管理に関する指導介入を行

うことも多くあります。

また、本年度は利用者の皆様にアンケートへのご協力をお願いし、回収率は83%でした。以下にアンケート結果の一部を紹介します。

- ①利用者や家族の希望や考えをよく聞いてくれる
- ②サービスを利用する前に比べて、心身の状態が安定した、苦痛や症状が和らいだ
- ③サービスを利用する前に比べて、不安や困ったことが軽減した
- ④サービスを利用する前に比べて、自宅での生活に自信を持つ事ができた



利用者の状況は、訪問看護だけで解決できるものではありませんが、②～④の項目においてプラスの評価が得られるように今後も取り組んでいきます。

【訪問看護の利用風景】



■教育

看護学生の実習を受け入れていますが、(病院の対応に準じて) 県内の感染状況により訪問時間の調整や実習そのものを中止するなどといった対応を行いました。

薬剤部

■スタッフ

部長 橋本佳浩
 科長 中島恵子
 科長補佐 磯貝明彦、松本里恵
 主任 大原由希子、正嶋和美
 白井敦史、角井碧
 吉廣尚大

薬剤師 計37名（産休2名含む）

事務 5名

〔人員配置〕

西4、西5、西6、西7、西8、東3、東4、東5、東7、HCU、ICU
 病棟に病棟薬剤師を配置

がん化学療法専任 3名 ICT専任 1名

NST専任 1名 緩和ケア専任 1名

DI専従 1名

チーム医療への参画（ICT、NST、医療安全管理、RST、緩和ケア、
 認知症ケアサポート、心臓リハビリテーション）、糖尿病教室、心
 臓病教室、各診療科カンファレンスへの参画

■業務内容

調剤業務：外来 444枚／日（院外処方箋発行率0%）
 入院 297枚／日

注射調剤 696件／日

TDM（VCM・TEIC・ABK）10症例／月

TPN調製 60件／月 院内製剤 48品目

抗がん剤無菌調製：外来20.9件／日 入院3.4件／日

がん指導管理料3算定（薬剤部のみ）465件／年

薬剤管理指導算定件数 379件／月 治験7件／年

持参薬鑑別 199件／月 実務実習 9名／年

薬品管理、医薬品情報（DI）、後発医薬品選定、抗
 がん剤レジメン構築・管理



TPN混合調製は薬剤部無菌室内クリーンベンチで
 清潔操作・正確な調製を行っています。抗癌剤調
 製は抗癌剤調製室内安全キャビネット、可能な
 場合は閉鎖式システムを活用し、安全、適切かつ
 正確に調製しています。

■その他活動内容

プレアボイド：119件／年（外来・入院合計）

委員会事務局：（院内感染対策委員会、薬事委員会、
 治験委員会、がん化学療法運営委員会）

薬剤部 定期勉強会・症例検討会 約1回／月

◇全病棟に専任薬剤師を配置。医師・看護師等、他
 職種と協働し、地域連携にも目を向けた情報提供
 を心がけ、患者の入院時から退院後までのシーム
 レスで適切な薬学的管理に努めています。

外来患者に対しても、全処方方を丁寧に監査。疑
 義照会や情報提供および患者への服薬指導を通
 じ、薬剤師の専門職能を活かして、多岐にわたる
 医薬品適正使用のゲートキーパーとして日々の業
 務を遂行しています。

また、医薬品の出荷調整、欠品についてタイム
 リーな情報収集による在庫管理を行い、適正かつ
 安全な薬物治療の実現に大きく貢献しています。

〔主な取得資格（認定、世話人等）〕

救急認定薬剤師1名、医療薬学専門薬剤師1名、
 外来がん治療認定薬剤師3名、がん薬物療法認定薬
 剤師1名、緩和薬物療法認定薬剤師2名、感染制御
 認定薬剤師2名、抗菌化学療法認定薬剤師1名、周
 術期管理チーム薬剤師1名、小児喘息アレルギーエ
 デュケーター1名、心臓リハビリテーション指導士
 1名、病院薬剤師会認定指導薬剤師2名、研修セン
 ター認定実務実習指導薬剤師5名、糖尿病療養指導
 士5名、NST専門療法士1名、スポーツファーマシ
 スト2名、ICLSインストラクター1名、危険物取扱
 者1名など

全国厚生連病院薬剤師長会議理事1名、県病院薬
 剤師会理事1名、県病院薬剤師会委員会（医薬品情報
 委員1名、地域医療連携支援検討委員1名、専門薬
 剤師委員（感染）1名、（がん緩和）2名、（糖尿病）
 1名、薬剤業務委員1名



臨床研究検査科

■スタッフ

主任部長 石 田 和 史 (兼務)
 部 長 碓 井 裕 史 (兼務)
 精度管理部長 藤 井 隆
 科 長 福 岡 達 仁
 科長補佐 三 舩 正 志
 主 任 小 松 浩 基、長 尾 専
 山 本 加代子、藤 岡 朋 子
 池 部 晃 司、荒 瀬 美 幸
 副 主 任 嶋 田 恵 美
 医師 (兼務を含む) 3 名
 臨床検査技師 (役職者を含む) 42 名
 助手 2 名

【資格取得】

認定管理検査技師 1 名 認定輸血検査技師 1 名
 認定臨床化学者 1 名 認定血液検査技師 1 名
 認定一般検査技師 1 名 認定心電検査技師 5 名
 細胞検査士 1 名 感染制御認定臨床微生物検査技師 1 名
 日本糖尿病療養指導士 1 名 DMAT 隊員 1 名
 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 1 名
 医療情報技師 3 名 医療環境管理士 1 名
 超音波検査士 8 名 (消化器 2、体表臓器 1、循環器 3、
 泌尿器 2) 血管診療技師 4 名 乳がん検診超音波
 検査実施技師 3 名 認定認知症領域検査技師 1 名
 POC コーディネーター 1 名 POCT 測定認定士 1 名
 聴力測定技術者 1 名 認定心電図専門士 1 名
 救急臨床検査士 5 名 二級臨床検査士 15 名
 (血液 5、循環器 4、脳神経 1、呼吸生理 1、病理 1、
 微生物 1、免疫血清 1 臨床化学 1)
 第 1 種衛生管理者 1 名 衛生工学衛生管理者 1 名
 一般毒物劇物取扱者 5 名 危険物取扱者 1 名

【施設基準】

日本臨床衛生検査技師会 認証精度保証施設
 同 標準化事業 基準基幹施設

【論文・学会】

論文：1 本、学会発表：4 題、講演・発表：3 題
 「2 台の自動血球分析装置における新鮮血液を用いた
 複合型内部精度管理の運用について」広島臨床検査
 9 巻 Page6-10 他

【主な業務実績】

『生理検査』	件 数		件 数
心 電 図	22,459	C A V I	3,317
超 音 波 検 査	14,817	OPE 室 関 連	245
『検体検査』	検体数		検体数
血 算	103,000	凝 固	23,573
生 化 学	131,412	輸 血	2,362
尿 一 般	58,388	尿 沈 査	26,819
『微生物検査』	検体数		検体数
細 菌 培 養	5,177	血 液 培 養	4,229
抗 酸 菌 培 養	639	P C R	1,481

【部門内研修会】

* 遺伝子の基礎 * 心タンポナーデについて
 * PCR の基礎と実際 * 凝固検査のピットフォール
 * 脳波検査について * 血液培養検査について
 * Fe・UIBC・フェリチンについて
 * 血沈自動測定装置 Roller20 内部精度管理の検討
 * 測定不確かさの推定方法
 * 顕微鏡の使い方 * 危険な心電図
 * 新凝固検査機器 CP3000 の説明と凝固検体取り扱い

【外部精度管理調査報告】

・ 日本臨床衛生検査技師会 99.5 点 (242/243)
 ・ 日本医師会 99.4 点 (651/655)
 ・ 広島県医師会 100 点 (545/545)

■トピックス

COVID-19 診断検査関連では、入院前・発熱患者等の院内感染防止対策に連携、また 12 月末より簡易 PCR 検査機器を導入し時間外も緊急対応しました。設備では生理検査システム (フクダ電子)、血液検査システム (シスメックス社 XN シリーズ等) が更新されました。



中央放射線科

■ スタッフ

主任部長 西 原 礼 介 (兼務)
 科 長 山 口 裕 之
 科長補佐 本 山 貴 志
 主 任 高 畑 明、砂 田 研 二
 下土居 一、柳 井 環
 副 主 任 中 河 聖 司、池 田 将 敏
 診療放射線技師 (役職者含む) 24 名

【取得資格】

第 1 種放射線取扱主任者	4 名
エックス線作業主任者	5 名
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	3 名
第一種作業環境測定士 (放射線)	1 名
検診マンモグラフィ撮影認定技師	4 名
核医学専門技師	1 名
救急撮影認定技師	1 名
X 線 CT 認定技師	4 名
医療情報技師	2 名
肺がん CT 検診認定技師	2 名
医用画像情報管理士	1 名
臨床実習指導教員	2 名
Ai 認定診療放射線技師	3 名
放射線管理士	1 名
放射線機器管理士	1 名
ICLS プロバイダー	1 名
ISLS プロバイダー	1 名
画像等手術支援認定診療放射線技師	1 名

【所属学会】

日本診療放射線技師会 日本放射線技術学会
 日本乳癌検診学会 オートプシーイメージング学会
 日本消化器集団検診学会 日本核医学技術学会
 日本超音波検査学会 日本 CT 技術学会
 日本磁気共鳴医学会 日本乳房画像研究会
 日本乳腺甲状腺超音波学会

【世話人等】

公益社団法人 日本診療放射線技師会代議員
 公益社団法人 広島県診療放射線技師会副会長

公益社団法人 広島県放射線技師会西部地区理事
 NPO 日本乳癌検診学会評議員
 日本核医学技術学会中国・四国地方会理事
 広島臨床画像研修会幹事 (事務局)
 ひろしま乳房画像研修会 (事務局)

■ 認定施設基準

日本乳がん検診精度管理中央機構認定 マンモグラフィ検診施設画像認定施設

■ 部内研修会 (1 回/月)

2020 年度は新型コロナウイルス感染症のため中止

■ 業務内容 (トピックス)

2020 年 9 月に新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備事業により、2 台のポータブル装置が導入されました。本装置には、ワイヤレスフラットパネルディテクタを搭載しており、撮影された画像がその場で確認できる仕様となっています。また、撮影された画像は無線 LAN にて画像サーバーや検像装置に転送され、電子カルテから即座に閲覧可能となっています。



臨床工学科

■スタッフ

主任部長 吉 田 研 一

科 長 瀬 尾 憲 由

主 任 荒 田 晋 二、平 野 恵 子

臨床工学技士（CE）15名（科長・主任含む）

【認定資格取得】

- ・体外循環認定士：3名
- ・3学会合同呼吸療法認定士：6名
- ・透析技術認定士：2名
- ・不整脈治療専門臨床工学技士：1名
- ・呼吸治療専門臨床工学技士：1名
- ・消化器内視鏡技師：3名

【所属学会】

- ・日本臨床工学会・日本体外循環技術医学会
- ・日本集中治療医学会・日本呼吸療法医学会
- ・日本人工臓器学会・日本高気圧環境医学会
- ・日本呼吸ケアリハビリテーション学会
- ・日本透析医学会・日本消化器内視鏡技師学会

■部門紹介

臨床工学技士は、医師や看護師とチームを組んで「生命維持管理装置の操作や各種医療機器の保守点検・修理」を行います。臨床工学科は現在15名でさまざまな業務と各専門性に対応するためチームに分かれて業務を行っており、手術室・人工透析室・集中治療室・心臓カテーテル検査室・内視鏡室・一般病棟など院内のさまざまな分野で活躍しています。

■業務内容

『手術室業務』

- ・人工心肺症例数：47例

『整形外科立ち合い業務』

- ・立ち合い症例数

頸椎・脊椎固定：69例 上肢・下肢：193例

下肢関節置換：27例

『EVT立ち合い業務』

- ・EVT症例数：376例

『救急・集中治療業務』

- ・急性血液浄化療法各症例数

CHDF：110例、アフエレーシス：4例

- ・補助循環装置（VA-ECMO、W-ECMO）、IABP各症例数

VA-ECMO、W-ECMO：11例 IABP：29例

『循環器業務』

- ・CAG、PCI、PMI、ABL各症例数

CAG：297例 PCI：232例 PMI：41件

PMR：6件 ICD：11例 ABL：86例

『血液浄化療法』

- ・慢性透析症例数：4036回

- ・白血球除去療法（LCAP：GCAP）症例数：66回

『高気圧酸素療法業務』

- ・症例数：238例

主な疾患：突発性難聴、網脈動脈閉塞症など

『内視鏡業務』

- ・ESD、ERCP、EMR各症例数

ESD：169例 EMR：586例 ERCP：352例

『慢性期・在宅医療支援業務』

- ・人工呼吸器やNPPV（NIP、ASV）などの在宅医療支援（HST）活動としての在宅訪問：0回

※ COVID-19により訪問は行っていません

■トピックス

在宅酸素業務開始

これまでは病棟で管理をしていましたが、今年度から臨床工学科で管理をさせていただくことになりました。医師からの指示で数社ある在宅酸素業者から患者さんの生活に沿ったものを選択し、導入時には機器の取り扱いや、安全に使用していただくための説明もさせていただいています。まだ、始めたばかりの業務ではありますが、これからも患者さんに沿った機器を提供できるように日々研鑽していきたいと思います。

リハビリテーション科

■スタッフ

センター長 黒 木 一 彦 (兼務)

部 長 小 林 平 (兼務)

部 長 山 田 清 貴 (兼務)

科 長 村 上 嘉 章

主 任 小 林 恭 子

主 任 本 間 智 明

主 任 折 手 祐 一

主 任 飛 鷹 恵 理

主 任 上 田 雅 美

副 主 任 井 場 和 敏

理学療法士 13名 (役職者含む)

作業療法士 5名 (役職者含む)

言語聴覚士 4名

【認定資格取得】

3 学会合同呼吸療法認定士：10 名

心臓リハビリテーション指導士：3 名

日本糖尿病療養指導士：3 名

住環境福祉コーディネーター 2 級：3 名

介護支援専門員：2 名

リンパ浮腫複合的治療技術者：2 名

弾性ストッキングコンダクター：1 名

社会福祉士 ：1 名

認知症ケア専門士：1 名

腎臓リハビリテーション指導士：1 名

認定言語聴覚士 (摂食・嚥下領域)：1 名

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士：1 名

がんリハビリテーション研修修了者：15 名

【認定施設基準】

運動器リハビリテーション料 (I)

呼吸器リハビリテーション料 (I)

脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)

心大血管リハビリテーション料 (I)

がん患者リハビリテーション料 (I)

リンパ浮腫複合的治療料

【所有管理機器】

自転車エルゴメーター・トレッドミル・渦流浴・ホットパック・起立台・低周波・スパイロメーター・心リハ専用モニター

■部門紹介

当科では入院患者さんを中心に院内全科からリハビリテーションの依頼を受けています。障害や疾患を持つ方々の残存機能を最大限に高めながら、その人らしい生活を実現するために、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士がそれぞれの専門性を活かしてリハビリ介入をしています。

■トピックス

今年度より呼吸器外科手術後患者さんにおける退院後の外来リハビリテーションを開始しました。以前から術前リハビリテーションは実施していましたが、術後の外来リハビリテーションでは、体力回復の促進や酸素療法の調整などを行い、患者さんがよりよい生活が送れるよう支援します。



また、大腿骨頸部骨折術後患者さんの術後リハビリテーションの介入に作業療法士も加わりました。

大腿骨頸部骨折をきたした患者さんは高齢で入院中に認知機能の低下がみられることがあるため、認知機能に合わせたトレーニングを早期から提供し、廃用症候群を予防します。



栄養科

■スタッフ

主任部長 香 山 茂 平 (兼務)
科 長 河 本 良 美
主 任 上 村 真由美
他 9 名
委託 (調理部門) (株)日米クック

■[人員配置]

外来指導担当 常時 3 名
病棟担当 各 1 名
NST 専従 1 名 (上村 真由美)

■[取得資格]

病態栄養認定管理栄養士 4 名
日本糖尿病療養指導士 3 名
NST 専門療法士 3 名
がん病態栄養専門管理栄養士 1 名
暫定臨床栄養代謝専門療法士 1 名

■[所属学会]

日本病態栄養学会 7 名
日本静脈経腸栄養学会 4 名
日本糖尿病学会 1 名
心臓リハビリテーション学会 1 名

■業務内容

■[栄養指導]

栄養食事指導では、患者さんの食生活・食習慣などを考慮した個別指導や、集団指導を実施しています。

〈2020 年度 実績〉

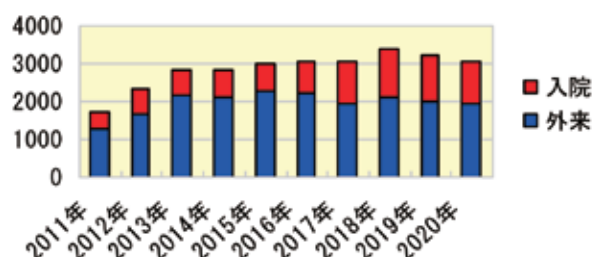
・個別指導

外来	1,938 件	入院	1,102 件
糖尿病	1,087 件	心血管疾患	459 件
心血管疾患	189 件	糖尿病	167 件
その他	662 件	その他	476 件

・集団指導 18 件

糖尿病教室 1 回/週 (毎週 火曜日)
腎臓病調理実習 (感染対策のため中止)

〈個人栄養指導件数の推移 (件)〉



■[給食]

調理部門の協力のもと、安全で美味しい食事の提供を心がけています。

〈2020 年度 実績 (月平均)〉

一般食 10,459 食/月 特別食 18,063 食/月

■施設基準

入院時食事療養 (I)

■その他活動内容

患者サービス：行事食、退院食、全国統一献立
参加チーム活動：NST、褥瘡、緩和ケア、認知症、RST
(2020 年度は感染対策のため以下中止)
集団栄養教育：妊産婦教室、膵がん胆道がん教室、心臓病教室
その他：あいプラザまつり (糖尿病グループ)、腎臓病

市民公開講座、心臓いきいきキャラバン

■トピックス

当院では地産地消の取り組みの1つとして、給食に吉和産のお米「ひとめぼれ」を使用しており、患者さんから「ご飯が美味しい」とありがたい言葉をかけていただくことがあります。

さらに今年は、佐伯中央農協さんより栗谷で採れた「男爵いも」をいただく機会があり、ポテトサラダなどに調理し、入院患者さんの給食として提供させていただきました。

今後も出来るだけ地域の食材を使い、安心して美味しい給食を提供していきたいと思っています。



診療情報管理科

■ スタッフ

科 長 砂 田 朋 子
他 9 名

【資格取得】（科長を含む）

診療情報管理士 6 名
院内がん登録実務中級認定者 2 名
院内がん登録実務初級認定者 2 名
医療情報技師 2 名
DPC コース認定 1 名
腫瘍学分類コース認定 1 名

【所属学会】

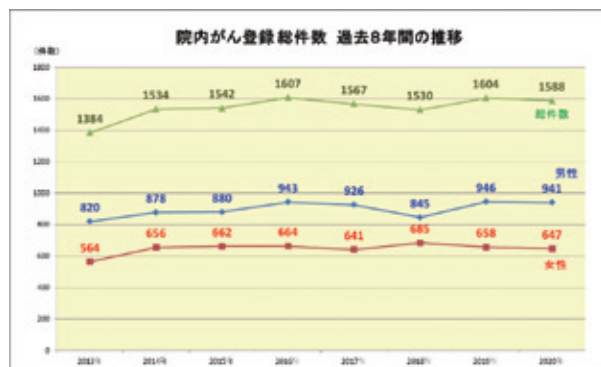
日本診療情報管理士会
日本診療情報管理学会
日本医療情報学会

■ 活動報告

〈がん登録業務〉

地域がん診療連携拠点病院として「院内がん登録は国へ」、「全国がん登録は県へ」データ提出を行っています。

また、院内がん登録実務中級認定者に 1 名合格いたしました。院内がん登録業務のさらなる精度向上を目指し、引き続き研鑽に励みます。



〈Medoc スキャン業務〉

当科へ搬入された同意書等は内容点検後、一両日中（不備分を除く）にスキャンし、不備分は都度対応を行っています。スキャン後の同意書等は 6 ヶ月保管し、その後破棄処分しています。（タイムスタンプが付与され、電子データの原本性が担保される

ため）

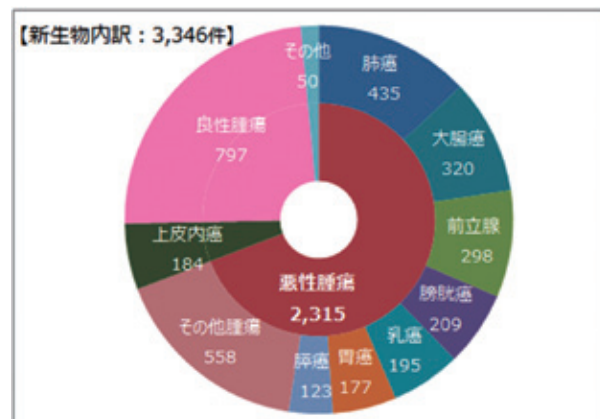
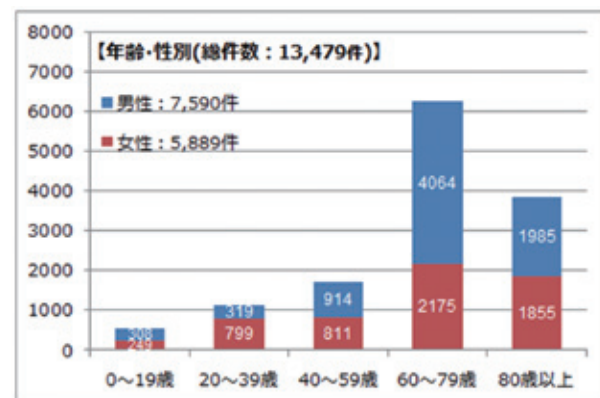
また、同意書等の記載不備が減少するよう、可視化し、各部署へデータ還元を行っています。

〈サマリ業務〉

医師の退院時サマリを基に国際疾病分類によるコーディングを行っています。

2020年度(総件数：13,479件（転科を含む）)

順位	病名(大分類)	件数
1	新生物 (C00-D48)	3,346
2	循環器系の疾患 (I00-I99)	1,999
3	消化器系の疾患 (K00-K93)	1,731
4	損傷、中毒およびその他の外因の影響 (S00-T98)	1,078
5	腎尿路生殖系系の疾患 (N00-N99)	1,007
6	呼吸器系の疾患 (J00-J99)	899
7	筋骨格系および結合組織の疾患 (M00-M99)	898
8	妊娠、分娩および産後<産後> (O00-O99)	565
9	眼および付属器の疾患 (H00-H59)	403
10	その他の疾患	1,553



〈その他業務〉

量的点検と監査、データ作成業務、各種督促業務
紙カルテの貸出業務 など

医療安全管理室

■ スタッフ

室長 徳毛 宏 則 (兼務)
次長 平松 武 (兼務、2020年9月まで)
中光 篤志 (兼務、2020年10月より)
科長 松下 理恵
専従リスクマネージャー

■ 部門紹介

医療安全管理室は「患者さんが医師・医療機関を信頼し、医療提供者も安心して医療提供できるシステム構築をめざし、患者さんと医療提供者双方の安心・安全の確保につなげる」ことを目標に、医療事故防止対策委員会や院内 RM 管理部会を中心とし、各部門と連携し安全な医療の提供に取り組んでいます。

■ 活動内容

[院内 RM 管理部会]

* 毎週月曜日 16:10 ~ 17:00 開催。提出されたインシデント報告書を元に事案発生の原因、対策に関する提言を行います。事案によって各部署・部門対応とするのか組織対応とすべきかの検討を行います。また、各部署における職員の安全意識の向上等、医療安全管理の推進に向け取り組んでいます。

* メンバー紹介

徳毛 宏則 (副院長・医療安全管理室室長)
平松 武 (診療部長・医療安全管理室次長 2020年9月まで)
中光 篤志 (副院長・医療安全管理室次長 2020年10月より)
松下 理恵 (医療安全管理室科長)
近藤 丈博 (診療部長)
村中 好美 (看護部副部長・医療安全管理担当)
村田美智子 (看護科長)
角井 碧 (薬剤師: 薬剤部主任、医療安全研修終了)
荒田 晋二 (臨床工学技士: 臨床工学科主任)
藤岡 朋子 (臨床検査技師: 臨床研究検査科主任)
高畑 明 (診療放射線技師: 放射線科主任)
村上 嘉章 (理学療法士: リハビリテーション科長)
山下 雄三 (総務課係長)

[医療事故防止対策委員会]

* 委員は上記の院内 RM 管理部会メンバーと各部門長等により構成されています。

* 定例委員会は毎月第3木曜日 17:00 開始で、医療安全管理室からの提案事項の検討、本委員会関連事項の検討、医療安全研修会の企画実施、委員

会の伝達を担っています。

* 毎年テーマを決めて活動しており、今年度は「なくそう! 誤認」をテーマに取り組んできました。

また、医療安全推進週間には院内 ROUND により現場の状況確認を行っています。ROUND は6担当あり、その一つである薬剤チームでは上半期のインシデント報告から「なぜ PDA 認証が省略されるのか」という点に着目し、バーコード認証に関するアンケート調査を実施、各部署のバーコード認証の実施状況を確認し、未実施の背景として考えられる事を分析し対策の検討をしました。

また、情報関連チームは「情報漏洩につながる不要アクセスの調査」をテーマに新型コロナウイルス感染症で入院された患者さん5名のアクセス履歴を確認しました。業務外閲覧はありませんでしたが、「アクセスに心あたりがない」との回答もあったことから適切なログアウトを実施する風土の醸成に努めていきたいと考えています。



■ 認定施設基準

- ・医療安全対策加算 1
- ・医療安全対策地域連携加算 1

加算 1 同士は相互評価、加算 2 の施設には赴いての評価を実施しました。

■ 2020 年度トピックス

* 入院中の転倒・転落事案は常に報告されており、要因分析を進めていく中で高用量の睡眠導入剤の関与が否定できない事案も確認されました。これにより他職種での検討をすすめ、睡眠導入剤の採用薬について見直しが必要との判断から、採用規格の変更、低用量での不眠時指示の統一、病棟配置薬の変更に向け取り組んでいます。

地域医療連携室

■ スタッフ

室長 藤本 七津美
係長 寺岡 みゆき
事務職 2名

【認定資格取得】

- ・社会福祉士
- ・精神保健福祉士
- ・認定医療メディエーター B

【所属学会】

- ・日本社会福祉士会
- ・日本医療メディエーター協会
- ・広島県医療ソーシャルワーカー協会

■ 部門紹介

当院は地域医療支援病院であり、広島西医療圏を中心とした地域の医療機関に対して支援を行っています。紹介患者さんに対する医療提供や医療機器等の共同利用を通じた「かかりつけ医の支援」や「地域医療従事者への研修機会の提供」などの役割も担っています。

当該部署である地域医療連携室は、地域と連携する病院の窓口として他医療機関等から患者紹介を受けた際、患者さんをスムーズにお受け入れするための前方連携の業務全般を行っています。紹介頂いた患者さんの情報収集、院内の調整等を行い、紹介元の医療機関と連携を取っています。また、地域住民、行政、介護保険施設等とも連携させて頂いています。なお、後方連携については総合医療相談室が担当しており、患者さん・ご家族の意向と医療の必要性等から療養先を検討させて頂いています。

【医療連携】

例年、近隣の医療機関へ訪問させて頂いておりますが、今年度は訪問を中止し、書面によるアンケートをさせて頂きました。

○満足の高い診療科

①消化器内科 ②外科 ③循環器内科

○よく紹介する理由

①診療スタッフの充実 ②必要な設備が整っている ③場所が近い、患者さんの希望

頂いたご意見を真摯に受け止め改善を進めております。

【紹介率・逆紹介率の推移】

	紹介率	逆紹介率
2018年度	90.3%	95.7%
2019年度	92.7%	99.2%
2020年度	95.4%	106.7%

■ 研修会等

【医療従事者】

例年月1回以上開催している地域医療従事者研修会ですが、コロナの流行により計画通りの開催は困難でした。以下は、開催できた研修の一部です。

「地域医療従事者研修会テーマ」

- 地域（在宅）で行う糖尿病管理 インスリン編
- 地域（在宅）で行う糖尿病管理 フットケア編
- 感染症標準予防策について～在宅編～
- コロナ！コロナ！コロナ！



【市民公開講座】

準備委員会を開催し検討を進めていましたが、感染終息の見通しが立たない状況での集客開催は困難との判断に至り、今年度は中止となりました。次年度以降の開催に向け調整を進めています。

総合医療相談室

■スタッフ

センター長 中 光 篤 志 (兼務)
 室 長 藤 本 七津美 (兼務)
 主 任 中 村 希 (看護師)
 桐 山 葉 子 (社会福祉士)
 他 看護師 6 名 社会福祉士 3 名

【認定資格取得】

- ・認定医療コーディネーター B
- ・認定がん専門相談員
- ・摂食嚥下障害看護認定看護師

【所属学会】

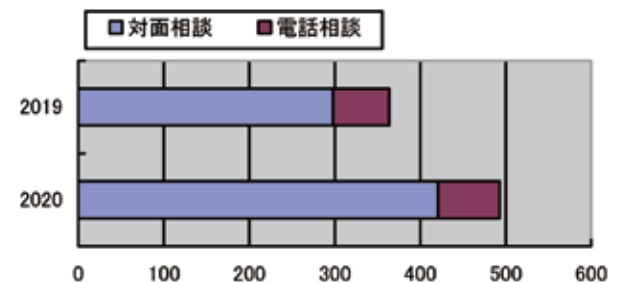
- ・日本医療社会福祉協会
- ・日本社会福祉士会
- ・日本医療ソーシャルワーク学会
- ・摂食嚥下リハビリテーション学会

■部門紹介

総合医療相談室は、急性期病院での治療が終了された患者さんが、その人らしく安心して地域で生活できるように、医療・福祉の両面から個々の患者さんの状況に合わせた支援を行っています。予定入院では入院決定後より入院患者センター看護師が説明を中心とした支援をさせて頂いています。また、退院に向けた介入が必要と判断された患者さんについては、総合医療相談室の担当看護師・社会福祉士が入院後早期に患者さん・ご家族と面談を行います。その後、意向を確認した上で状態に応じた療養先（自宅を含む）を調整します。また、コロナ禍であり病院への入館制限及び面会制限を行っていますが、退院カンファレンスについては十分な感染管理を行い随時開催しています。

また、当院は地域がん診療連携拠点病院の役割も有しており、「がん相談支援センター」では様々な内容のがん相談にも対応しています。今年度は、がん相談支援センターの相談事業の一部を紹介します。

【相談件数（地域がん診療拠点病院報告分）】



【相談者の受診状況】

	2020 年度	2019 年度
自施設通院中	304 件	202 件
自施設入院中	175 件	131 件
他施設通院中	16 件	4 件
他施設入院中	3 件	0 件
その他	2 件	3 件

相談での上位内容は、①医療費・生活費・社会保障制度 ②不安・精神的苦痛 ③在宅医療 ④ホスピス・緩和ケア ⑤社会生活（仕事・就労・学業）⑥症状・副作用・後遺症となっています。

相談の時期においても、診断に至る前の検査中から、治療前、治療中、治療後と様々です。情報提供での対応も行っています。

■研修会等

例年であれば複数回開催の「おしゃべりサロン（がん患者サロン）」ですが、今年度は7月に村田利恵子先生による「簡単ネイルケア」を開催しました。感染に注意しながら、ハンドマッサージやネイルケアなど、化学療法で痛んだ爪のお手入れを体験して頂きました。



総務課

■ スタッフ

課 長 凝 重 衛

係 長 山 下 雄 三

他総務担当 5 名

医局秘書兼務 1 名

病院安全管理室担当 1 名

業務委託

電話交換室 6 名

警 備 8 名

院内保育室 19 名

オープンホスピタルや院内コンサート等のイベントの運営にも携わっていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により今年度は中止となりました。

病院内外の円滑な運営のため、潤滑油としての役割を果たせるよう頑張っています。

■ 業務概要

総務課は、事業計画の策定や進捗管理、日々の現金支出から収支の月締め処理、年度終わりの決算や半期の仮決算処理等の経理一般から、院外からの来客の接待や院内の調整等の庶務一般までを主な業務としています。また、職員に対しては職員預り金の管理や共済資金の貸付等の福利厚生的な業務、学会、研修等へ出張する際の旅費支給も行っています。

経理一般については、中期経営計画（3～5 年計画）をはじめとして次年度の単年度事業計画の策定を行います。費用に関しては事業計画に基づき、適正なものかを確認した上で支出しています。計画外の支出に関しては院内決裁、金額によっては本部申請を行い支出しています。計画に関しては四半期毎の進捗管理表作成、月 1 回開催する病院幹部会議（運営委員会）での収支報告等進捗管理を行っています。

病院安全管理担当として警察 OB を配置し、患者並びに職員の安全管理に努めています。

業務委託している、電話交換窓口に関すること、院内警備や利用者用駐車場に関すること、院内保育室に関すること等も総務課の業務となります。院内保育室については、当初看護職員の利用のみとしていましたが、現在では職種を問わず、病院職員誰でも利用可能とし働きやすい環境づくりに貢献しています。

その他、来客の接待や駐車場で渋滞が発生した場合の交通整理や不測の事態が起こった際の対応など、来院者が不快に感じることをしないよう誠心誠意努めています。

施設資材課

■スタッフ

施設資材課長 棒 田 祐 司
 他施設資材担当 3名
 営繕担当 2名
 エネルギーセンター 7名（内、4名派遣）
 洗濯場 4名委託
 リネン庫 3名
 中央材料室 4名（内、3名委託）
 内視鏡センター 1名

■業務概要

施設資材課は、病院の運営に必要な機器や物品等の購入、保守管理、廃棄を行う窓口を主な業務としています。

必要な機器の購入は、毎年、病院の投資計画に基づき、各診療科等の長から整備申請を受け、病院長等とヒアリングを行いながら、年間の整備品目を定めます。整備予定となった医療機器等は順次整備（購入）手続きをしております。

医療機器の他に、病院運営に必要な消耗品も各部署からの要望をとりまとめ、調達しております。アイテム数は概ね 900 品目にのびります。

中央材料室には、SPD（材料物流管理）システムが導入されており、520 品目の医療材料の入出庫を管理しています。



〈中央材料室〉

物品の保守管理部門として 2 名の営繕担当者がおり、病院内のあらゆる施設の立付けから小物、備品を修理しております。プロ顔負けの技量でなんでも直してしまう頼もしい担当者です。

洗濯場、リネン庫の運営も当課が担当しております。洗濯場では週に約 4,000 枚の手術着やタオル等を大型洗濯機で洗濯します。

リネン庫では病棟で使われる布団やシーツを管理しており、毎日 130 組のシーツ、パット、枕を各病棟へ配っています。また、新採用看護職員の白衣の準備やミシンによる修繕を行っております。

内視鏡センターでは内視鏡検査後のファイバー洗浄を行っております。

エネルギーセンターは、病院の心臓部で、電気系統の制御、ボイラー、中央管理の冷温水発生機（冷房、暖房）を 24 時間体制で見守っています。

地震等発生時は、真っ先に駆けつけ、病院全体の保全に万全を帰しています。

■トピックス

2020 年度は、検査データ管理システム、整形外科用手術顕微鏡、血液検査総合分析システム他 38 品目で、合計 3 億 5 千万円の整備を行いました。

また、現在、病院と立体駐車場を結ぶ歩道橋を廿日市市が建設中で、2021 年 7 月中に開通予定です。



〈廿日市市が建設中の病院と立体駐車場を結ぶ歩道橋〉

栄養サポートチーム（NST）

■ チーム概要

栄養サポートチーム（NST）は、栄養管理における専門的な知識を持つ多職種により構成されるチームで、当院では2005年4月より活動しています。

NSTは、栄養状態不良の方、経管栄養や経静脈栄養を行っている方、嚥下障害のある方など、特に栄養管理が治療上必要と考えられる患者様に対して回診やカンファレンスを行い、専門的な立場から最善の栄養管理に向けた提案を行っています。

■ NST メンバー

- ・医師：香山茂平
- ・歯科医師：大井尚志
- ・看護師：藤本七津美
- ・薬剤師：中島恵子
- ・管理栄養士：上村真由美（専従）、八幡謙吾
- ・臨床検査技師：池田光泰、村田竜也、小野溪
- ・作業療法士：石井葵
- ・言語聴覚士：上田雅美、新川すずか
- ・歯科衛生士：大森志穂

■ 活動内容

- ・食事ラウンド（管理栄養士、作業療法士）

毎週水曜日 12：00～

栄養量UPや誤嚥・褥瘡予防など適切な栄養管理を行うための環境調整目的に、週1回数名訪室、食事時の動作サポートやポジショニング調整の提案を行っています。

- ・NST-TPNカンファレンス（薬剤師、管理栄養士）

毎週水曜日 15：00～

高カロリー輸液投与中の患者を対象に、代謝性合併症や感染予防のため、血糖値や肝機能、電解質、投与速度等の確認を行い、適正な輸液内容や管理についての提案を行っています。

- ・NSTラウンド・カンファレンス（NSTメンバー）

毎週木曜日 14：30～

NST介入全患者に対し、ラウンド・カンファレンスを実施、ラウンド後は栄養管理についてのコメン

ト、提案を行っています。

- ・院内NST研修会

2020年度は感染対策予防のため実施なし

- ・栄養管理推進委員会：毎月最終木曜日

- ・新人研修：年2回、ラダーII研修：年1回

■ 栄養サポートチーム加算算定件数

- ・2020年度算定件数：延べ805件（患者数250名）



■ 栄養サポートチーム 診療科別のべ回診件数

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020
呼吸内科	179	97	141	183	92	172
腎内科	138	66	47	70	108	71
糖尿病内科	34	30	25	28	25	18
消化内科	279	237	286	267	243	219
循環内科	188	140	146	52	71	42
心臓血管科	41	101	65	24	5	17
呼吸器科	135	102	132	78	97	29
外科	199	75	138	74	109	96
脳神経外科	86	43	56	56	13	7
整形外科	38	26	20	11	24	14
形成外科	0	3	8	9	0	0
皮膚科	65	88	36	16	13	12
泌尿器科	28	17	30	24	48	21
放射線科	0	16	15	103	185	68
耳鼻科	70	69	26	103	75	46
小児科	0	0	0	12	1	0
歯科	1	9	0	27	3	0
救急科	41	40	78	80	21	28
産婦人科	3	5	16	7	5	5
乳腺外科	0	0	1	0	5	0
総診療科	-	-	-	20	31	7
合計	1,525	1,164	1,266	1,244	1,174	872

※単位：件（人）

※ NST 加算算定数とは異なる

呼吸療法サポートチーム (RST)

■ RST とは

〈呼吸療法サポートチーム (Respiratory Support Team)〉

人工呼吸器からの早期離脱を第一目標に、集中治療室（以下ICU）から在宅まで多職種で人工呼吸器装着患者さんをサポートしています。

■ 目的

ICUで人工呼吸管理を行なった症例のうち、約5%はICUにて呼吸器離脱できず、一般病棟にて呼吸管理を継続しなければなりません。また、人工呼吸器装着患者さんの転院は、受け入れ先が限られていることから、決定までに時間がかかってしまう、かといって、在宅移行を選択されるケースが多いかというと、残念ながら介護力の問題から断念されるご家族が多いのも現状です。このような現状から、当院ではICUでの人工呼吸管理開始と同時に、呼吸器離脱を見据え、多職種と連携し患者さんのサポートを行なっています。

また、人工呼吸療法は医療者の不安や負担も多い治療です。呼吸管理に慣れていない病棟でも、RSTラウンドを通じて、少しでも業務負担の軽減に繋がるようなサポートを心がけています。



■ メンバー

医師、看護師、理学療法士、歯科衛生士、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、医療事務

■ 活動内容

毎週木曜日に、人工呼吸器装着患者さんの病室を訪問し、人工呼吸器周辺の環境整備や人工呼吸器離脱に向けての方向性について多職種で話し合います。人工呼吸器からの離脱は、設定だけを調整すれば良いというわけではありません。呼吸に関する筋力やそれを維持する栄養、また薬剤による原疾患のコントロールなど様々な視点から患者さんの状態を評価する必要があります。残念ながら、保険点数の取得に至れていないため、業務に支障が出ないように短時間でのラウンドを心がけています。人工呼吸療法に興味がある方は、気軽にラウンドに参加してみてください！



感染防止対策室 (ICT・AST)

■ スタッフ

室 長 渡 正 伸 (兼務)
科 長 今 本 紀 生

■ 取得資格、所属学会

〔取得資格〕

Infection Control Doctor : ICD

感染管理認定看護師

〔所属学会〕

日本環境感染学会

日本感染管理ネットワーク学会

■ 部門紹介 (概要)

感染防止対策室は患者さんや医療従事者の安全確保を第一の目標として、院内感染対策委員会や ICT、看護科感染対策委員会を中心とした各組織・部門と連携し、感染防止活動を支援する部門として機能しています。

特に ICT (院内感染対策チーム) とは密に連携を図り、ラウンドや研修会など多くの業務を共同しています。

また、2018 年度から感染管理に関連する新たな診療報酬として『抗菌薬適正使用支援加算』が加わりました。これに伴い、ICT メンバーが抗菌薬適正使用支援チーム (AST) を兼務し、院内活動を行っています。

■ ICT・AST コアメンバー紹介

渡 正伸 (呼吸器外科医師、感染防止対策室長、ICD)

近藤 丈博 (呼吸器内科医師)

正畠 和美、角井 碧 (感染制御認定薬剤師)

池部 晃司 (臨床検査技師)

今本 紀生、平本廉昂 (感染管理認定看護師)

栗岡 允 (事務：医事課)

■ 認定施設基準

- ・「感染防止対策加算 1」：8 つの連携施設と年 4 回の合同カンファレンスを開催
- ・「感染防止対策地域連携加算」：広島西医療センター ICT と連携し、年 1 回の相互ラウンドを実施
- ・「抗菌薬適正使用支援加算」：抗菌薬の使用や検査の適正利用の為に体制整備による質の向上・評価や院内研修会を開催

■ ふれあいポスター展 優秀賞受賞

今年度、「第 11 回ふれあいポスター展」のチーム部門において、ICT・感染防止対策室が優秀賞を頂きました。

“with コロナ～新型コロナウイルスとの共存～”と題して、職員および住民の方々に感染予防のための正しい情報を、少しでも分かりやすく伝えることを心がけて作成したものが評価され、チーム活動のモチベーションの向上にも繋がりました。



■ 2020 年度の活動 (Topics)

〈新型コロナウイルス感染症への対応〉

全国で新型コロナウイルス感染症が拡大する中、当院も感染症協力医療機関として病棟を編成し、本格的に新型コロナウイルス感染症病棟の運用を開始しました。

病棟のゾーニングや環境の整備、現場指導などを行い、運用が安定するまでの間は関係各所と連携・協力しながら ICT が中心となって対応にあたりました。

また、職員の感染対策の徹底や面会規制、各種対応マニュアルの整備など、「院内クラスター防止」に向けて組織横断的に活動を続けました。



心臓リハビリテーションチーム

■設立趣旨

近年、増加する心血管疾患（狭心症、急性心筋梗塞、心臓弁膜症、胸・腹部大動脈瘤、末梢動脈疾患など）を有する患者さまに対し、包括的心臓リハビリテーション（以下、心リハ）を提供することを目的に活動しています。包括的心リハとは、心血管疾患を有する患者さまにおける社会復帰および再発予防を目的とし、運動療法や食事療法、薬物療法などの患者教育、生活指導などを包括した治療手段です。当院では2010年度よりチームアプローチを展開しています。

■メンバー紹介

(*心臓リハビリテーション指導士、**慢性心不全看護認定看護師)

医師： 小林平、藤原敬士、長谷川美紗

理学療法士： 本間智明*、河野裕美、小島輝久*、西谷喜子、高桑翼*、内山明子、井場和敏

看護師： 東3階病棟、東7階病棟、内科系外来、外科系外来、正木 博之**

薬剤師： 向井一樹*、大原由希子、無漏田香穂、吉次紗也加

栄養士： 森田菜津美、神田史那

相談員： 岡村良太、濱尾佳織、浅川由佳

その他： 臨床検査技師、義肢装具士、臨床工学士

■活動内容

東3：循環器内科多職種カンファレンス

心臓血管外科多職種カンファレンス

東7：心臓血管外科多職種カンファレンス及び回診

	心リハに関する活動	2020年度 (件)	2019年度 (件)	2018年度 (件)
入院	開心術・大血管術後心リハ	60	113	121
	急性心筋梗塞後心リハ	76	68	58
	末梢動脈疾患手術後心リハ	96	95	85
	心不全心リハ	283	285	236
外来	心リハ通院(新規エントリー)	32	51	29
	服薬支援	47	46	54
	栄養指導	164	164	151
その他	心肺運動負荷試験	25	29	35
	日本心臓リハビリテーション学会発表	3	5	6

—感染管理の徹底—

2020年4月に発令された緊急事態宣言を受けて、入院・外来ともに集団での運動療法は中止としましたが、感染予防措置を図り、6月22日より心リハ室での運動療法を再開することができました。感染予防措置は心リハ学会からの指針を参考とし、入院患者と外来患者の運動療法施行の時間帯を分離し、1セッションあたりの患者数を8名から4名に制限することで、ソーシャルディスタンスを保って運動療法が実施できるようになりました。また、開窓や空調による室内換気、使用機器の清拭や手指消毒を徹底することとしました。コロナ渦においても、心リハの効果を得られるよう感染管理をしながら運営を継続しました。



運動療法実施風景

—パンフレットの変更—

2021年2月より心リハで使用するパンフレットを刷新しました。自宅で運動・食事・薬物療法を継続する患者さまに向けて、よりわかりやすい内容となるよう工夫しています。



パンフレット

DMAT 災害対策ワーキングチーム

■ DMAT

Disaster Medical Associate Team

災害や事故などの現場に 48 時間以内に活動できる機動性をもった、専門的な訓練を受けた医療チームのことです。

■ チームメンバー

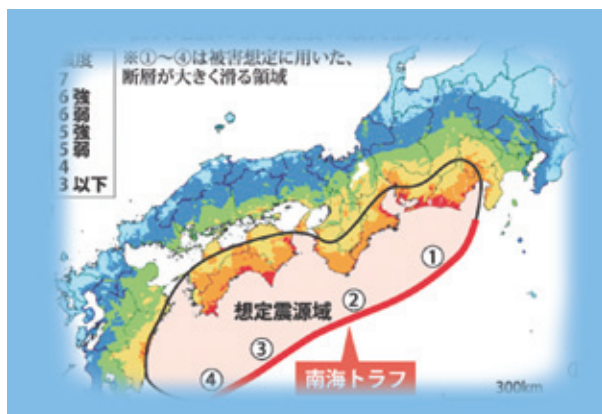
医師、看護師、診療放射線技師、薬剤師、事務、管理栄養士、臨床工学技士

■ 活動内容

2020 年度は、災害現場への出動はありませんでしたが、近年、豪雨による土砂災害も頻発しており、広島県の災害対策本部から有事に備えてメールでの連絡を取り合える体制にしています。

また、有事の際には、ロジスティクスメンバーにより EMIS (Emergency Medical Information System) への入力を行い、各医療機関と情報の共有が出来るようにしています。

災害時の機動性を維持するためには、実働訓練がとても重要となってきますが、COVID-19 の感染拡大に伴い、オンラインによる訓練となっており、知識の維持向上に努めています。



■ 災害対策ワーキングチーム

災害対策ワーキングチームは、2011 年 3 月 11 日に発災した東日本大震災を契機に、防災・減災対策の重要性を再認識し、同年に発足されたチームです。

当院は、近年起こるとされている南海トラフの大地震や、最大震度：7 を引き起こす可能性のある活断層が近隣に存在しています。当院が災害拠点病院として、自施設と地域全体を守る役割を果たすために、集団・災害医療救護体制委員会の下部組織に位置づけられています。

現在、COVID-19 の感染拡大によりミーティングやラウンド、訓練等を行えておりませんが、有事の際には有志によって積極的に活動できるよう備えておきたいと考えています。

災害医療に関心をお持ちの方は何方でも参加可能ですので、いつでもお声かけ下さい。



がん化学療法チーム

■概要

当院は地域連携がん拠点病院の指定を受けています。

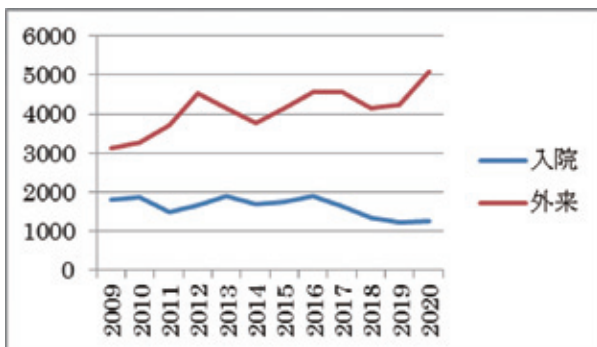
当がん種に対して標準的治療もしくはそれに準ずる化学療法によるがん治療を安全・確実・安楽に実施されることを目的としています。多職種の専門性を持って、がん患者のQOL維持向上と副作用対策に寄与しています。

■スタッフ

がん化学療法委員長：佐々木 秀
 がん化学療法看護認定看護師：野村 昌代
 // : 奥村 麻美
 薬剤部科長補佐：中島 恵子
 外来がん治療認定薬剤師：平井 俊明
 // : 白井 敦史
 // : 堀橋 賢吾
 // : 藤原 俊輔
 看護師：岩本 春美、三浦 弥生、田原 奈保子

■実績

2020 年度外来治療件数 5,097 件
 // 外来 1 日平均件数 21 件
 // 入院治療件数 1,241 件



【年間推移】

がん患者指導管理料算定（旧がん患者カウンセリング料）

・2020 年 がん患者登録 1,588 件
 がん薬物療法 355 件
 ・指導管理イ 354 件

・指導管理ロ 261 件
 認定看護師 261 件
 ・指導管理ハ 465 件
 認定薬剤師 224 件

■活動報告

1) がん化学療法運営委員会 2 回
 レジメン迅速審査 5 回
 現行登録レジメン： 270 件
 削除 0 件

2) その他

・毎週水曜日：消化器がんボード開催
 ・毎月第 1・3 水曜日：膵胆がん教室開催
 ・毎月第 1 水曜日：乳腺カンファ

■トピックス

・外来化学療法室では、14 床から 17 床への増床。
 ・がん教室は集合開催を中止し病棟入院患者に対し個別対応にて実施中。

■教育

〔院内〕

・新人看護師研修
 ・看護ラダー研修
 ・日本赤十字大学実習指導

緩和ケア科緩和ケアチーム

■医師紹介

主任部長代理

田 崎 達 也 (1997 年卒)

日本消化器外科学会専門医・指導医

日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

部 長 伊 東 淳 (1995 年卒)

日本放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定治療専門医

日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医

部 長 大 月 鷹 彦 (2007 年卒)

日本呼吸器学会専門医

日本内科学専門医



■緩和ケアチームメンバー紹介

外科 緩和ケア科医師：田崎達也

放射線治療科 緩和ケア科医師：伊東淳

呼吸器内科 緩和ケア科医師：大月鷹彦

精神科医師：吉村朋範

循環器内科医師：赤澤良太

消化器内科医師：石橋一樹

緩和ケア認定看護師：岡田恵美子（チーム担当）

高原さおり

がん放射線療法看護認定看護師：河野佐代子

薬剤師：礪貝明彦 藤原俊輔

理学療法士：小林恭子

言語聴覚士：後藤優佳

公認心理師：佐藤亜弥

管理栄養士：西田美穂

社会福祉士・がん相談員：正畠忠貴

がん相談員：益村勇子

以上の職種で構成しています。

■科・チーム概要

緩和ケア科は 2007 年に発足した緩和ケアチームを母体として 2010 年に創設されました。

地域に対して、県から依託された地域在宅緩和ケア推進事業の取り組みを行っています。

緩和ケアチームは、患者・家族の QOL を向上させるために、緩和ケアに関する専門的な臨床知識・技術を用いて患者・家族への支援を行っています。また、外来患者が安心して在宅療養できるよう、がん相談にも応じています。

■診療実績・活動内容

緩和ケア外来：予約制、必要な方に病状説明や症状緩和、今後の療養について相談・情報提供しています。

緩和ケアチーム：毎日、介入依頼されている患者さんの元に伺います。週一回、チームメンバーが集まり、患者さんの元に回診に伺います。毎週火曜日にカンファレンスを開催し、他職種で治療方針を共有しています。

非がん患者の精神的・社会的側面に対しての依頼も受け、心理士を中心に介入しています。

■各部門の主な活動紹介

【薬剤調整】

個々の患者が使用する薬剤につき主治医と連携し調節し、症状緩和の必要な患者に対して患者・家族の理解が得られるよう薬剤指導を行っています。

【がん患者リハビリテーション】

外来では加算の算定が出来ない背景もあり、主には入院患者が対象です。がんを抱える患者の日常生活動作に対応します。2020 年、緩和ケアチーム介入患者のうち 68 名にリハビリを行い、そのうち、43 名にがんリハビリを実施しました。

【栄養相談】

管理栄養士が個々の患者に合う食事の工夫を患者・家族へ指導します。

【がん患者管理指導加算】

がん患者管理指導加算 1 では各科主治医（緩和ケアに関わる医師に対する研修会を終了している）の

病状説明に認定看護師が同席し、その後の意思決定支援に介入します。がん患者のスクリーニングの運用を軌道に乗せ、そこから要望の出た患者へは、がん患者管理指導加算 2 も利用して対応しました。2020 年度は、がん患者管理指導加算 2 は 35 件でした。

【がんサロン】

コロナ禍のため、従来、隔週月曜日に行っていたおしゃべりサロンは 1 回しか開催できませんでした。場所を地域連携室から広い大会議室へ変更し、感染予防に配慮しました。

【がん相談】

療養場所の相談、在宅で受けられるサービスについて等、各種の相談に対応します。

【生活のしやすさに関する質問票】

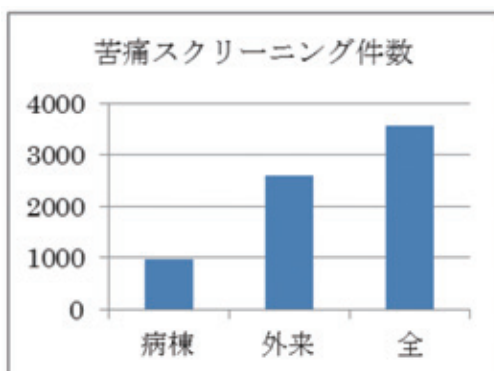
がん患者への苦痛スクリーニングを行っています。

2019 年度 苦痛スクリーニング

総件数 3,564 件

外 来 2,601 件

病 棟 963 件



【がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会開催】

2020 月 7 月 5 日 開催

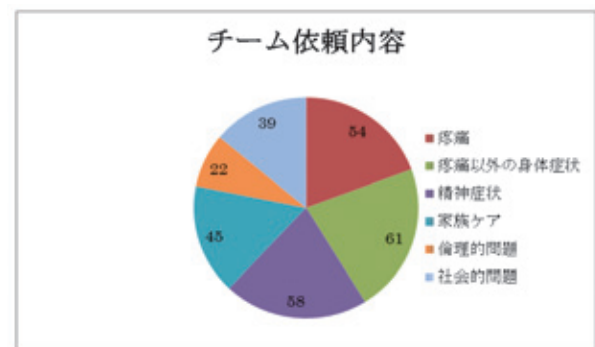
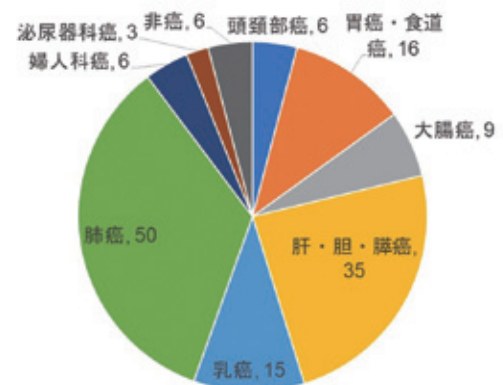
外部講師として、石川内科外科クリニック 石川哲大先生に「療養場所の選択と地域連携」を担当していただきました。

退院前カンファレンスの重要性を強調されました。



■ 緩和ケアチーム実績 (2020 年度)

2020年緩和ケアチーム介入患者 (のべ148人)



認知症ケアサポートチーム

メンバー紹介

認知症ケアサポートチーム専任医師：

副院長、脳神経外科主任部長 黒 木 一 彦

認知症看護認定看護師： 大 峯 珠 己

認知症看護認定看護師： 有 本 ま い

医療ソーシャルワーカー： 林 理 恵

管理栄養士： 八 幡 謙 吾

薬剤師： 石 津 克 紘

作業療法士： 西 田 花穂里

チーム概要

認知機能が低下した高齢者の方々は、入院による環境変化や身体的苦痛が負担となり、行動・心理症状を発症しやすくなります。

入院中の認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難さが見られ、身体疾患の治療への影響が見込まれる患者さんに対し、認知症に特化した専門チームが関与することで、行動・心理症状の悪化を予防・緩和し円滑に治療が受けられることを目的として活動しています。

活動内容

週に2日、主に火曜日と水曜日が活動日となっております。水曜日には多職種の様々な視点を取り入れてチームカンファレンスを行い、その後病棟ラウンドを行っています。

認知症をもつ、またはせん妄状にある高齢者の方々の対応や環境の提案・内服薬の調整、病棟でできるリハビリテーションの提案、認知症に関連した嚥下障害や食欲不振による食事内容の相談等をそれぞれの専門分野からアドバイスを行っています。

院内では各部署の看護師と協働し、定期的な研修会やカンファレンスを開催して、認知症ケアの質の向上に努めています。

地域では野村病院と協力し、認知症初期集中支援チームの一員として、地域の認知機能が低下した高齢者が地域で安心して過ごす事ができるよう活動しています。



チーム

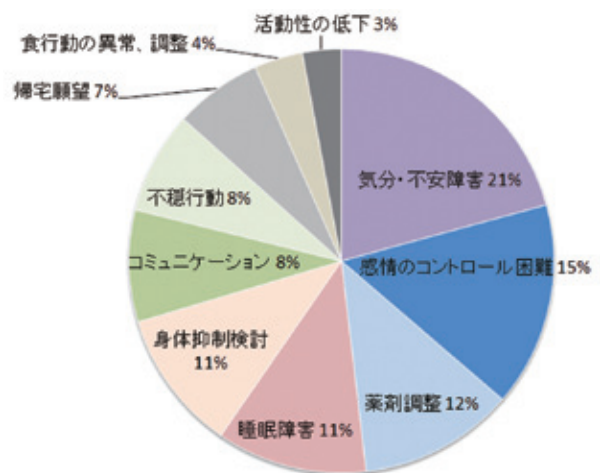


カンファレンスの様子

介入件数

2020年4月～2021年3月 延べ114名

介入内容



各種委員会

治験審査委員会

委員長 徳毛宏則

A. 設立主旨

1) 治験委員会の責務

(1) 治験委員会は、「治験の原則」に従って、全ての被験者の人権の保護、安全性の保持及び福祉の向上を図ることを目的としています。また社会的に弱い立場にある者を被験者とする可能性のある治験には特に注意を払っています。

(2) 治験審査委員会は、倫理的、科学的及び医学的・薬学的観点から治験の実施及び継続等について審査を行っています。

2) 治験審査委員会名簿

委員長：徳毛宏則、副委員長：中光篤志

委員：黒木一彦、橋本佳浩、福岡達仁、棒田祐司、凝重衛、磯貝明彦、向井恵子（外部委員）、松本明子（外部委員）

書記：磯貝明彦

オブザーバー：松原昭郎、川上多聞

B. 活動内容

1) 治験審査委員会の開催

治験審査委員会は原則として1ヶ月に1回開催します。

2) 2020年度治験審査委員会開催概要

・第1回（2020／7／17）

審議事項6件（新規案件1件、継続審査1件）

報告事項4件

・第2回（2020／10／23）

審議事項5件（継続審査1件）

報告事項4件

・第3回（2020／11／27）

審議事項4件（継続審査2件）

報告事項2件

・第4回（2021／2／26）

審議事項3件（継続審査2件）

報告事項1件

・第5回（2021／3／24）

審議事項4件（継続審査2件）

報告事項2件

3) 2020年度の実施治験総件数：7件

(1) 前年度からの継続治験（5件）

①左室駆出率が保持された心不全患者を対象とした国内Ⅲ相（LCZ696）（ノバルティス）

②LJN452の第Ⅱ相試験（ノバルティス ファーマ）

③駆出率が低下した慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第Ⅲ相試験

（ベーリンガーインゲルハイム）

④軽症～中等症の活動期潰瘍性大腸炎患者にFE999315を8週間投与した際における有効性及び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照、並行群間比較試験

（フェリングファーマ）

⑤中等症から重症の活動性潰瘍性大腸炎の被験者を対象としたTD-1473を用いた寛解導入療法及び寛解維持療法の有効性及び安全性を評価する第2b／3相、多施設共同、ランダム化、二重盲検、反復投与、プラセボ対照、並行群間試験

（テラバンス バイオファーマ）

(2) 2020年度からの新規治験（2件）

①潰瘍性大腸炎（UC）患者を対象としたTD-1473の安全性及び忍容性を評価する3年間の多施設、長期安全性（LTS）試験

（テラバンス バイオファーマ）

②ノボノルディスク ファーマ株式会社の依頼による非アルコール性脂肪肝炎患者を対象としたNN9535の第Ⅲ相試験

（ノボノルディスク ファーマ）

(3) 2020年度の終了治験（4件）

①駆出率が低下した慢性心不全患者を対象としたエンパグリフロジンの第Ⅲ相試験

（ベーリンガーインゲルハイム）

②LJN452の第Ⅱ相試験（ノバルティス ファーマ）

③軽症～中等症の活動期潰瘍性大腸炎患者にFE999315を8週間投与した際における有効性及

び安全性を評価する第Ⅲ相、多施設共同、無作為化、二重盲検、実薬対照、並行群間比較試験

(フェリングファーマ)

④左室駆出率が保持された心不全患者を対象とした国内Ⅲ相 (LCZ696) (ノバルティス)

薬事委員会

委員長 徳 毛 宏 則

1. 目的

当委員会は、院内で使用する全ての医薬品に関わる諸問題について検討協議を行い、薬事全般にわたる病院長の諮問事項を審議、報告する機能と義務を負い、医薬品の安全かつ効率的な使用をはかることを目的としています。

2. 任務

- 1) 新規採用申請薬品の審議
- 2) 薬品の適切な使用方法の協議と啓発
- 3) 在庫薬品の適切な管理と運用
- 4) 医薬品情報の衆知活動
- 5) その他の医薬品に関する事項

3. 委員

委員長及び委員は病院長が任命した者であり、病院幹部（病院長代行、副院長）、各診療科代表（センター長・主任部長）、看護部副部長、院内リスクマネージャー、医事課長、薬剤部長等で構成されています。

4. 委員会の開催

委員会の開催は、原則として月1回となっています。（2020年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、4、5、7、8、12月は集合会議を開催せず、稟議書回覧により審議を行いました。）

5. 新規医薬品

医薬品の採用は、a) 一般採用医薬品 b) 用時購入医薬品 c) 患者限定医薬品に分類され、a) b) は委員会の審議が必要となります。

a) b) に関し、採用を希望する場合、所属長の承認の元、「新規医薬品購入申請書」に必要事項を記

入し、事務局（薬剤科）に提出していただき、当委員会で審議することとなります。

c) は「患者限定使用許可申請書」を事務局に提出、迅速審議の上、委員長が許可し、次回の委員会にて薬剤部長より報告されます。

薬事委員会は、採用の可否を審議決定しますが、1増1減を原則とし、適正な在庫数になるよう努めています。

6. 医薬品の安全管理

医薬品安全性情報が新たに発布された場合、全医師に迅速に連絡、注意喚起を行います。医薬品の適正使用に係わるトピックスがあれば、全スタッフに向け注意喚起のための情報を発信し、医薬品の適正使用に貢献しています。

また、先発品・ジェネリック医薬品とも、自然災害による被害に相当する欠品、自主回収、出荷調整の状況が続いており、情報を迅速に入手、精査し、院内へ医薬品使用量についての協力要請も含めた適切な情報提供を続け、安全な薬物治療の実現のための在庫管理を指揮しています。

7. ジェネリック医薬品

当院の環境や薬剤使用状況を十分に考慮した上でジェネリック医薬品の採用を検討しています。2020年度は12件採用に至りました。（但し、2020年度は、在庫確保などの理由から、これらとは別の7件が先発品への変更を余儀なくされました。）

現在、ジェネリック医薬品の採用については、製薬会社の不祥事が相次いでいるため、情報収集能力を最大限発揮し、可能な限りでの後発医薬品係数取得を励行しています。

8. 2020年度実績

2020年度は、covid-19関連薬の使用状況を毎回報告しました。また、医療事故防止対策委員会と協働し、当院の不眠時指示薬、病棟定数配置薬の見直しを提案、運用を取り決めました。

院内全体の薬剤の適正使用と安全管理のために、今後も、情報提供・使用状況の監視と是正に努めます。

2020年3月31日現在の当院採用数

一般採用		特定患者限定	105
内服薬	723		
注射薬	526		
外用薬	309		
その他	10		
一般採用 計	1,560		
用時購入 保険適応	77	RI 医薬品	119
その他（ワクチン類）	15		
採用品数合計			1,773
ジェネリック医薬品			308

2019年度 医薬品の総新規採用件数・総削除件数

医薬品 総新規採用件数	71
医薬品 総削除件数	99

臨床検査適正化委員会

委員長 藤 井 隆

1. 設立趣旨

この委員会は、臨床検査に関する問題と、併せてその適正な運用に関する問題を審議し、臨床検査業務を円滑に行なうことを目的としています。

そのために以下の事項について審議します。

- * 臨床検査に関する調査、情報収集に関すること
- * 臨床検査部門内外で発生した臨床検査に関すること
- * 臨床検査の適正な使用に関すること
- * その他必要と思われる事項

1) 委員会の構成メンバー

医師 6名、看護師 3名、臨床検査技師 6名、事務部門 2名

2. 活動内容

2020年

4月：報告および審議事項なし。

5月：SARS-CoV2 感染予防のため書面による報告のみ実施。

○院内コロナウィルスのPCR検査実績等

6月：SARS-CoV2 感染予防のため書面による報告および審議。

○外注項目の受託中止について

○尿沈渣検査の細胞名称変更について

○リバルタ反応検査の廃止について

○尿中FDP / LAの予約検査への変更につ

いて

7月：2020年度初の開催。

○マイコプラズマ LAMP 法の採取綿棒変更について

○抗酸菌同定方法の変更について

○免疫項目測定試薬の仕様変更について

○BJP 試験法変更について

○当委員会要綱改訂について

○検査査定減集計及び年度別検査査定金額推移

8月：SARS-CoV2 感染予防のため書面による報告および審議。

○当委員会要綱改訂について案を提示。書面では是非を決議。

○検査科内部部門名称変更について

9月：SARS-CoV2 感染予防のため書面による報告および審議。

○外注検査内容の変更・中止について

○細胞診検査の細胞名変更

○保存検体の廃棄について

10月：通常通り開催。

○ALP・LD 測定方法変更について

○SARS-CoV2 検査における諸連絡

○検査査定減集計及び年度別検査査定金額推移

11月：通常通り開催。

○検査依頼画面のレイアウト変更

○シクロスポリンの測定試薬変更について

○尿中薬物中毒検出キット変更のお知らせ

○SARS-CoV2 検査に関する変更報告

○血液製剤の緊急輸送依頼証明書の変更

12月：通常通り開催。

○外注検査内容の変更について

○年末年始の血液製剤供給体制について

○年末年始業務のお知らせ

○検査査定減集計及び年度別検査査定金額推移

2021 年

1 月：報告および審議事項なし。

2 月：通常通り開催。

- 血液検査機器システムの更新について
- 生理検査システム機器更新のお知らせ
- ALP・LD 測定法及び基準値の変更について
- 血清 Mg 試薬変更について
- TSH 基準値変更について
- 尿中薬物スクリーニングキット変更日について
- 外注項目の受託中止について
- 検査査定減集計及び年度別検査査定金額推移

3 月：通常通り開催。

- 細胞診（含婦人科）依頼書廃棄のお知らせ
- 生理検査システム更新に伴うシステム停止のお知らせ
- 外注検査内容変更のお知らせ
- 外注検査試薬変更日訂正のお知らせ
- オンコマイン遺伝子検査について
- 第 54 回日本医師会臨床検査精度管理調査結果
- 血液検査システム更新、実機の成績報告
- 検査査定減集計及び年度別検査査定金額推移

委 員：医師 5 名、薬剤師 1 名、看護師 4 名

事務部門 2 名、診療情報管理士 2 名

（計 19 名）

2. 主な活動内容

〈退院時サマリ 2 週間以内記載率〉

診療録管理体制加算 1 を取得しており、要件の 1 つである退院後 2 週間以内のサマリ記載率 90%以上を維持するため、毎週医師への記載依頼を行っています。

また、委員会・医局会への報告、院内ホームページへの掲載など普段から目に触れる機会を増やし、記載状況の把握や記載について意識してもらうための積極的な活動を行っています。

診療科別 退院時サマリ 2 週間以内記載率

2020 年 4 月～2021 年 3 月退院分 13,495 人（転科を含む）

診療科	2週間以内 記載率	診療科	2週間以内 記載率
総合診療科	100.0%	呼吸器外科	100.0%
呼吸器内科	96.8%	心臓血管外科	99.7%
循環器科	93.8%	皮膚科	90.2%
腎臓内科	98.7%	泌尿器科	99.7%
糖尿病代謝内科	100.0%	産婦人科	99.7%
消化器内科	99.9%	眼科	100.0%
小児科	99.6%	耳鼻咽喉科	99.8%
外科	97.9%	放射線治療科	100.0%
整形外科	94.3%	歯科口腔外科	100.0%
形成外科	100.0%	緩和ケア科	
乳腺外科	96.4%	救急・集中治療科	100.0%
脳神経外科	98.0%		
平均科別2週間以内記載率			98.3%

診療録管理委員会

委員長 石 田 和 史

1. 設立主旨

診療情報管理業務の円滑な運営のため、診療情報管理および診療記録に関する事項を検討、討議することを目的として、診療録管理委員会が設立されました。

【診療録管理委員会の構成】

オブザーバー：病院長、事業局長、看護部長、看護部副部長

委員長：医師

〈質的（同僚）監査、量的点検〉

質的監査は、医師同士で「日々の診療の判断材料の根拠となる診療情報」が正しく記載されているか監査を行っています。

電子カルテと退院時サマリの監査を年 3 回ずつ、年間で計 6 回行っています。

今年度も、監査を行い発生した問題点は委員会で話し合い、院内全体に周知が必要な場合は医局会で説明を行いました。

量的点検は、医師による日々の経過が記載されているか確認を行っています。

監査および点検結果は、医師へ還元すると共に、委員会・医局会でも報告し、診療録の改善を担っています。

〈量的監査〉

算定に基づいた必要な記載、書類が揃っているかを目的に全退院患者の監査を行っています。

結果は関係部署へ配布すると共に、各部署に働きかけ改善に取り組んでいます。

入院診療計画書は書式変更に伴い関連する委員会、科長会で説明し前年度から5%不備が減少しました。

悪性腫瘍特異物質治療管理料は医事課に働きかけをし、運用の見直しをしました。

他に、看護科との話し合いで今年度から褥瘡の監査項目が増え、少しずつですが監査内容も変化しています。

〈その他の業務改善の内容〉

同意書申請

・新規申請部数 18

・院外同意書確認部数※ 3

※院外で作成した全国的に使用している同意書の院内把握

現行の運用で生じる様々な問題点を委員会で検討し、業務の改善を図っています。

衛生管理委員会

委員長 松原 昭郎

労働安全衛生法第17条及び第18条に基づき衛生管理委員会を設置し、原則毎月1回委員会を開催しています。

〈衛生管理委員会構成メンバー〉

委員長：病院長

委員：産業医・診療部長2名・肝臓内科主任部長・薬剤部長・臨床工学科長・臨床研究検査科長・放射線科長補佐・栄養科長・感染防止対策室科長・事務部長（施設資材課長）・総務課長・臨床研究検査科・看護科長（東4階）・看護科長（西4階）・

看護科長（西5階）・看護科主任（東3階）・看護科主任（西6階）・健康管理課長・放射線科副主任・栄養科・人事課長・人事課

オブザーバー：事業局長・看護部長・看護科副部長
〈2020年度の主な取り組み事項〉

1. 過重労働対策について

職員の超過勤務時間を毎月調査し、委員会で報告しています。月に80時間以上の超過勤務があった職員に対し、産業医による面接指導の案内を文書で行っています。また当院の36協定における上限である月45時間以上超過勤務した職員数の報告も併せて行っています。

2. 職員のメンタルヘルス対策について

職員に対し毎年1回ストレスチェックを実施する事が義務づけられており、8月にストレスチェックを実施しました。高ストレス者へは面接勧奨文書を発布して外部医師による面接の実施、部署ごとの集団分析結果の検証等を行い、職場環境改善に向けて、検討しました。

また、当院の公認心理師によるメンタルヘルス相談、メンタルヘルス不調者や新採用職員（研修医・看護職員）等に対して、面談を行っています。

3. 感染症検査及びワクチン接種等の状況

職員の入職時に麻疹、風疹、水痘、ムンプス、HBs抗原・抗体検査、HCV抗体検査を実施しています。B型肝炎対策として、在職者および新入職者の中で、必要かつ希望する者にワクチン接種を行いました。

さらにインフルエンザの流行に備えて、職員の内、希望者を対象に10月にインフルエンザワクチン接種を実施しました。職員の接種率は94.7%となっています。

4. 結核患者接触職員の対応について

結核患者に接触した職員の追跡として、事例があるごとに、状況・検査結果・今後の検査予定等の報告をしています。また、結核患者接触のハイリスク部署の職員に対し、Tスポット検査および年2回胸

部 X 線検査を実施しています。

5. 職員健康診断について

職員健康診断の受診率を向上させるため、健康管理課と対策を話し合い、各部署の所属長への声かけを積極的に行っています。その結果、職員健康診断の受診率は夏期が 98.0%、冬期が 96.5%と、昨年度に引き続き高水準を維持しています。また、パソコンの使用頻度が高い者（事務職員、臨床検査技師、診療放射線技師、画像診断部医師、検査科医師）に対し VDT (Visual Display Terminals) 健康診断を、フィルムバッチ着用者を対象に電離放射線健康診断を実施しました。

6. その他

作業環境測定（病理研究検査室・解剖室・滅菌保管室）を年に 2 回実施し、その結果を委員会で報告しています。結果は全て「適切である」となっています。

地域医療連携推進委員会

委員長 中 光 篤 志

1. 設立趣旨

当院が、地域医療支援病院としての役割を発揮するために、院内の診療体制整備、強化を行うことを目的としています。より良い地域連携を目指して全科医師と多職種による話し合いを行っています。

2. 活動内容

- ① 地域医療連携に係わる活動実績に関すること
（紹介・逆紹介、退院支援、地域連携クリニカルパスなどに関する実績）
- ② 地域医療連携に係わる院内の体制に関すること
- ③ 地域医師会、関係機関との連携に関すること
- ④ 地域医療連携に係わる地域住民への広報活動
- ⑤ その他（地域医療連携に関すること）

3. 2020 年度地域医療連携推進委員会構成員

委員長：副院長・医療福祉支援センター長
副委員長：健康管理センター長／看護部副部長・総合医療相談室長・地域医療連携室長

委員：医師 16 名、薬剤師 1 名、保健師 2 名、看護師 5 名、社会福祉士 1 名、事務 3 名

オブザーバー：病院長、事業局長、看護部長

4. 活動報告

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、書面にて会議を開催し「病診連携に関するアンケート調査結果」について報告を行いました。

アンケート調査はおよそ 220 の医療機関を対象に行い、半数超の医療機関から回答を得ました。得られたご意見をもとに、引き続き連携機能の強化に取り組めます。

また、返書管理についての協議も行っています。2020 年度の返書は 92.22%でした。未返書リストの配布により返書作成を促し、返書率の向上に努めています。

臨床研修委員会

委員長 西 原 礼 介

臨床研修委員会は、初期臨床研修医の充実した研修を実現するため、基本的臨床能力の獲得・向上の支援、学術活動や生活面・精神面のサポートなど行っています。

本年度は新型コロナウイルス肺炎蔓延のため、例年のような活動ができませんでした。

〈院内研修〉

- ・ Early Bird Lecture：毎週火曜日午前 7 時～8 時
研修医のプレゼン、上級医のレクチャー
- ・ オープンカンファレンス：毎月第 3 水曜、研修医の症例発表
- ・ 基本的臨床能力評価試験（2 月）

〈セミナー開催〉

コロナ感染のため開催されず

〈学術活動〉

- ・ 第 32 回佐伯医学会総会（2 / 14）発表 森田智子、山根大寛、折出ゆうか、松原佑吾、中木優羽、島田幸暢（敬称略）

〈院外実習〉

- ・ 地域医療研修（廿日市記念病院、吉和診療所、コールメディカルクリニック、日高德洲会病院、やまと病院）
- ・ 精神科研修（草津病院、メープルヒル病院、瀬野川病院）
- ・ ER アップデート、開催されず
- ・ ハワイ大学 SimTiki 研修 参加せず

〈研修医サポート〉

- ・ メンター制度：研修医 1 人ずつに上級医 1 人をメンターとして指名し、研修医のアドバイスやサポートを行う。
- ・ 公認心理師との面接（7 月）
- ・ 西原委員長との面接（2 月）
- ・ 臨床研修科 Facebook にて、研修医の活動を広く世界に紹介。

〈学生勧誘〉

- ・ オールひろしま臨床研修病院オンライン合同説明会（3 / 7）
- ・ レジナビフェア 開催されず

〈表彰〉

- ・ アカデミー学術賞研修医部門：安岡悠希
- ・ 基本的臨床能力評価試験 優秀賞：新山敏信、森田智子
- ・ Early Bird Lecture 最多出席賞：横崎美遼、森田智子（敬称略）
- ・ 研修医が選ぶベストオブ指導医：高場章宏先生



2 年次修了式



オンライン合同説明会

地域がん診療連携拠点病院運営委員会

委員長 佐々木 秀

1. 設立主旨

がんに関する自施設の診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況の他、がん患者さんの療養生活の質について把握・評価し、課題認識を院内関係者で共有した上で、組織的な改善策を講じるために、がん診療連携拠点病院運営委員会を設置しています。

その他にも、広島県がん診療連携協議会や評価・改善部会において、都道府県がん診療連携拠点病院や地域がん診療連携拠点病院等と情報共有や相互評価を行っています。

【地域がん診療連携拠点病院運営委員会の構成】

委員長：医師

副委員長：医師・看護師

委員：医師・看護師・薬剤師・診療放射線技師・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・事務等

2. 活動内容

がん診療連携拠点病院として、

- 集学的治療の提供体制
- 緩和ケアの提供体制
- 地域の医療機関との連携
- がん治療に関する専門的知識・技能を有する職員の配置
- がん相談支援センターの設置
- セカンドオピニオンの提示体制
- 院内がん登録

●がん医療に携わる医療従事者への研修体制

上記の体制をより一層推進するために院内外の調整及び広島県がん診療連携協議会へ参加し、国のがんに関する現状や今後の展開について情報収集を行い、広島西医療圏のがん拠点病院としての機能を果たすべく取り組みを行っています。

輸血療法委員会

委員長 香山茂平

本年度も、輸血療法に関し安全性の確保ならびに適正使用の促進に向けた取り組みを行いました。

(4回開催)

月別の診療科別輸血製剤使用単位数・アルブミン使用量報告、院内輸血マニュアルや輸血関連業務の運用の見直しについて継続的に審議しました。輸血療法に伴うインシデント事例は昨年同様、医療安全管理室と連携し、内容・発生要因・改善策について検討を行いました。輸血医療のIT化では運用の改善点を提案しています。輸血後感染症検査については、マニュアル改訂及び同意書・説明文を2021年4月より変更しております。また、同月よりTRALIとTACOの評価基準の変更がなされたため、医師へ周知しております。

【今年度の主な取り組み】

- ・製剤使用状況・廃棄報告
- ・輸血副作用報告・事例検証報告
- ・輸血後感染症検査マニュアル改訂及び同意書、説明文の変更
- ・緊急輸血命令書の変更
- ・輸血療法の実施に関する指針の一部改正
- ・TRALIとTACOの評価基準の変更について
- ・輸血関連インシデントレポート（他院の事例紹介）

【院内合同研修会】

新型コロナウイルス感染症による影響のため、今年度は開催しておりません。

2020年度 輸血用製剤 使用単位数・廃棄単位数・廃棄率

製剤名	使用単位数	廃棄単位数		使用単位数合計	廃棄率
Ir-RBC-LR2	2,820	112	RBC	2,820	4.0%
Ir-WRC-LR2	0	0			
FFP-LR240	638	32	FFP	806	4.0%
FFP-LR480	168	0			
Ir-PC-LR10	1,740	30	PC	1,710	1.7%
Ir-PC-LR20	0	0			

2020年度 自己血使用数・廃棄数

科別	貯血単位数	使用単位数	廃棄単位数
整形外科	45	27	18
産婦人科	6	6	0
合計	51	33	18

2020年度 特定生物由来製品使用状況

製 品	本 数
20% アルブミン	446
グロベニン 2.5 g	17
グロベニン 5 g	243
10%日赤ポリグロビン N 5 g (献血ポリグロビン)	0
テタノブリン筋注 250 国際単位	70
ハプトグロビン静注	31
抗D人免疫グロブリン筋注	2
乾燥 HB グロブリン筋注	2
献血ノンスロン	32
フィブロガミンP	0
タコシール 3 × 2.5cm	51
タコシール 9.5 × 4.8cm	68
ペリプラスト 1ml	41
ペリプラスト 3ml	103
ペリプラスト 5ml	37
アブラキサン点滴静注 100mg	1,067
5%アルブミン 250 ml	285
ヘプスブリン 1H	0
ケイセントウ 500mg	0
1000mg	13
フロシール	105

倫理委員会

委員長 中光篤志

1. 設立主旨

当院で行われる様々な研究について、ヘルシンキ宣言における倫理的原則や臨床研究に関する倫理指針等に基づいて、インフォームド・コンセントや個人情報保護などを評価し、被験者となる患者さんの権利を保護しながら、研究が医学の進歩に寄与することを目的として設立されました。委員会の構成は、

医師 8 名、看護師 4 名、パラメディカル 3 名、外部委員 3 名、事務 4 名です。外部委員も参加して頂き、多方面から臨床研究の評価を行っています。

2. 活動内容

委員会の開催は 1 ヶ月に 1 回、第 3 金曜日に行っており、2020 年度の審査実績は、新規 69 件、変更 1 件、継続 7 件、薬剤の適応外使用・保険外診療 4 件でした。最近では臨床研究の学会報告や論文投稿に際して、その研究が適正に組織された倫理委員会での承認を得ていることが常識になりつつあり、当院の倫理審査委員会も臨床研究の倫理性確保と被験者保護に向けての取り組みに関して、さらなる努力を求められています。

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面開催が多い年でしたが、今後も倫理的、医学的妥当性の観点から研究等の実施及び継続等について審査を行っていきます。

コンプライアンス委員会

委員長 松 原 昭 郎

1. 設立主旨

コンプライアンスとは、法令、内部規程、業務マニュアル等を遵守することは勿論のこと、社会規範や倫理に即して、公正かつ公平な業務遂行を行うことです。そして、これらを実践することにより、発生の可能性のあるトラブルを事前に回避することにもなります。

当院の使命は、農家・組合員並びに地域住民の「命」と「健康」を守ることであり、その信頼に応えるためには、職員自らのたゆまぬ努力によってコンプライアンス態勢を確立していくことが重要です。また、コンプライアンスを重視した事業展開は、当院に対する信頼を高めるとともに、職員自身や職場をも守ることに繋がります。

逆に、重大なコンプライアンスの違反（不祥事件）の発生は、農家・組合員並びに地域住民の期待と信頼を裏切り、社会的信用を失い、組織の存続さえ危

ぶまれる事態になりかねません。

こうしたことを踏まえて、JA 広島厚生連は 2004 年 11 月にコンプライアンス・マニュアルを制定し、役職員が遵守すべき行動規範等を明らかにするとともに、その徹底をはかるための内部組織・体制等の明確化を図りました。

当院ではコンプライアンス態勢の確立に向けて、2008 年 4 月にコンプライアンス委員会を設置しました。

2. 活動内容

- ・病院コンプライアンスプログラムの策定（毎年度）
- ・コンプライアンス委員会の開催（年 3 回）
- ・コンプライアンス・マニュアル等を使用した各部署でのコンプライアンス研修依頼（毎月）
- ・コンプライアンス関連の報道記事等を配布し職員へ注意喚起を実施
- ・内部講師・外部講師による院内研修の開催等

3. 構成メンバー

委員長：病院長

委員：副院長、事業局長、診療部長、薬剤部長、臨床研究検査科長、看護部長、地域医療連携室長、事務部長、医療安全管理室科長、総務課長

広報委員会

委員長 藤 井 隆

◆設立の目的

院内における各部署の活動を院外に周知することを目的として設立されました。各部署についての詳細な業績集としては年報がありますが、タイムリーな話題の広報も必要です。そのための手段の 1 つが広報誌「せと」であり、もう 1 つが「ホームページ」です。この 2 つを作成・管理するのが本委員会です。

◆委員会活動

委員会は年 3 回、広報誌「せと」の発行時期に合わせて開催し、ホームページについても検討を行っています。

1. 広報誌「せと」

病院広報誌である「せと」は年3回（新年号・春夏号・秋冬号）発行しています。短時間で気軽に目を通すことができる小冊子で、新年号では年始の病院長挨拶、春夏号と秋冬号では新任医師の紹介、院内のインフォメーション等を掲載しています。その他に診療科やメディカルスタッフ、チーム医療の紹介、看護科や医療福祉支援センターからのお知らせ、病院行事の案内や院内での出来事等をコンパクトにまとめて構成しています。

2020年は、新年号で「看護業務の効率化先進事例アワード2020」について紹介しました。春夏号では遺伝子診療部、廿日市休日夜間急患センターの開設、秋冬号では新型コロナウイルスに対する当院の取り組みについて紹介し、各科紹介では呼吸器内科、心臓血管外科、形成外科、眼科を紹介しました。

2. ホームページ

その時に応じた最新の話題や病院としてのイベント情報を盛り込んだトピックスを定期的に更新するように努めています。新型コロナウイルス蔓延に伴う感染防止のために入院患者に対する面会禁止や外来診療制限などの当院の対応などのニュースをトピックスとして掲載・更新を施行しました。また、ホームページは毎年アクセス回数等の解析を行っています。2020年の4月から1年間のベスト10医療ニュースアクセスランキング（表1）に示します。

時世を反映し、ランキング中に新型コロナウイルスに関するお知らせが2項目と病院の駐車場に関するお知らせがランクインしました。

次に2019年度と2020年度の閲覧者数の推移を示します。2019年に比べ今年度のホームページ閲覧者数は11%減少し（図1）、ページビュー数と滞在時間も減少しました。これら減少はホームページリニューアル（スマホ用に改訂）以来、初めての現象でした。新型コロナウイルス感染防止策とし、外来診療制限や面会禁止などによる病院利用者の減少がその原因と考えました。

診療科によって作成された最新の話題や医療ニュース、イベント情報など盛り込んだトピックスなどを定期的に更新し、ホームページ内の相互リンクを増やすことで使用しやすい形式を目指し、現在よりも多くの方々にアクセスしていただけるホームページにしていく所存です。

表1 ○医療ニュースアクセス数（2020.4.1～2021.3.31）

1.	救急・集中治療科：お腹の痛みについて
2.	麻酔科：気管挿管とビデオ喉頭鏡の導入
3.	歯科口腔外科：多発するビスホスホネート製剤による顎骨壊死の情報です。
4.	心臓血管外科：近年の大動脈瘤の治療（特にステントグラフト内挿術；TEVER・EVER）について
5.	ニュースお知らせ：新型コロナウイルスに関する当院の対応
6.	循環器内科：心筋梗塞とPCI／ステント治療
7.	ニュースお知らせ：新型コロナウイルス感染防止に対する外来診療制限について
8.	循環器内科：超悪玉コレステロールに関して
9.	中央放射線科：心臓CT検査について
10.	ニュースお知らせ：病院駐車場のご案内

閲覧者数

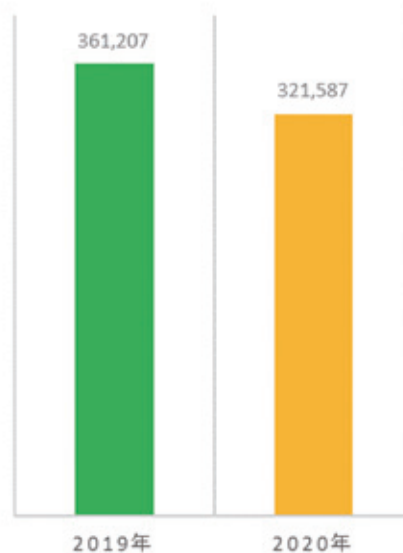


図1 閲覧者数

JA 広島総合病院ホームページ閲覧者数の年次変化

アカデミック委員会

委員長 徳 毛 宏 則

1. 設立趣旨

当院の医療および医療学術活動の質をレベルアップし、院外研修や学会発表の奨励を行う目的で 2010 年に設立されました。

2. 活動内容

①学術奨励賞の設定 ②病院年報の充実 ③国内・国際学会発表、論文作成等、学術活動の活性化および支援活動 ④他施設との情報交換、人的交流の促進と支援です。

今年度は委員会を 3 回開催し、下記の事項について協議しました。

(1) 第 11 回ふれあいポスター展

2020 年 12 月 21 日～2021 年 3 月 10 日、各部署が趣向を凝らして作成したポスター 42 作品を院内に展示し、地域住民等から選出された 5 作品を表彰しました。

◆表彰作品

賞	部門	部署
最優秀賞		薬剤科
優秀賞	医局部門	整形外科
	看護部門	内視鏡センター
	コメディカル部門	臨床研究検査科
	チーム部門	ICT、感染防止対策室
	住民投票部門	内視鏡センター

(2) 第 11 回アカデミー学術賞

学会・研究等において優れた論文を発表した職員を表彰しました。

◆最優秀賞受賞者

部 門	診療科	氏 名
内科系	循環器内科	赤 澤 良 太
外科系	外科	岡 本 暢 之
コメディカル	リハビリテーション科	井 場 和 敏
研修医	臨床研修科	安 岡 悠 希

(3) 国内・国際学会発表等の支援活動

学会への参加者等に「アカデミック研修費」を支給し、学術活動の支援を行っています。

◆各診療科への支援状況

部 署	件 数
泌 尿 器 科	1
外 科	8
糖 尿 病 セ ン タ ー	2
乳 腺 外 科	3
循 環 器 内 科	1
麻 酔 科	2
救急・集中治療科	2
腎 臓 内 科	1
合 計	20

著書・論文

循環器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
スタチンと PCSK9 阻害薬による積極的脂質低下療法に伴う総 PCSK9 濃度と脂質プロファイルの経時的変化～プラーク退縮の画像診断を含めて～	藤井 隆 健康管理科 心臓血管内治療科 臨床研究検査科 碓井裕史 辻山修司 水野誠士	共済エグザミナー通信	Spring 第 48 号 1-12	2021 年

消化器内科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Analysis of Post-Progression Survival in Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma Treated with Lenvatinib.	Ando Y, Kawaoka T, Suehiro Y, Yamaoka K, Kosaka Y, Uchikawa S, Kodama K, Morio K, Fujino H, Nakahara T, Murakami E, Yamauchi M, Tsuge M, Hiramatsu A, Fukuhara T, Mori N, Takaki S, Tsuji K, Nonaka M, Hyogo H, Aisaka Y, Masaki K, Honda Y, Moriya T, Naeshiro N, Azakami T, Takahashi S, Imamura M, Chayama K, Aikata H.	Oncology.	2020 ; 98 (11) : 787-797.	2020 年
Serum miR-379 expression is related to the development and progression of hypercholesterolemia in non-alcoholic fatty liver disease.	Okamoto K, Koda M, Okamoto T, Onoyama T, Miyoshi K, Kishina M, Matono T, Kato J, Tokunaga S, Sugihara T, Hiramatsu A, Hyogo H, Tobita H, Sato S, Kawanaka M, Hara Y, Hino K, Chayama K, Murawaki Y, Isomoto H.	PLoS One.	15 (2) : e0219412, 2020.	2020 年
Metabolomic/lipidomic-based analysis of plasma to diagnose hepatocellular ballooning in patients with non-alcoholic fatty liver disease : A multicenter study.	Ogawa Y, Kobayashi T, Honda Y, Kessoku T, Tomeno W, Imajo K, Nakahara T, Oeda S, Nagaoki Y, Amano Y, Ando T, Hirayama M, Isono O, Kamiguchi H, Nagabukuro H, Ogawa S, Satomi Y, Saigusa Y, Takahashi H, Hyogo H, Yoneda M, Saito S, Yamanaka T, Aishima S, Eguchi Y, Kage M, Chayama K, Nakajima A.	Hepatol Res.	50 (8) : 955-965, 2020.	2020 年
Antidiabetic Therapy in the Treatment of Nonalcoholic Steatohepatitis.	Sumida Y, Yoneda M, Tokushige K, Kawanaka M, Fujii H, Yoneda M, Imajo K, Takahashi H, Eguchi Y, Ono M, Nozaki Y, Hyogo H, Koseki M, Yoshida Y, Kawaguchi T, Kamada Y, Okanoue T, Nakajima A, Jsg-Nafld JSGON.	Int J Mol Sci.	21 (6) : 1907, 2020.	2020 年
Decrease in fasting insulin secretory function correlates with significant liver fibrosis in Japanese non-alcoholic fatty liver disease patients.	Araki N, Takahashi H, Takamori A, Kitajima Y, Hyogo H, Sumida Y, Tanaka S, Anzai K, Aishima S, Chayama K, Fujimoto K, Eguchi Y.	JGH Open.	2020 Jun 9 ; 4 (5) : 929-936.	2020 年
ALT Levels for Asians With Metabolic Diseases : A Meta-analysis of 86 Studies With Individual Patient Data Validation.	Huang DQ, Yeo YH, Tan E, Takahashi H, Yasuda S, Saruwatari J, Tanaka K, Oniki K, Kam LY, Muthiah MD, Hyogo H, Ono M, Barnett SD, Li J, Zou B, Fung J, Lee TY, Wong VW, Yuen MF, Dan YY, Lim SG, Cheung R, Toyoda H, Eguchi Y, Nguyen MH.	Hepatol Commun.	2020 Sep 9 ; 4 (11) : 1624-1636.	2020 年
Eradication of hepatitis C virus with direct-acting antivirals improves glycemic control in diabetes : A multicenter study. Eradication of hepatitis C virus with direct-acting antivirals improves glycemic control in diabetes : A multicenter study.	Takahashi H, Nakahara T, Kogiso T, Imajo K, Kessoku T, Kawaguchi T, Ide T, Kawanaka M, Hyogo H, Fujii H, Ono M, Kamada Y, Sumida Y, Anzai K, Shimizu M, Torimura T, Nakajima A, Tokushige K, Chayama K, Eguchi Y ; Japan Study Group of NAFLD (JSG-NAFLD).	JGH Open.	2020 Dec 19 ; 5 (2) : 228-234.	2020 年
Prediction of Nonalcoholic Fatty Liver Disease Using Noninvasive and Non-Imaging Procedures in Japanese Health Checkup Examinees.	Murayama K, Okada M, Tanaka K, Inadomi C, Yoshioka W, Kubotsu Y, Yada T, Isoda H, Kuwashiro T, Oeda S, Akiyama T, Oza N, Hyogo H, Ono M, Kawaguchi T, Torimura T, Anzai K, Eguchi Y, Takahashi H.	Diagnosics (Basel) .	2021 Jan 16 ; 11 (1) : 132.	2021 年
The epidemiology of NAFLD and lean NAFLD in Japan : a meta-analysis with individual and forecasting analysis, 1995-2040.	Ito T, Ishigami M, Zou B, Tanaka T, Takahashi H, Kurosaki M, Maeda M, Thin KN, Tanaka K, Takahashi Y, Itoh Y, Oniki K, Seko Y, Saruwatari J, Kawanaka M, Atsukawa M, Hyogo H, Ono M, Ogawa E, Barnett SD, Stave CD, Cheung RC, Fujishiro M, Eguchi Y, Toyoda H, Nguyen MH.	Hepatol Int.	2021 Feb 12.	2021 年
FIB-4 First in the Diagnostic Algorithm of Metabolic-Dysfunction-Associated Fatty Liver Disease in the Era of the Global Metabodemic.	Sumida Y, Yoneda M, Tokushige K, Kawanaka M, Fujii H, Yoneda M, Imajo K, Takahashi H, Eguchi Y, Ono M, Nozaki Y, Hyogo H, Koseki M, Yoshida Y, Kawaguchi T, Kamada Y, Okanoue T, Nakajima A, Japan Study Group Of Nafld Jsg-Nafld.	Life (Basel) .	2021 Feb 14 ; 11 (2) : 143.	2021 年

著書・論文

Gut microbiota composition associated with hepatic fibrosis in non-obese patients with non-alcoholic fatty liver disease.	Iwaki M, Kessoku T, Ozaki A, Kasai Y, Kobayashi T, Nogami A, Honda Y, Ogawa Y, Imajo K, Yoneda M, Maeda A, Tanaka Y, Nakajima S, Ohno H, Usuda H, Kawanaka M, Kawaguchi T, Torimura T, Kage M, Hyogo H, Takahashi H, Eguchi Y, Aishima S, Wada K, Kobayashi N, Sumida Y, Saito S, Nakajima A.	J Gastroenterol Hepatol.	2021 Mar 11.	2021 年
Type IV Collagen 7S Is the Most Accurate Test For Identifying Advanced Fibrosis in NAFLD With Type 2 Diabetes.	Ishiba H, Sumida Y, Seko Y, Tanaka S, Yoneda M, Hyogo H, Ono M, Fujii H, Eguchi Y, Suzuki Y, Yoneda M, Takahashi H, Nakahara T, Mori K, Kanemasa K, Shimada K, Imajo K, Yamaguchi K, Kawaguchi T, Nakajima A, Chayama K, Shima T, Fujimoto K, Okanoue T, Itoh Y ; Japan Study Group of NAFLD.	Hepatol Commun.	2020 Nov 16 ; 5 (4) : 559-572.	2020 年
Endoscopic Placement of Covered versus Uncovered Self-Expandable Metal Stents for Palliation of Malignant Gastric Outlet Obstruction	Yamao K, Kitano M, Chiba Y, Ogura T, Eguchi T, Moriyama I, Yamashita Y, Kato H, Kayahara T, Hoki N, Okabe Y, Shiomi H, Nakai Y, Kushiya Y, Fujimoto Y, Hayashi S, Bamba S, Kudo Y, Azemoto N, Ueki T, Uza N, Asada M, Matsumoto K, Nebiki H, Takihara H, Noguchi C, Kamada H, Nakase K, Goto D, Sanuki T, Koga T, Hashimoto S, Nishikiori H, Serikawa M, Hanada K, Hirao K, Ohana M, Kazuyuki I, Kato T, Yoshida M, Kawamoto H.	Gut	2020 Nov 22 : gutjnl - 2020 - 320775.	2020 年
Clinical Analysis of Early-Stage Pancreatic Cancer and Proposal for a New Diagnostic Algorithm : A Multicenter Observational Study	Juri Ikemoto, Masahiro Serikawa, Keiji Hanada, Noriaki Eguchi, Tamito Sasaki, Yoshifumi Fujimoto, Shinichiro Sugiyama, Atsushi Yamaguchi, Bunjiro Noma, Michihiro Kamigaki, Tomoyuki Minami, Akihito Okazaki, Masanobu Yukutake, Yasutaka Ishii, Teruo Mouri, Akinori Shimizu, Tomofumi Tsuboi, Koji Arihiro, Kazuaki Chayama	Diagnostics (Basel)	2021 Feb 12 ; 11 (2) : 287.	2021 年
膵がん教室の在り方検討：主要 9 施設の活動状況報告	坂本はと恵 池田公史 尾阪将人 上野 誠 岸和田昌之 井岡達也 花田敏士 古川正幸 藤本佳史 奥坂拓志	日本膵臓学会	2020 年 35 巻 2 号 107-114	2020 年
当院における大腸悪性狭窄に対する内視鏡的ステント留置術の現況	石橋一樹 古土井明 進藤源太郎 山下未紗 趙 成大 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 徳毛宏則	日本農村医学会	2021 年 69 巻 5 号 506-509	2021 年

外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Fibrodysplasia ossificans progressiva with two emergency laparotomies : A case report	Okamoto N, Tazaki T, Shintakuya R, Hirano T, Sasaki M, Takahashi S, Nakamitsu A	International Journal of Surgery Case Reports	73・196-198	2020 年
Laparoscopy-assisted repair with Ventralex ST Hernia Patch for a small subcostal hernia : A case report	Tazaki T, Okamoto N, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Takahashi S, Nakamitsu A	Asian Journal of Endoscopic Surgery	14・1・132-135	2021 年
Solitary peritoneal metastasis of gastrointestinal stromal tumor : A case report	Sugiyama Y, Shinbara K, Sasaki M, Kouyama M, Tazaki T, Takahashi S, Nakamitsu A	World Journal of Gastroenterology	26・36・5527-5533	2020 年
Laparoscopic transabdominal preperitoneal repair for recurrent groin hernia after failed anterior-posterior repair	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Yamaguchi T, Takahashi S, Nakamitsu A	Asian Journal of Endoscopic Surgery	Epub ahead of print	2020 年
食道癌術後の自然気胸に続発した緊張性気腹症の 1 例	海氣勇気 杉山陽一 平野利典 新宅谷隆太 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 上村健一郎 高橋信也 中光篤志	日本消化器外科学会雑誌	54・1・1-7	2021 年
多発肝膿瘍を契機に発見された進行胃癌の 1 例	田妻 昌 杉山陽一 新原健介 馬場健太 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 壺丸 裕 中光篤志	日本消化器外科学会雑誌	54・2・83-90	2021 年
鼠径部ヘルニアに対する Totally extraperitoneal repair	田崎達也 清戸 翔 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 山口拓朗 岡本暢之 柴田祥之 高橋信也 中光篤志	広島医学	74・3・171-121	2021 年
胆嚢粘液性嚢胞腺腫の 1 例	新宅谷隆太 佐々木秀 香山茂平 壺丸 裕 高橋信也 中光篤志	日本臨床外科学会雑誌	81・4・743-747	2020 年

著書・論文

乳腺外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
遺伝性乳癌卵巣癌症候群	梶谷桂子 佐々田達成 大原正裕 木村奈々 山本弥寿子 渡 正伸	広島医学	74 巻 1 号 5-11	2021 年
FA2H as a stimulatory molecule responsible for breast cancer cell migration	Hirao-Suzuki M, Koga T, Sakai G, Kobayashi T, Ishii Y, Miyazawa H, Takiguchi M, Sugihara N, Toda A, Ohara M, Takeda S.	Biochem Biophys Res Commun	531 (2) 215-222	2020 年
Asymtomatic solitary metastasis to the stomach from breast cancer : A case report	Kaneko Y, Koi Y, Kajitani K, Ohara M, Daimaru Y	Mol Clin Oncol	13 (6) : 75	2020 年
Spontaneous regression of breast cancer with immune response : a case report	Kaneko Y, Koi Y, Sadada T, Kajitani K, Mizuno S, Takata A, Okamoto A, Nagata I, Sumita M, Inachi K, Watanabe M, Daimaru Y, Kawamura S.	Surg Case Rep.	7 (1) : 10	2021 年
Dual Targeting of CDK4/6 and cMET in Metastatic Uveal Melanoma	Ohara M, Saito K, Kageyama K, Terai M, Cheng H, Aplin AE, Sato T.	Cancers	13 (5) : 1104	2021 年

整形外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Long-term outcome of targeted therapy for low back pain in elderly degenerative lumbar scoliosis	Kiyotaka Yamada, Toshio Nakamae, Kazuyoshi Nakanishi, Naosuke Kamei, Takeshi Hiramatsu, Teruaki Okuda, Takashi Hashimoto, Satoshi Ujigo, Taiki Morisako, Yuji Tsuchikawa, Toshiaki Maruyama, Hiroki Fukui, Nobuo Adachi, Takuro Shimbo, Kjell Olmarker, Yoshinori Fujimoto	European Spine Journal	30 (7) : 2020-2032	2021 年
ひろしま 頼れるスポーツドクター「腰椎椎間板ヘルニア」	山田清貴 藤本吉範	南々社	14-16	2020 年

呼吸器外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Virtual Bronchoscopy が有用であった鈍的頸部気管損傷の 1 例	松浦陽介 渡 正伸	気管支学	34 巻 3 号 Page234-237	2012 年
『肺癌手術時に徐脈、心停止を来した 3 例』に対して (レター)	大泉弘幸 渡 正伸	日本呼吸器外科学会雑誌	26 巻 6 号 Page697-698	2012 年
短紡錘形細胞を混じ良悪性の判定に苦慮した肺硬化性血管腫の 1 例	岡本淳子 上国 愛 永田郁子 住田美栄 井町海太 壘丸 裕 渡 正伸	日本臨床細胞学会広島県支部会誌	33 巻 Page38-43	2012 年

心臓外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Effectiveness of Continuous Unsupervised Exercise Therapy after Above-knee Femoropopliteal Bypass	Taira Kobayashi, Masaki Hamamoto, Takanobu Okazaki, Tomoaki Honma, kazutoshi Iba, Tsubasa Takakuwa, Takumi Harada, and Shinya Takahashi	Vascular	29 (3) : 387-395	2021 年
Long-Term Results and Risk Analysis of Redo Distal Bypass for Critical Limb Ischemia	Taira Kobayashi, Masaki Hamamoto, Masamichi Ozawa, Takumi Harada, and Shinya Takahashi	Annal of Vascular Surgery	68 : 409-416	2020 年
Long-Term Results of Distal Bypass for Intermittent Claudication	Taira Kobayashi, Masaki Hamamoto, Takanobu Okazaki, Tomoaki Honma, and Shinya Takahashi	Vascular and Endovascular Surgry	55 (1) : 5-10	2021 年
Long-term Outcomes of Endovascular Therapy for Failing Vein Grafts after Distal Bypass Surgery	Taira Kobayashi, Masaki Hamamoto, Takanobu Okazaki, Misa Hasegawa, and Shinya Takahashi	European Journal of Vascular and Endovascular Surgery	61 (1) : 121-127	2021 年
Rupture of abdominal aortic aneurysm caused by combined type IIb and type Ia endoleak with the Endurant II endograft.	Tkananobu O, Masaki H.	Annals of Vascular Diseases. May 18, 2021		2021 年

著書・論文

産婦人科

タイトル・著書名	著者名			雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
当院におけるエジンバラ産後うつ病自己評価票の導入と今後の課題	日比野佑美 佐々木美砂	八幡美穂 高本晴子	小西晴久 中西慶喜	広島医学	73 巻・7 号・ 442-446	2020 年

眼科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
Responsiveness to ripasudil may be a potential outcome marker for selective laser trabeculoplasty in patients with primary open-angle glaucoma	Baba T, Hirooka K, Nii H, Kiuchi Y	Scientific Reports	Volume 11, article number 5812 p1—17	2021 年

画像診断部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
腹部 CT により術前診断し得た虫垂憩室炎の 1 例	安岡悠希	広島医学	73 巻 8 号 461 ページ	2020 年

口腔外科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
下顎骨に発生した中心性歯原性線維腫の 1 例	大井尚志 島末 洋 原田 直	広島大学歯学雑誌	第 52 巻, 第 2 号, 99-103	2020 年

救急・集中治療科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
ICU グリーンノート：Ⅵ中枢神経 5 脳血管障害	櫻谷正明	中外医学社		2021 年
ICU グリーンノート：Ⅵ中枢神経 5 脳血管障害	森川 咲 櫻谷正明	羊土社		2020 年
ICU グリーンノート：Ⅵ中枢神経 5 脳血管障害	高場章宏	羊土社		2020 年

薬剤部

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
A reassessment about included studies and certainty of evidence on a systematic review and meta-analysis of steroid for patients with acute respiratory distress syndrome	Shodai Yoshihiro, and Shunsuke Taito	Journal of Intensive care	9, 25	2021 年
集中治療室せん妄患者に対するゾデピンの効果と安全性：パイロット研究	吉廣尚大 櫻谷正明 高場章宏 河村夏生 筒井 徹 加藤之紀 吉田研一 橋本佳浩	日本臨床医学会雑誌	24, 1, 39-46	2021 年

臨床研究検査科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
2 台の自動血球分析装置における新鮮血液を用いた複合型内部精度管理の運用について	中島淑貴	広島臨床検査	9 巻 Page6-10	2020 年

リハビリテーション科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
腎機能障害合併心疾患患者に対する心臓リハビリテーションの腎機能に与える影響	井場和敏 小林 平 本間智明 小島輝久 高桑 翼 村上嘉章	日本冠疾患学会誌	vol. 2・1-9	2020 年

栄養科

タイトル・著書名	著者名	雑誌名・出版社	巻・号・ページ	発行年
特集「管理栄養士は ICU でどう活躍する？重症患者の早期栄養介入加算の実際」	八幡謙吾	ニュートリションケア・メディカ出版	14 巻 2 号	2021 年

書籍・雑誌編集

消化器内科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
兵庫秀幸	Development and Validation of a Nomogram for Predicting Varices Needing Treatment in Compensated Advanced Chronic Liver Disease : A Multicenter Study	HEPRES-20-1216	Hepatology Research	
藤本佳史	あなたも名医！膵胆道系疾患を見抜く！	花田敏士他 藤本佳史	jmed69, 17-21.	日本医事新報社

心臓外科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
濱本正樹	日本血管外科学会雑誌	③		Medical Tribune Inc.
濱本正樹	Annals of Vascular Diseases	③		Medical Tribune Inc.

病理研究検査科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
高田 愛	広島臨床検査	編集	第9巻	一般社団法人広島県臨床検査技師会

薬剤部

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
吉廣尚大 櫻谷正明	INTENSIVIST 2021年4月号 薬理学	薬剤投与方法の tips : 薬物の期待される効果を発揮させるために	13・2, p332-339	MEDSi
吉廣尚大	月刊薬事 2021年4月号	Clinical Question でマスターする集中治療での薬の使い方 (副作用・人工呼吸器関連の Q and A)	63・5	じほう
吉廣尚大	日本集中治療医学会雑誌	Reviewer		

臨床工学科

担当者	書籍・雑誌名	担当	巻・号 (Volume, number)	出版元
荒田晋二	呼吸治療専門臨床工学技士 テキスト			
荒田晋二	呼吸治療専門臨床工学技士 試験問題作成			

学会発表

循環器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
新規心不全治療薬「サクビトリル／バルサルタン」の使用経験	辻山修司	第 31 回佐伯医学会総会	2021 年 2 月 14 日	廿日市市
前立腺癌術前に診断されて慢性血栓性肺高血圧症の 1 例	辻川知己 吉富勇輝 藤原敬士 渡邊義和 前田幸司 辻山修司 藤井 隆	第 5 回日本肺高血圧・肺循環学会	2020 年 9 月 26 ～ 27 日	オンライン
DOAC に対して抵抗性を示した Trousseau 症候群の 1 例	松島大地 藤原敬士 吉富勇輝 赤澤良太 渡邊義和 辻川知己 前田幸司 辻山修司 藤井 隆	第 117 回日本循環器学会 中国地方会	2020 年 12 月 5 日	オンライン
Clinical experience of Drug coated balloon for femoropopliteal artery lesions in our hospital	藤原敬士 小林 平 吉富勇輝 赤澤良太 渡邊義和 辻川知己 前田幸司 辻山修司 藤井 隆	CVIT2020	2021 年 2 月 18 ～ 21 日	オンライン

腎臓内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
AKI-CKD transition におけるストレス誘導性腎細胞老化とヒストン修飾の役割	下田大紀 土井盛博 中島 歩 土井俊樹 正木崇生	第 50 回日本腎臓学会西 部学術大会	2020 年 10 月 16 ～ 17 日	和歌山市
ステロイド、LDL アフェレーシス加療中に特発性心室細動を発症し心肺停止となった巣状分節性糸球体硬化症の 1 例	藤井賢治 下田大紀 山村恒平 荒川哲次	第 123 回日本内科学会中 国地方会	2020 年 10 月 31 日	出雲市
レジオネラ肺炎による感染症関連腎炎と考えられた 1 例	山村恒平 田村 亮 平塩秀磨 土井俊樹 正木崇生	第 123 回日本内科学会中 国地方会	2020 年 10 月 31 日	出雲市

糖尿病・代謝内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
DPP-4 阻害薬の神経保護作用は GLP-1 受容体への作用のみで説明できるか？～デュラグルチド投与時との比較～	石田和史 濱岡 彩 由田彩佳 山本祐太郎	第 63 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2020 年 10 月 5 ～ 16 日	WEB 開催
糖尿病患者の膵臓癌に見られる代謝異常パターンは発生部位により異なる	由田彩佳 山本祐太郎 濱岡 彩 石田和史	第 63 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2020 年 10 月 5 ～ 16 日	WEB 開催
DPP-4 阻害薬への SGLT-2 阻害薬の併用効果は、その SGLT2 選択性の差に影響されるか？	山本祐太郎 由田彩佳 濱岡 彩 石田和史	第 63 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2020 年 10 月 5 ～ 16 日	WEB 開催
安静時心拍数と RR 間隔を利用した SGLT-2 阻害薬が自律神経系に与える影響の検討	濱岡 彩 山本祐太郎 由田彩佳 石田和史	第 63 回日本糖尿病学会 年次学術集会	2020 年 10 月 5 ～ 16 日	WEB 開催
糖尿病患者の神経機能に及ぼす ARI と DPP-4 阻害薬の長期効果の比較検討	石田和史 濱岡 彩 由田彩佳 山本祐太郎	第 58 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2020 年 10 月 23 ～ 11 月 8 日	WEB 開催
SGLT-2 阻害薬が腎機能に及ぼす影響をシスタチン C による eGFR で評価する	濱岡 彩 山本祐太郎 由田彩佳 石田和史	第 58 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2020 年 10 月 23 ～ 11 月 8 日	WEB 開催
インスリン治療患者における SGLT2 阻害薬併用の臨床的有用性の検証	由田彩佳 山本祐太郎 濱岡 彩 石田和史	第 58 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2020 年 10 月 23 ～ 11 月 8 日	WEB 開催
1 型糖尿病に対するインスリンデグリュデグの投与時間変更による血糖コントロール変化の検討	山本祐太郎 石田和史 濱岡 彩 由田彩佳	第 58 回日本糖尿病学会 中国四国地方会	2020 年 10 月 23 ～ 11 月 8 日	WEB 開催

消化器内科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
教育講演 第 45 回日本超音波検査学会 特別企画 攻略！胆道・膵管病変／エコー論～他のモダリティに学ぶ～	藤本佳史	第 45 回 日本超音波検査学会	2020 年 12 月 19 ～ 20 日	web 配信
下部直腸全周性病変に対して ESD を施行した 1 症例	石橋一樹 古土井明 進藤源太郎 山下未紗 野中裕広 藤本佳史 兵庫秀幸 相坂康之 徳毛宏則	第 113 回、日本消化器病 学会中国支部例会	2020 年 6 月 13 日	宇部市

学会発表

外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当科での腹壁瘻痕ヘルニア修復術の治療成績	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 向田敦史 柴田祥之 中光篤志	第120回日本外科学会定期学術集会	2020年8月13～15日	web開催
超高齢者胃癌における術前評価法と予後に関する検討	杉山陽一 柴田祥之 向田敦史 岡本暢之 海氣勇気 平野利典 新宅谷隆太 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第120回日本外科学会定期学術集会	2020年8月13～15日	web開催
成人臍ヘルニア嵌頓の治療成績	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 向田敦史 柴田祥之 中光篤志	第56回日本腹部救急医学会総会	2020年10月8～9日	web開催
フォローなき症例登録は意義に乏しい	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 岡本暢之 柴田祥之 中光篤志	第18回日本ヘルニア学会学術集会	2020年11月3～4日	web開催
多部位に発生した腹壁瘻痕ヘルニアに対する治療—先生ならどう治療しますか—	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 岡本暢之 柴田祥之 中光篤志	第18回日本ヘルニア学会学術集会	2020年11月3～4日	web開催
前回術式から考える、再発鼠径ヘルニアに対する治療選択	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 岡本暢之 柴田祥之 中光篤志	第18回日本ヘルニア学会学術集会	2020年11月3～4日	web開催
第2回沖永賞受賞記念講演「前方到達法で修復した両側上腰ヘルニアの2例 - 手術適応と術式選択に関する考察 - 」	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 岡本暢之 柴田祥之 中光篤志	第18回日本ヘルニア学会学術集会	2020年11月3～4日	web開催
外科医になって1年～初めてのヘルニア手術経験～	柴田祥之 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 岡本暢之 中光篤志	第18回日本ヘルニア学会学術集会	2020年11月3～4日	web開催
当科での腹壁瘻痕ヘルニアの治療成績	海氣勇気 柴田祥之 田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 岡本暢之 中光篤志	第18回日本ヘルニア学会学術集会	2020年11月3～4日	web開催
抗血栓薬内服症例に対する緊急胆嚢摘出術の安全性の検討	岡本暢之 田崎達也 佐々木秀 新宅谷隆太 香山茂平 杉山陽一 柴田祥之 中光篤志	JDDW2020, 第18回日本消化器外科学会大会	2020年11月5～7日	web開催
当科での腹壁瘻痕ヘルニア修復術の治療	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 山口拓朗 中光篤志	第73回広島医学会総会	2020年11月15日	web開催
後期研修医に対する鼠径部切開法教育を考える	田崎達也 柴田祥之 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 岡本暢之 土井寛文 中光篤志	第13回日本ヘルニア学会北海道支部総会	2020年11月28日	web開催
肝内胆管癌に対するR0を企図したリンパ節郭清	佐々木秀 中光篤志 香山茂平 田崎達也 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 柴田祥之	第75回日本消化器外科学会総会	2020年12月15～17日	web開催
胃切除による体組成の変化が超高齢者胃癌患者の予後に与える影響についての検討	杉山陽一 柴田祥之 岡本暢之 海氣勇気 平野利典 新宅谷隆太 田崎達也 香山茂平 佐々木秀 中光篤志	第75回日本消化器外科学会総会	2020年12月15～17日	web開催
再発腹壁ヘルニアの病態と治療	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 新宅谷隆太 平野利典 海氣勇気 岡本暢之 柴田祥之 中光篤志	第75回日本消化器外科学会総会	2020年12月15～17日	web開催
胆嚢粘液性嚢胞腺腫の一例	柴田祥之 佐々木秀 新宅谷隆太	第75回日本消化器外科学会総会	2020年12月15～17日	web開催
年齢を考慮した女性鼠径部ヘルニアに耐する治療方針	田崎達也 佐々木秀 香山茂平 杉山陽一 埜越宏幸 山口拓朗 清戸 翔 岡本暢之 土井寛文 柴田祥之 中光篤志	第31回佐伯医学会総会	2021年2月14日	廿日市市
TEP from the point of view of expert of TAPP	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Nakamitsu A	第33回日本内視鏡外科学会総会	2021年3月10～13日	神奈川県横浜市 (Hybrid)
Treatment for port site hernias in multiple sites	Tazaki T, Sasaki M, Kohyama M, Sugiyama Y, Nakamitsu A	第33回日本内視鏡外科学会総会	2021年3月10～13日	神奈川県横浜市 (Hybrid)

学会発表

当科での腹壁癒痕ヘルニア修復術の治療成績	清戸 翔 香山茂平 山口拓朗 柴田祥之	田崎達也 杉山陽一 岡本暢之 中光篤志	佐々木秀 埜越宏幸 土井寛文	第 185 回広島外科会総会 ならびに第 41 回日本臨 床外科学会広島県支部学 術集会	2021 年 3 月 6 日	web 開催
当科における Persistent Descending Mesocolon4 例の検討	柴田祥之 田崎達也 山口拓朗 土井寛文	香山茂平 杉山陽一 岡本暢之 中光篤志	佐々木秀 埜越宏幸 清戸 翔	第 185 回広島外科会総会 ならびに第 41 回日本臨 床外科学会広島県支部学 術集会	2021 年 3 月 6 日	web 開催
抗血栓薬内服症例に対する緊急胆嚢摘出術の安全 性の検討	岡本暢之 山口拓朗 埜越宏幸 柴田祥之	田崎達也 香山茂平 清戸 翔 中光篤志	佐々木秀 杉山陽一 土井寛文	第 185 回広島外科会総会 ならびに第 41 回日本臨 床外科学会広島県支部学 術集会	2021 年 3 月 6 日	web 開催
超高齢進行胃癌手術症例における術後自立度低 下をきたすリスクの検討	杉山陽一 岡本暢之 埜越宏幸 佐々木秀	柴田祥之 清戸 翔 田崎達也 中光篤志	土井寛文 山口拓朗 香山茂平	第 92 回日本胃癌学会総 会	2021 年 3 月 3～5 日	web 開催
幽門側胃切除後の乳糜胸水に対し、オクレオチド とエチレフリン併用療法が奏効した 1 例	清戸 翔 土井寛文 埜越宏幸 佐々木秀	杉山陽一 岡本暢之 田崎達也 中光篤志	柴田祥之 山口拓朗 香山茂平	第 92 回日本胃癌学会総 会	2021 年 3 月 3～5 日	web 開催
胃癌術後の異時肝転移・肺転移を切除し、長期生 存した 1 例	土井寛文 岡本暢之 埜越宏幸 佐々木秀	杉山陽一 清戸 翔 田崎達也 中光篤志	柴田祥之 山口拓朗 香山茂平	第 92 回日本胃癌学会総 会	2021 年 3 月 3～5 日	web 開催

乳腺外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
HER2 陰性進行再発乳癌コンパニオン診断としての BRCA1 / 2 遺伝子検査を施行した乳癌症例の検討 と課題	梶谷桂子 金子佑妃 厚井裕三子 大原正裕	第 28 回 日本乳癌学会 総会	2020 年 10 月 9～31 日	WEB
転移・再発乳癌患者に対するエリブリンの効果予 測因子の検討	金子佑妃 梶谷桂子 厚井裕三子 大原正裕	第 28 回 日本乳癌学会 総会	2020 年 10 月 9～31 日	WEB
CA15-3 が全身性強皮症の間質性肺炎の病勢を示し た再発乳癌の 1 例	森田智子 厚井裕三子 大原正裕	第 28 回 日本乳癌学会 総会	2020 年 10 月 9～31 日	WEB
針生検後に "healing" の起こった原発性乳癌の 1 例	伊藤里紗 厚井裕三子 大原正裕	第 28 回 日本乳癌学会 総会	2020 年 10 月 9～31 日	WEB
トリプルネガティブ乳癌における cMET と FOXM1 の発現	大原正裕 金子佑妃 梶谷桂子 厚井裕三子	第 28 回 日本乳癌学会 総会	2020 年 10 月 9～31 日	WEB
BRCA2 遺伝子変異を有し、ペパシズマブ単独療法 が長期奏効している StageIV 乳癌の 1 例	厚井裕三子 大原正裕	第 26 回 日本遺伝性腫 瘍学会学術集会	2020 年 8 月 21～31 日	WEB
当院における遺伝子診療部開設後の取り組みの紹 介と課題	梶谷桂子 山本弥寿子 木村奈々 大原正裕 渡 正伸	第 26 回 日本遺伝性腫 瘍学会学術集会	2020 年 8 月 21～31 日	WEB

整形外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP の罹病期間別手 術成績	山田清貴 橋本貴士 藤本吉範	日本整形外科学会学術総 会	2020 年 6 月 11～8 月 31 日	福岡市
若年性腰椎椎間板ヘルニアに対する経椎間孔・全 内視鏡下腰椎椎間板摘出術の治療成績	山田清貴 橋本貴士 藤本吉範	日本脊椎脊髄病学会	2020 年 9 月 7～23 日	神戸市
骨粗鬆症性椎体骨折に対する BKP の罹病期間別手 術成績	山田清貴 橋本貴士 藤本吉範	日本脊椎脊髄病学会	2020 年 9 月 7～23 日	神戸市
骨脆弱性骨折による入院患者の口腔内衛生状態の 検討	水野 尚之	第 22 回日本骨粗鬆症学 会	2020 年 10 月 9～11 日	神戸市

学会発表

形成外科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
下腿切断症例における義足歩行の能否に影響する因子の検討	長谷川美紗	第12回日本創傷外科学会総会・学術集会	2020年10月10～11日	徳島市

皮膚科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
後爪郭部爪刺しの1例	田中百合恵 天野愛純香 梅田直樹	第146回日本皮膚科学会広島地方会	2021年9月6日	広島市
低用量ドセタキセルと放射線治療の併用で治療した頭部血管肉腫の1例	天野愛純香 田中百合恵 梅田直樹	第36回皮膚悪性腫瘍学会	2021年2月14日	広島市
当院でのCO2レーザーを用いた剥離法の治療経験	天野愛純香 田中百合恵 梅田直樹	第147回日本皮膚科学会広島地方会	2021年2月14日	広島市
複数の部分切除により縮小した多発性偽リンパ腫の1例	田中百合恵 天野愛純香 梅田直樹	第147回日本皮膚科学会広島地方会	2021年2月14日	広島市

泌尿器科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
腹腔鏡下に摘出した巨大ダンベル型神経鞘腫の1例	加藤昌生 田坂晋作 藤井照護 上田晃嗣 松原昭郎	日本泌尿器科学会中部総会	2020年11月12日	金沢市

眼科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
リパシジルの有無によるSLTの治療成績	馬場太郎 二井宏紀	第31回日本緑内障学会	2020年10月2日	大分
リパシジル塩酸塩水和物液が選択的レーザー線維柱帯形成術に与える影響	馬場太郎 二井宏紀	第791回広島地方眼科学会	2020年11月22日	広島

画像診断部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
外傷歴のない左下腹部痛患者で突発性脾破裂が見つかった2例	松原佑吾 西原礼介 中光篤志	第31回 佐伯医学会総会	令和3年2月14日	廿日市市
乳癌術後に視野欠損を伴う下垂体転移をきたした1例	中木優羽 西原礼介 大原正裕 黒木一彦	第31回 佐伯医学会総会	令和3年2月14日	廿日市市
酸性洗剤誤飲により門脈ガスを生じた1例	島田幸暢 西原礼介 河村夏生 吉田研一	第31回 佐伯医学会総会	令和3年2月14日	廿日市市
重症急性性肺炎（気腫性肺炎）の1例	森田智子 西原礼介 相坂康之	第31回 佐伯医学会総会	令和3年2月14日	廿日市市
当院で初期に経験したCOVID-19患者の胸部CT30例の考察	山根大寛 西原礼介 近藤丈博	第31回 佐伯医学会総会	令和3年2月14日	廿日市市

麻酔科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
汎用Machintosh喉頭鏡ブレードに3.9mm細径カメラを装着したビデオ喉頭鏡の試作	中尾正和 新澤正秀 本多亮子 村上俊介 石橋優和 河本佐誓子 佐々木陽子 宮地くる実 本池芹佳 満谷尚子	第38回日本麻酔・集中治療テクノロジー学会	2021年2月24～25日	那覇市
Sedline（Mashimo, Root）による脳波モニタリングでは、麻酔深度が安定していてもケーブルを抜いて再接続するとPSIは100から始まり術中覚醒との判別が困難になる。—術中PSI=100となった症例の後ろ向き検証報告—	河本佐誓子 中尾正和 本多亮子 石橋優和 村上俊介 植崎荘志	第67回日本麻酔科学会年次総会	2020年6月4～6日	オンライン開催
脊椎手術での体位変換時における脳波記録中断時間	植崎荘志 中尾正和 佐々木陽子 石橋優和 村上俊介 河本佐誓子	第67回日本麻酔科学会年次総会	2020年6月4～6日	オンライン開催

学会発表

救急・集中治療科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
VA-ECMO 導入患者での下肢虚血発生に関する因子の検討	堂埜恵理 櫻谷正明 岩田和佳奈 岩本桂 芳野由弥 高場章宏 河村 夏生 吉田研一	第 48 回日本集中治療医 学会学術集会	2021 年 2 月 12 ~ 14 日	オンライ ン
VA-ECMO 導入患者での下肢虚血発生に関する因子の検討	岩田和佳奈	第 48 回日本集中治療医 学会学術集会	2021 年 2 月 12 ~ 14 日	オンライ ン
VA-ECMO 導入患者での下肢虚血発生に関する因子の検討	櫻谷正明 廣瀬智也 垣花泰之 松嶋麻子 高橋 弘 田上 隆 松山 匡 大下慎一郎 下山 哲 岡本 潤 山田浩平 船越 拓 青木 誠 村田哲平 西山 慶 中森裕毅 宮崎裕也 内藤宏道 安部隆国 入野田崇 岡 和幸 角山泰一朗 原口 剛 石川雅巳 石丸 剛 吉廣尚大 古川彩香	第 48 回日本集中治療医 学会学術集会	2021 年 2 月 12 ~ 14 日	オンライ ン
VA-ECMO 導入患者での下肢虚血発生に関する因子の検討	櫻谷正明	第 42 回 日本呼吸療法 医学会学術集会	2020 年 12 月 20 ~ 21 日	京都
VA-ECMO 導入患者での下肢虚血発生に関する因子の検討	櫻谷正明	第 42 回 日本呼吸療法 医学会学術集会	2020 年 12 月 20 ~ 21 日	京都
VA-ECMO 導入患者での下肢虚血発生に関する因子の検討	波多間浩輔 櫻谷正明	第 42 回 日本呼吸療法 医学会学術集会	2020 年 12 月 20 ~ 21 日	京都
VA-ECMO 導入患者での下肢虚血発生に関する因子の検討	芳野由弥 吉田研一 辻山修二 櫻谷正明 河村夏生 高場章宏 岩本 桂 堂埜恵理 吉廣勇輝	第 48 回日本集中治療医 学会学術集会	2021 年 2 月 12 ~ 14 日	オンライ ン

病理研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
Post 法改正の日臨床品質保証の方向性と課題 精度保証施設認定制度の課題と問題点	水野誠士	第 69 回日本医学検査学 会	2020 年 9 月 5 日	千葉市

薬剤部

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
当院消化器内科におけるヒドリモルフォンの使用 状況について	吉田 玲 磯貝明彦 橋本佳浩	令和 2 年度 広島県病院 薬剤師会研究会発表会	2021 年 12 月 5 日	広島
広島西部地区拠点病院の ICU で行う、治療の「王道」 で考える薬剤師の ICU 運営	吉廣尚大	日本集中治療医学会 第 4 回中国四国支部学術集 会		誌上開催
循環管理のプロフェッショナルと協働するために 薬剤師が行う循環管理	吉廣尚大	日本集中治療医学会 第 4 回関西支部学術集会	2020 年 10 月 31 日	オンライ ン
薬剤師による転棟時の薬剤鑑別で早期診断された セロトニン症候群：症例報告	藤野伶美 吉廣尚大 築家秀和 橋本佳浩	第 30 回日本医療薬学会 年会		オンライ ン
消化器外科病棟におけるポリファーマシー削減に 対する取り組みに対する調査：単施設後ろ向き観 察研究（第 2 報）	岡野愛子 吉廣尚大 小野塚和人 磯貝明彦 中光篤志 橋本佳浩	第 30 回日本医療薬学会 年会		オンライ ン
呼吸ケアチームに参画する薬剤師による薬剤介入 に関する調査（第 2 報）；単施設後ろ向き観察研究	島田萌美 吉廣尚大 堀橋賢吾 櫻谷正明 荒田晋二 白井 敦 角井 碧 向井一樹 小野塚和人 橋本 佳浩	第 30 回日本医療薬学会 年会		オンライ ン
ドブタミンで発症した心膜炎を伴う好酸球増多症 候群：症例報告	無漏田香穂 吉廣尚大 石橋直樹 橋本佳浩	第 30 回日本医療薬学会 年会		オンライ ン
経腸栄養併用時に静脈栄養の関与が疑われた代謝 性アシドーシス	吉廣尚大 八幡謙吾 櫻谷正明 竹石雄介 河村夏生 高場章宏 吉田研一 橋本佳浩	第 48 回日本集中治療医 学会 学術集会		オンライ ン
PADIS のために薬剤師が考えること	吉廣尚大 櫻谷正明 小野塚和人 吉田研一 橋本佳浩	第 42 回日本呼吸療法医 学会 学術集会	2020 年 12 月 5 ~ 6 日	京都国際 会議場
呼吸ケアチームに参画する薬剤師による薬剤介入 に関する調査；単施設後ろ向き観察研究	吉廣尚大 櫻谷正明 荒田晋二 平野恵子 田中智子 八幡謙吾 石井真弓 内山明子 上田雅美 嶋田恵美 橋本佳浩	第 42 回日本呼吸療法医 学会 学術集会	2020 年 12 月 5 ~ 6 日	京都国際 会議場
シンポジウム 31 日本敗血症ガイドライン 2020； 初期蘇生・ステロイドを知る	広瀬智也 垣花泰之 松嶋麻子ほか 吉廣尚大 et al.	第 48 回日本集中治療医 学会 学術集会		オンライ ン

学会発表

外来心リハにおける薬剤師介入の有用性	向井一樹 小林 平 本間智明 無漏田香穂 橋本佳浩	第26回日本心臓リハビリテーション学会学術集会	2020年7月 18～19日	オンライン
--------------------	------------------------------	-------------------------	-------------------	-------

臨床研究検査科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
赤血球沈降速度 自動測定装置 Roller20 の内部精度管理の検討～患者 EDTA 加血を用いて～	西浦和佳 中島淑貴 村田竜也 大田祐美子 岡田未来依 荒瀬美幸 山本加代子 三舛正志 福岡達仁	広島県医学検査学会	2021年2月 28日	広島
当院における LD・ALP-IFCC 対応試薬の基礎的検討と若干の知見	建川結子 小原健吾 坂口美波 鹿嶋 聖 大西真子 丸山恭平 尾川 恵 横山富士 長尾 専 福岡達仁 藤井 隆	広島県医学検査学会	2021年2月 28日	広島
シカジーニース ESB L 遺伝子型検出キット 2 の有用性	池田光泰	第69回日本医学検査学会	2020年9月 5～6日	千葉
ベストプラクティス：日常検査 1「薬剤耐性菌のスクリーニング検査から報告までを考える」	池田光泰	第32回日本臨床微生物学会	2021年1月 29～2月28日	web 開催

放射線科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
CT 検査における医療安全アンケート調査の結果報告	田丸隆行	第36回日本診療放射線技師学術大会 Web	2021年1月 8～1月31日	Web

臨床工学科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
「求められる臨床工学技士の力」慢性呼吸管理における臨床工学技士の力	荒田晋二	第42回呼吸療法学会	2021年12月 21日	京都

リハビリテーション科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
開心術後に脳幹梗塞を合併し嚥下障害を来した一症例～二度の挿管から食事が自立できるまで～	新川すずか 上田雅美 後藤優佳 杉本美里 小林 平	第4回広島県言語聴覚士学術集会	2020年6月 1日	誌上開催
集中治療領域における言語聴覚士の役割	上田雅美 櫻谷正明 後藤優佳 新川すずか 杉本美里 小林 平	日本集中治療医学会 第4回中国・四国支部学術集会	2020年7月 1日	誌上開催
開心術後フレイルの遠隔期成績の検討	小島輝久 本間智明 村上嘉章 井場和敏 河野裕美 内山明子 西谷喜子 高桑翼 小林 平	第26回日本心臓リハビリテーション学術集会	2020年7月 18～7月19日	web
PAD 患者の歩行能力は生命予後に影響する	本間智明 小林 平 村上嘉章 小島輝久 井場和敏 西谷喜子 高桑 翼	第26回日本心臓リハビリテーション学術集会	2020年7月 18～7月19日	web
CLI に対する再バイパスが ADL に与える影響	本間智明 小林 平 村上嘉章 井場和敏 西谷喜子 高桑 翼	第1回日本フットケア・足病医学会年次学術集会	2020年12月 4～12月5日	web
術前身体機能が肺癌周術期リハビリテーションに及ぼす影響	飛鷹恵理 村上嘉章 小林 平 渡 正伸 近藤丈博 三隅啓三 伊崎 悠	第30回日本呼吸ケアリハビリテーション学会	2021年3月 19～3月20日	web

栄養科

演題	発表者・協同研究者名	学会名	開催期間	開催都市
ワークショップ 10（リハビリしたくても栄養が足りない力が出ないってホント？）「当院 ICU の栄養管理の変遷と現状」	八幡謙吾	第42回日本呼吸療法医学会 ハイブリッド形式（WEB 発表）	2020年12月 18～20日	京都

学会での座長

消化器内科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第125回日本内視鏡学会中国支部例会	兵庫秀幸	一般演題 胆・膵 E15-E18	12020年12月5日	岡山市

外科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第33回日本内視鏡外科学会総会	田崎達也	鼠径部ヘルニア TAPP2	2021年3月10～13日	神奈川県横浜市 (Hybrid)
第31回佐伯医学会総会	香山茂平	一般演題	2021年2月14日	廿日市市
第185回広島外科会総会ならびに第41回日本臨床外科学会広島県支部学術集会	杉山陽一	食道・胃	2021年3月6日	web
第185回広島外科会総会ならびに第41回日本臨床外科学会広島県支部学術集会	田崎達也	ヘルニア・その他	2021年3月6日	web

救急・集中治療科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
第42回日本呼吸療法医学会学術集会	櫻谷正明	エキスパート講演7「iOSの医療応用+国内導入事例」	2020年12月20～21日	京都

病理研究検査科

学会名	座長者名	担当セッション	開催年月日	開催都市
2020年度日臨技精度管理総合報告会	水野誠士	臨床化学・免疫血清・血液検査部門	2020年11月28日	東京都
第40回広島県臨床検査精度管理向上研修会	水野誠士	司会・特別講演	2021年3月2日	広島市

研究会講演・発表

循環器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
大竹市医師会月例会	慢性心不全の今～新規治療薬と病診連携～	辻山修司	2020年10月16日 大竹商工会議所	大竹市医師会・ノバルティスファーマ・大塚製薬
佐伯地区心不全学術講演会	心不全治療新時代の幕開け	辻山修司	2021年1月22日 廿日市市商工会館＋Web	佐伯地区医師会・ノバルティスファーマ・大塚製薬
広島市佐伯区医師会学術講演会	心不全治療新時代の幕開け	辻山修司	2021年3月9日 広島市佐伯区地域福祉センター＋Web	広島市佐伯区医師会・大塚製薬・ノバルティスファーマ
KANEKA MEDIX presents CHUGOKU/SHIKOKU	俺達のDLC	赤澤良太	2021年3月18日 Web	カネカメディクス
S-ICD 研究会	TV-ICD か S-ICD にするか迷った一症例	渡邊義和	2020年10月01日 Web	Boston
第65回広島循環器病研究会	DOAC に対して抵抗性を示した Trousseau 症候群の一例	藤原敬士	2020年12月1日 TKP 広島駅前	興亜創業
総合東京病院 LIVE	下肢動脈解剖学的亜型との鑑別が困難であった CLTI / Rutherford6 に対し TAI が有効であった一例	藤原敬士	2020年11月7日 オンライン	総合東京病院 TERUMO
足守会	最近気になること・困ったこと	藤原敬士	2020年7月17日 オンライン	Cardinal health Japan

糖尿病・代謝内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第36回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	インスリンと SGLT2 阻害薬の併用効果の検証	石田和史	2020年8月19日 廿日市市商工保健会館（広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・キッセイ薬品
これからの糖尿病治療戦略を考える会 2020	糖尿病地域連携、真に連携すべきものは何か？～糖尿病診療の質の均一化をめざす広島県西部地区の取り組み～	石田和史	2020年10月23日 クレイトンベイホテル（広島県呉市）	大日本住友製薬
広島県糖尿病薬物療法セミナー	ますます多彩になった経口血糖降下薬！薬理作用に基づいたシックデイ対応	石田和史	2020年11月7日 TKP ガーデンシティ PREMIUM 広島駅前（広島市南区）& WEB 県下3会場（佐伯区・尾道市・三次市）	広島県薬剤師会・専門薬剤師委員会（糖尿病）・小野薬品工業

消化器内科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第36回、広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	糖尿病と非アルコール性脂肪肝炎（NASH）の関係と対処法	兵庫秀幸	2020年8月19日 廿日市市	広島県医師会闘病病対策推進会議、キッセイ薬品
HCC Expert Meeting in Hiroshima	当院での TKI 治療の現況と逐次治療の経験	野中裕広	2020年10月27日 広島市	バイエル薬品
第28回、Regional Interactive G.I. Doctors' Network	胆管炎症例の討論と TG18	藤本佳史	2020年11月11日 廿日市市	Regional Interactive G.I. Doctors' Network、佐伯地区医師会、佐伯地区内科会、佐伯地区外科会、第一三共株式会社

外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第28回 RIGID Net	鼠径ヘルニア手術と術後慢性疼痛	田崎達也	2020年11月11日 広島県廿日市市	

研究会講演・発表

第 19 回同門会研究報告会	後期研修医が執刀した、鼠径部ヘルニアに対する鼠径部切開法の短期成績	柴田祥之 佐々木秀 杉山陽一 山口拓朗 土井寛文 中光篤志	田崎達也 香山茂平 埜越宏幸 清戸 翔 岡本暢之	2020 年 10 月 24 日 広島県広島市	
シームレスな在宅がん診療を考える会	基幹病院での緩和ケアチームの取り組みと痛みの管理	田崎達也		2021 年 3 月 9 日 広島県廿日市市	
第 54 回広島県内視鏡下外科手術研究会	肥満大腸がん症例における腹腔鏡下手術成績	埜越宏幸 中光篤志 田崎達也 山口拓朗 岡本暢之 柴田祥之	香山茂平 佐々木秀 杉山陽一 清戸 翔 土井寛文	2021 年 2 月 26 日 web	
2021 年新年会ラパヘルエキスパートミーティング	第 2 回沖永賞受賞記念講演「前方到達法で修復した両側上腰ヘルニアの 2 例—手術適応と術式選択に関する考察—」	田崎達也		2021 年 2 月 26 日 web	

整形外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
BKP 発売 10 周年セミナー	BKP の適応と手技のポイント	山田清貴	2020 年 11 月 26 日 web 開催	メドトロニックソファモ アダネック

呼吸器外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
2020 年度広島パカラ	4 年ぶりの管状気管支形成術	三隅啓三	2020 年 11 月 26 日 Web 開催	ジョンソンアンドジョン ソン
2020 年度廿日市市老人連 合会講演会	高齢者が新型コロナウィルス感染症 と共存出来る新しい生活様式	渡 正伸	2020 年 11 月 12 日 ウッドワンさくらびあ大 ホール	廿日市市老人クラブ連合 会主催、廿日市市共済

心臓外科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
IN. PACT Web 症例検討 会@中国	DCB, or not DCB, -that is the question ...	小林 平	2020 年 10 月 27 日 広島市	日本メドトロニック株式 会社
NEXT2020 Online Refresher	What works and what doesn't for diffuse-long femoropopliteal disease	小林 平	2020 年 10 月 23 日 奈良県	ボストン・サイエンティ フィック株式会社
血行再建医の CLTI	二刀流の血行再建 -Bypass and EVT-	小林 平	2020 年 11 月 20 日 東京都	ボストン・サイエンティ フィック株式会社
Fusion EVT Conference 2020	今年のトラブル症例	小林 平	2021 年 1 月 9 日 広島市	株式会社カネカメディッ クス
Gore Web Evening of Clinical Discussion	SFA における EVT + Distal bypass の 成績について	小林 平	2021 年 1 月 22 日 広島市	日本ゴア株式会社
コ ラ テ ジ ェ ン Expert Seminar in Hiroshima	重症下肢虚血治療の現状と遺伝子治 療用製品コラテジェンへの期待	小林 平	2021 年 3 月 9 日 広島市	田辺三菱製薬株式会社
Abbott Web Lecture	Trifecta 摘出症例を振り返る	濱本正樹	2020 年 11 月 20 日 広島	
Valvular Heart Disease Web Forum	心機能低下を伴った慢性心房細動合 併 type I MR に対する後尖パッチ拡大 術の一例	濱本正樹	2021 年 1 月 14 日 広島	
Abbott Web Lecture	Structure Valve Deterioration を科学す る	濱本正樹	2021 年 3 月 19 日 広島	
第 19 回同門会研究会	当院における末梢動脈疾患の治療の 現状と今後の展望	岡崎孝宣	2020 年 10 月 24 日 広島市	第一外科
第 65 回循環器病研究会	大腿動脈におけるウシ心膜パッチ形 成術の使用報告と今後の展望	岡崎孝宣	2020 年 12 月 12 日 広島市	

研究会講演・発表

皮膚科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島・岩国 化膿性汗腺炎病診連携セミナー	化膿性汗腺炎（慢性膿皮症）の今昔	梅田直樹	2020年11月19日 広島市	アッヴィ合同会社

画像診断部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第352回広島放射線診断カンファレンス	脾サルコイドーシスの一例	岸田直孝	2020年10月1日 広島大学	
第355回広島放射線診断カンファレンス	腹部単純X線写真の読み方	前田智郷	2020年10月22日 広島大学	
第367回広島放射線診断カンファレンス	乳癌術後、下垂体転移をきたした1例	中木優羽	2021年2月4日 広島大学	

看護科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
ジェネラリスト研修	運動器疾患の理解とケア	馬場崎喜美子	2020年8月24日 広島県看護協会	広島県看護協会
看護管理学	看護管理	馬場崎喜美子	2020年9月、10月 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校
医療安全	医療安全	村中好美	2020年8月20～21日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校

薬剤部

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県病院薬剤師会病院機能別業務検討委員会研修会	患者さんの正しい情報収集と提供って難しい～急性期病院薬剤師の立場から～	中島恵子	2021年9月12日 広島市	広島県病院薬剤師会

臨床研究検査科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
令和2年度第40回広島県臨床検査精度管理向上研修会	生理検査フォトサーベイ	霜津宏典	2021年3月21日 広島県医師会館	広島県医師会・広島県臨床検査技師会
令和2年度第40回広島県臨床検査精度管理向上研修会	尿定性検査一般フォトサーベイ	荒瀬美幸	2021年3月21日 広島県医師会館	広島県医師会・広島県臨床検査技師会
令和2年度第40回広島県臨床検査精度管理向上研修会	微生物検査フォトサーベイ	池田光泰	2021年3月21日 広島県医師会館	広島県医師会・広島県臨床検査技師会

放射線科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
診療放射線技師のためのフレッシュアップセミナー	当直で役立つ救急CTを学ぼう	山口裕之	2020年8月30日 広島大学病院	日本診療放射線技師会
広島県診療放射線技師会 令和2年度第2回研修会	胸部エックス線のちょっといいお話	田丸隆行	2020年9月27日 広島大学病院	広島県診療放射線技師会
診療放射線技師基礎技術講習「一般撮影」	胸部エックス線撮影とポータブル撮影について	田丸隆行	2021年3月18日 広島大学病院	日本診療放射線技師会
広島県MRI勉強会 基礎講座49	シーケンスチャートの見方	貝原雄也	2021年2月15日 Web	広島県MRI勉強会

研究会講演・発表

リハビリテーション科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第15回広島胃瘻と経腸栄養療法研究会	誰にでもできる嚥下リハビリ	上田雅美	2020年8月1日 広島コンベンションホール、web	広島県医師会、広島県栄養士会、広島県看護協会、広島県消化器内視鏡技師会、広島県薬剤師会、広島県病院薬剤師会、広島県言語聴覚士会、広島県耳鼻咽喉科医会、PEG・在宅医療学会、NPO法人PDN (Patient Doctors Network)、中国新聞社、広島市
第32回NSTを本気で語る会	ICUにおける抜管後の嚥下障害に関する対策	上田雅美	2020年9月12日 広島市	NSTを本気で語る会、アボットジャパン株式会社、株式会社クリニコ、テルモ株式会社

栄養科

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第16回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	コメディカルレクチャー「NASHの食事療法ー糖尿病診療ガイドライン2019と比較してー」	河本良美	2020年8月19日 廿日市市商工保健会館	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会 キッセイ薬品工業株式会社

緩和ケア科緩和ケアチーム

研究会名	講演タイトル	講演者名	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シームレスな在宅がん診療を考える会	基幹病院での緩和ケアチームの取り組みと痛みの管理	田崎達也	2021年3月9日 広島県廿日市市	第一三共株式会社

実績
実績

研究会座長

循環器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Meet the Medical Experts	辻山修司	心不全治療における ARNI の位置づけ ディスカッションパート	為清博道 小田 登 北川知郎 土肥由裕 後藤賢治 衣笠良治 大内 武 林田晃寛 多田 毅 小田哲朗	2020 年 12 月 16 日 ANA クラウンプラザ ホテル広島+ Web	大塚製薬・ノバル ティスファーマ
Valvular Heart Disease Web Forum	辻山修司	カテーテルで治す弁膜症ー抗血栓療法を考えるー	福田幸弘	2021 年 1 月 14 日 Web	第一三共
オンラインで繋がる肺高血圧症 Update Seminar in 広島	荘川知己	PAH 治療の New Normal	土肥由裕	2021 年 3 月 5 日 Web	ヤンセンファーマ

腎臓内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Fluid Management Seminar	荒川哲次	CKD 病診連携と腎性貧血治療について	原田和博	2020 年 9 月 29 日 廿日市市	佐伯地区医師会／佐伯地区内科会／佐伯地区外科会／協和キリン株式会社
	荒川哲次	CKD と高尿酸血症	内田俊也	2020 年 11 月 24 日 廿日市市	佐伯地区医師会／佐伯地区内科会／持田製薬株式会社

糖尿病・代謝内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
Trulicity Online Insight Meeting	石田和史	1) 2 型糖尿病における早期治療強化の重要性 2) 2 型糖尿病の早期治療強化と GLP-1 受容体作動薬の意義	1) 川崎医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科教授 金藤秀明先生 2) 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学／肥満脂肪病態学寄付講座准教授 福原淳範先生	2020 年 8 月 19 日 ライブ配信	日本イーライリリー・大日本住友製薬
インスリン治療セミナー	石田和史	血糖変動を意識したインスリン治療の新たな潮流	東京慈恵医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科 主任教授 西村理明先生	2020 年 9 月 1 日 ライブ配信	日本イーライリリー
GLP-1RA Strategy Online Meeting	石田和史	GLP-1 が切り開く新たな糖尿病治療とその展望	信州大学医学部 糖尿病・内分泌代謝内科 教授 駒津光久先生	2021 年 1 月 28 日 ライブ配信	日本イーライリリー
Metformin Seminar ～メトホルミンの可能性を追求する～	石田和史	エビデンスに基づいた 2 型糖尿病の薬物療法～基礎治療薬としてのメトホルミン～	日本生命済生会日本生命病院 糖尿病・内分泌センターセンター長 住谷哲先生	2021 年 2 月 19 日 ライブ配信	大日本住友製薬
Insulin Update Meeting	石田和史	低血糖リスク・血糖変動を考慮したインスリン治療～Basal インスリン／GLP-1 受容体作動薬配合剤の臨床使用経験から～	医療法人ユスタヴィア多摩センタークリニックみらい理事長 宮川高一先生	2021 年 3 月 29 日 ライブ配信	ノボノルディスクファーマ

消化器内科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第 10 回肥満と消化器疾患研究会	兵庫秀幸	肥満と消化器疾患をめぐる最近の進歩		2020 年 8 月 10 日 広島市	肥満と消化器疾患研究会
広島県西部地区 UC セミナー	古土井明	「直腸炎型潰瘍性大腸炎における診療の Topics」	上野義隆	2020 年 9 月 16 日 廿日市市	持田製薬
佐伯地区医師会学術講演会	徳毛宏則	「Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症: 診断、治療、予防法の現況」	大森慶太郎	2021 年 1 月 26 日 廿日市市	佐伯地区医師会、アステラス製薬
佐伯医学会総会	相坂康之	演題 13 ～ 16		2021 年 2 月 14 日 廿日市市	佐伯地区医師会

研究会座長

小児科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
エピペンハイブリッド講演会	岡島宏易	エピペンの臨床現場における適応	白尾謙一郎	2020年8月25日 広島市	マイラン EPD 合同会社
第10回重症喘息 Meeting in Hiroshima	岡島宏易	重症喘息児における抗体製剤の使い方のコツ	吉田之範	2020年11月9日 Web	ノバルティスファーマ

整形外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
BKP 発売 10 周年セミナー	山田清貴	予後予測を用いた椎体骨折の治療戦略	豊田宏光	2020年11月26日 web 開催	メドトロニック ファモアダネック
BKP 発売 10 周年セミナー	山田清貴	BKP の後療法およびリエゾンサービスの取り組み	安岡宏樹	2020年11月26日 web 開催	メドトロニック ファモアダネック

呼吸器外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第40回呼吸器外科カンファレンス	三隅啓三	呼吸器外科関連演題 5 題	5 名	2021年1月19日 Web 開催	ジョンソンアンドジョンソン

心臓外科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
NEXT 2020	小林 平 (コメンテーター)	究極の石灰化に立ち向かう	金子健二郎	2020年11月6日 奈良県	NEXT 運営事務局
Gore Web Evening of Clinical Discussion	小林 平	Viabahn SFA Evidence	藤村直樹	2021年1月22日 広島市	日本ゴア株式会社

産婦人科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
西部地区産婦人科医学会 学術講演会	中西慶喜	子宮内膜症の新しい診断技術と新世代の薬物療法	太田郁子	2020年10月29日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会、西部地区産婦人科医学会、持田製薬株式会社
西部地区産婦人科医学会 学術講演会	中西慶喜	ライフプランを見据えた子宮内膜症治療—薬物療法のコツと手術の目的・タイミング—	佐伯 愛	2021年3月11日 広島サンプラザ	佐伯地区医師会、西部地区産婦人科医学会、バイエル薬品株式会社

看護科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
第31回佐伯医学会総会	久保知子	一般演題		2020年11月4日 廿日市市商工保健会館	一般社団法人 佐伯地区医師会

薬剤部

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シームレスな在宅がん診療を考える会	磯貝 明彦 ／清水満明	在宅がん診療の現状について	坂井 亮	2021年3月9日 佐伯区医師会館	第一三共株式会社

研究会座長

放射線科

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
広島県診療放射線技師会 令和2年度第2回研修会	山口裕之	新型コロナウイルス感染症の撮影を経験して	友安美沙	2020年9月27日 広島大学病院	広島県診療放射線技師会
第44回安芸RI倶楽部勉強会	高畑 明	冠攣縮性狭心症（VSA）の診断と治療について	寺川宏樹	2021年1月29日 Web	安芸RI倶楽部

緩和ケア科緩和ケアチーム

研究会名	座長者名	講演タイトル	講演者	開催日・開催場所	主催・共催・後援団体・会社
シームレスな在宅がん診療を考える会	磯貝明彦	在宅がん診療の現状について	酒井 亮	2021年3月9日 広島県廿日市市	第一三共株式会社

地域活動

小児科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
廿日市市保育士講習会（食物アレルギー）	辻 徹郎	保育士	2020年10月14日 廿日市市	廿日市市	60人

麻酔科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
講演	中尾正和	看護師	2020年11月4日 広島市	広島県看護協会	

看護科

活動内容	活動者	対象者	開催日・開催場所	主催者	参加人数
「医療安全」講師	村中好美	佐伯区医師会 会員病院職員	2020年5月16日 佐伯区地域福祉セン ター	佐伯区医師会	60人程度
地域医療従事者研修会講師	村中好美	地域医療従事 者	2020年5月23日 JA 広島総合病院 大会 議室	JA 広島総合病院 地域医療連携室	20人程度
「医療安全」講師	村中好美	病院職員	2020年7月4日 広島グリーンヒル病院	広島グリーンヒル病院	60人程度
「医療安全」講師	村中好美	病院職員	2020年10月10日 大野浦病院	大野浦病院	80人程度
「医療安全」講師	村中好美	佐伯区医師会 会員病院職員	2020年11月21日 佐伯区地域福祉セン ター	佐伯区医師会	50人程度
「医療安全」講師	村中好美	病院職員	2020年3月18日 五日市記念病院	五日市記念病院	20人程度
広島県看護協会 講義「運動器疾患の理解とケア」	馬場崎喜美子	広島県看護協 会会員	2020年8月24日 広島県看護協会	広島県看護協会	30人程度
山陽看護専門学校 講義「看護管理学」	馬場崎喜美子	学生	2020年9月、10月 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人程度
山陽看護専門学校 講義「医療安全」	村中好美	学生	2020年8月20～21日 山陽看護専門学校	山陽看護専門学校	40人程度

雑誌投稿・テレビ・ラジオへの出演

心臓外科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
濱本正樹	急性大動脈解離の発症予防	中国新聞デジタル	広島県医師会	2021年3月20日

健康管理課

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
南浦美樹	骨密度を知りましょう	こいぶみ	JA 広島市	2020年4月号
南浦美樹	骨密度を知りましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年4月号
南浦美樹	骨粗鬆症予防の食事・運動	こいぶみ	JA 広島市	2020年5月号
南浦美樹	骨粗鬆症予防の食事・運動	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年5月号
林 彩	食中毒	こいぶみ	JA 広島市	2020年6月号
林 彩	食中毒	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年6月号
長田恵美子	熱中症を予防しよう	こいぶみ	JA 広島市	2020年7月号
長田恵美子	熱中症を予防しよう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年7月号
関 江里	紫外線対策をしましょう	こいぶみ	JA 広島市	2020年8月号
関 江里	紫外線対策をしましょう	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年8月号
秋元深雪	日曜日の乳がん検診のお知らせ	こいぶみ	JA 広島市	2020年9月号
秋元深雪	日曜日の乳がん検診のお知らせ	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年9月号
関 江里	目の健康～ドライアイ対策～	こいぶみ	JA 広島市	2020年10月号
関 江里	目の健康～ドライアイ対策～	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年10月号
長田恵美子	再確認しよう 咳エチケット	こいぶみ	JA 広島市	2020年11月号
長田恵美子	再確認しよう 咳エチケット	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年11月号
秋元深雪	睡眠について悩んでいませんか	こいぶみ	JA 広島市	2020年12月号
秋元深雪	睡眠について悩んでいませんか	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2020年12月号
南浦美樹	ノロウイルスについて	こいぶみ	JA 広島市	2021年1月号
南浦美樹	ノロウイルスについて	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年1月号
関 江里	冬の皮膚トラブル～かゆみ・やけど～	こいぶみ	JA 広島市	2021年2月号
関 江里	冬の皮膚トラブル～かゆみ・やけど～	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年2月号
長田恵美子	ウォーキングのすすめ	こいぶみ	JA 広島市	2021年3月号
長田恵美子	ウォーキングのすすめ	さいきちゅうおう	JA 佐伯中央	2021年3月号

看護科

提供者	テーマ・タイトル	出演、掲載物名	依頼社名	放送、掲載日
馬場崎喜美子 久保知子 山村健二	チーム医療による新たな手術運営方法の確立 組織を巻き込んだ3ヶ年計画の取り組みを通して	看護 2021年6月臨時増刊号	(株)日本看護協会出版会	2021年6月1日

合同カンファレンス

糖尿病・代謝内科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
第36回広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会	石田和史	広島県西部地区糖尿病診療に関わる医師・コメディカル（56名）	2020年8月19日 廿日市市商工保健会館 （広島県廿日市市）	広島県西部地区糖尿病医療連携を進める会・広島県医師会糖尿病対策推進会議・キッセイ薬品工業

放射線治療科

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
広島県がん診療従事者対象緩和ケア研修会	田崎達也 伊東 淳	医療者	2020年7月5日 当院	なし

健康管理課

カンファレンス名	代表者	対象者	開催日・開催場所	共催・後援会社
廿日市市健診判定委員会	碓井裕史	佐伯地区医師会医師 当院健康管理課	2020年10月19日 2020年12月8日 JA広島総合病院	

ゴルフ部（伯友会）

■活動報告

伯友会は昭和45年に活動を開始しています。大変歴史の長いゴルフ同好会です。年に3回の定期コンペと前夜の親睦会と翌日のコンペを行う1泊2日の地御前オープンが年間定例活動です。ゴルフを通して親睦を図ると共に、地域の医師会、歯科医師や薬剤師ともゴルフコンペを通じて交流を図り病診連携に貢献しています。

■2020年度の活動

第178回伯友会コンペ

9月6日 広島西カントリークラブ 17名参加

優勝 川上恭司（OB、アマノリハ）

準優勝 兼見良典（OB、明海耳鼻科）

3位 小深田義勝（泌尿器科）

4位 碓井裕史（健康管理課）

5位 中光篤志（外科）

第179回伯友会コンペ

3月20日 広島西カントリークラブ 17名参加

優勝 高野正義（Op室看護部）

準優勝 竹村秀和（日本新薬）

3位 小村智子（OB）

4位 川上恭司（OB、アマノリハ）

5位 正畠忠貴（地域医療連携室）

地御前オープン

新型コロナウイルス感染のため中止

2020年度は中国 武漢から始まった新型コロナウイルス感染のため、活動が大いに制限されました。来年度は感染が終息し、元のようなクラブ活動ができるよう願っています。

文責：西原礼介

（画像診断部 2021年度9月より担当）

※華道部、野球部、テニス部、サッカー部、フットサル部、
バスケットボール部につきましては、新型コロナウイルス
感染症の対応として2020年度は活動を自粛いたしました。

■ Annual Report 2020 2020年(令和2年)度 年報 ■

資 料

診療科別外来患者数

2020 年度 月別外来患者数 (4～7月)

科 別	4月(診療日数 21日)				5月(診療日数 18日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,214	643	5,857	278.9	4,310	497	4,807	267.1
(呼吸器内科)	722	124	846	40.3	645	62	707	39.3
(循環器内科)	860	122	982	46.8	665	110	775	43.1
(腎臓内科)	618	40	658	31.3	546	27	573	31.8
(糖尿病内科)	1,385	90	1,475	70.2	1,120	70	1,190	66.1
(消化器内科)	1,500	218	1,718	81.8	1,244	202	1,446	80.3
(神経内科)	69	10	79	3.8	42	3	45	2.5
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	9	5	14	0.7	16	1	17	0.9
(総合診療科)	51	34	85	4.0	32	22	54	3.0
精 神 科	17	6	23	1.1	13	4	17	0.9
小 児 科	583	82	665	31.7	424	50	474	26.3
外 科	1,253	74	1,327	63.2	1,007	75	1,082	60.1
乳 腺 外 科	469	21	490	23.3	414	17	431	23.9
整 形 外 科	918	150	1,068	50.9	811	138	949	52.7
形 成 外 科	250	20	270	12.9	226	26	252	14.0
脳 神 経 外 科	984	122	1,106	52.7	766	118	884	49.1
呼 吸 器 外 科	251	48	299	14.2	236	31	267	14.8
心 臓 外 科	406	28	434	20.7	376	28	404	22.4
皮 膚 科	635	116	751	35.8	471	97	568	31.6
泌 尿 器 科	1,833	72	1,905	90.7	1,600	68	1,668	92.7
産 婦 人 科	855	97	952	45.3	816	77	893	49.6
眼 科	738	36	774	36.9	651	29	680	37.8
耳 鼻 科	544	149	693	33.0	365	88	453	25.2
治 療 科	731	17	748	35.6	600	23	623	34.6
麻 酔 科	44	291	335	16.0	44	224	268	14.9
救急・集中治療科	37	183	220	10.5	44	205	249	13.8
画 像 診 断 部	21	60	81	3.9	14	32	46	2.6
歯 口 腔 外 科	452	120	572	27.2	232	74	306	17.0
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
計	16,235	2,335	18,570	884.3	13,420	1,901	15,321	851.2
栗 谷 診 療 所	47	2	49	2.3	50	0	50	2.8
合 計	16,282	2,337	18,619	887	13,470	1,901	15,371	854

科 別	6月(診療日数 22日)				7月(診療日数 21日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内 科	5,277	694	5,971	271.4	5,568	686	6,254	297.8
(呼吸器内科)	704	100	804	36.5	724	100	824	39.2
(循環器内科)	878	140	1,018	46.3	1,090	150	1,240	59.0
(腎臓内科)	640	56	696	31.6	664	42	706	33.6
(糖尿病内科)	1,285	96	1,381	62.8	1,325	94	1,419	67.6
(消化器内科)	1,605	244	1,849	84.0	1,621	245	1,866	88.9
(神経内科)	91	5	96	4.4	64	9	73	3.5
(緩和ケア科)	1	0	1	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	15	9	24	1.1	16	1	17	0.8
(総合診療科)	58	44	102	4.6	64	45	109	5.2
精 神 科	19	12	31	1.4	18	12	30	1.4
小 児 科	552	81	633	28.8	614	63	677	32.2
外 科	1,264	94	1,358	61.7	1,242	103	1,345	64.0
乳 腺 外 科	535	31	566	25.7	411	91	502	23.9
整 形 外 科	883	252	1,135	51.6	1,128	192	1,320	62.9
形 成 外 科	219	26	245	11.1	245	28	273	13.0
脳 神 経 外 科	1,007	123	1,130	51.4	862	126	988	47.0
呼 吸 器 外 科	294	33	327	14.9	273	40	313	14.9
心 臓 外 科	484	31	515	23.4	469	28	497	23.7
皮 膚 科	566	149	715	32.5	714	172	886	42.2
泌 尿 器 科	2,027	88	2,115	96.1	1,903	190	2,093	99.7
産 婦 人 科	1,024	94	1,118	50.8	1,043	107	1,150	54.8
眼 科	809	43	852	38.7	762	49	811	38.6
耳 鼻 科	488	146	634	28.8	542	167	709	33.8
治 療 科	703	19	722	32.8	672	29	701	33.4
麻 酔 科	50	292	342	15.5	55	320	375	17.9
救急・集中治療科	38	151	189	8.6	52	203	255	12.1
画 像 診 断 部	18	65	83	3.8	24	50	74	3.5
歯 口 腔 外 科	462	131	593	27.0	521	154	675	32.1
遺 伝 子 診 療 部	0	1	1	0.0	0	2	2	0.1
計	16,719	2,556	19,275	876.1	17,118	2,812	19,930	949.0
栗 谷 診 療 所	40	2	42	1.9	44	2	46	2.2
合 計	16,759	2,558	19,317	878	17,162	2,814	19,976	951

2020年度 月別外来患者数 (8~11月)

科 別	8月(診療日数20日)				9月(診療日数20日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,086	608	5,694	284.7	5,361	670	6,031	301.6
(呼吸器内科)	710	70	780	39.0	706	101	807	40.4
(循環器内科)	958	132	1,090	54.5	999	142	1,141	57.1
(腎臓内科)	630	36	666	33.3	625	45	670	33.5
(糖尿病内科)	1,293	81	1,374	68.7	1,296	75	1,371	68.6
(消化器内科)	1,345	235	1,580	79.0	1,588	250	1,838	91.9
(神経内科)	76	9	85	4.3	68	8	76	3.8
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	13	8	21	1.1	19	9	28	1.4
(総合診療科)	61	37	98	4.9	60	40	100	5.0
精神科	22	7	29	1.5	15	8	23	1.2
小児科	751	53	804	40.2	573	81	654	32.7
外科	1,256	82	1,338	66.9	1,272	119	1,391	69.6
乳腺外科	418	38	456	22.8	415	53	468	23.4
整形外科	1,011	165	1,176	58.8	1,024	154	1,178	58.9
形成外科	239	28	267	13.4	258	28	286	14.3
脳神経外科	916	123	1,039	52.0	978	133	1,111	55.6
呼吸器外科	275	67	342	17.1	302	34	336	16.8
心臓外科	375	22	397	19.9	502	34	536	26.8
皮膚科	657	143	800	40.0	630	145	775	38.8
泌尿器科	1,769	104	1,873	93.7	1,937	108	2,045	102.3
産婦人科	980	101	1,081	54.1	1,069	97	1,166	58.3
眼科	761	53	814	40.7	807	59	866	43.3
耳鼻科	475	133	608	30.4	528	173	701	35.1
治療科	593	23	616	30.8	500	21	521	26.1
麻酔科	64	274	338	16.9	49	264	313	15.7
救急・集中治療科	66	221	287	14.4	53	184	237	11.9
画像診断部	21	50	71	3.6	21	52	73	3.7
歯口腔外科	440	126	566	28.3	481	133	614	30.7
遺伝子診療部	1	0	1	0.1	1	0	1	0.1
計	16,176	2,421	18,597	929.9	16,776	2,550	19,326	966.3
栗谷診療所	40	1	41	2.1	35	2	37	1.9
合計	16,216	2,422	18,638	932	16,811	2,552	19,363	968

科 別	10月(診療日数22日)				11月(診療日数19日)			
	旧患	新患	計	1日当	旧患	新患	計	1日当
内科	5,936	788	6,724	305.6	5,112	679	5,791	304.8
(呼吸器内科)	757	101	858	39.0	672	78	750	39.5
(循環器内科)	1,161	185	1,346	61.2	1,011	139	1,150	60.5
(腎臓内科)	707	47	754	34.3	561	36	597	31.4
(糖尿病内科)	1,412	96	1,508	68.5	1,238	105	1,343	70.7
(消化器内科)	1,712	276	1,988	90.4	1,484	271	1,755	92.4
(神経内科)	80	31	111	5.0	76	18	94	4.9
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	1	0	1	0.1
(血液内科)	25	13	38	1.7	15	6	21	1.1
(総合診療科)	82	39	121	5.5	54	26	80	4.2
精神科	16	8	24	1.1	15	9	24	1.3
小児科	656	72	728	33.1	632	67	699	36.8
外科	1,280	81	1,361	61.9	1,086	81	1,167	61.4
乳腺外科	512	54	566	25.7	451	38	489	25.7
整形外科	1,172	215	1,387	63.0	1,120	189	1,309	68.9
形成外科	232	28	260	11.8	198	17	215	11.3
脳神経外科	1,009	145	1,154	52.5	867	131	998	52.5
呼吸器外科	307	26	333	15.1	281	32	313	16.5
心臓外科	557	21	578	26.3	407	24	431	22.7
皮膚科	773	157	930	42.3	710	144	854	44.9
泌尿器科	1,991	119	2,110	95.9	1,724	102	1,826	96.1
産婦人科	1,123	110	1,233	56.0	1,026	89	1,115	58.7
眼科	785	50	835	38.0	687	48	735	38.7
耳鼻科	562	191	753	34.2	426	136	562	29.6
治療科	541	23	564	25.6	736	25	761	40.1
麻酔科	50	310	360	16.4	47	290	337	17.7
救急・集中治療科	48	152	200	9.1	47	194	241	12.7
画像診断部	24	62	86	3.9	23	41	64	3.4
歯口腔外科	525	143	668	30.4	454	144	598	31.5
遺伝子診療部	1	0	1	0.0	1	0	1	0.1
計	18,100	2,755	20,855	948.0	16,050	2,480	18,530	975.3
栗谷診療所	42	1	43	2.0	37	1	38	2.0
合計	18,142	2,756	20,898	950	16,087	2,481	18,568	977

2020 年度 月別外来患者数 (12～3月)

科 別	12 月 (診療日数 21 日)				1 月 (診療日数 19 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	5,526	692	6,218	296.1	5,096	711	5,807	305.6
（呼吸器内科）	736	99	835	39.8	729	150	879	46.3
（循環器内科）	1,008	158	1,166	55.5	963	144	1,107	58.3
（腎臓内科）	653	36	689	32.8	589	33	622	32.7
（糖尿病内科）	1,384	95	1,479	70.4	1,308	98	1,406	74.0
（消化器内科）	1,594	260	1,854	88.3	1,390	249	1,639	86.3
（神経内科）	93	13	106	5.0	66	7	73	3.8
（緩和ケア科）	2	0	2	0.1	0	0	0	0.0
（血液内科）	11	6	17	0.8	9	7	16	0.8
（総合診療科）	45	25	70	3.3	42	23	65	3.4
精 神 科	23	8	31	1.5	18	6	24	1.3
小 児 科	662	86	748	35.6	483	75	558	29.4
外 科	1,263	75	1,338	63.7	1,217	88	1,305	68.7
乳 腺 外 科	475	44	519	24.7	471	33	504	26.5
整 形 外 科	1,160	167	1,327	63.2	988	149	1,137	59.8
形 成 外 科	259	27	286	13.6	191	27	218	11.5
脳 神 経 外 科	1,045	125	1,170	55.7	811	115	926	48.7
呼 吸 器 外 科	312	75	387	18.4	229	106	335	17.6
心 臓 外 科	476	26	502	23.9	429	38	467	24.6
皮 膚 科	688	111	799	38.0	667	101	768	40.4
泌 尿 器 科	2,074	112	2,186	104.1	1,790	97	1,887	99.3
産 婦 人 科	1,023	170	1,193	56.8	988	101	1,089	57.3
眼 科	759	41	800	38.1	651	43	694	36.5
耳 鼻 科	501	140	641	30.5	422	115	537	28.3
治 療 科	775	23	798	38.0	491	20	511	26.9
麻 酔 科	39	295	334	15.9	36	270	306	16.1
救急・集中治療科	58	193	251	12.0	52	200	252	13.3
画 像 診 断 部	15	49	64	3.0	10	46	56	2.9
歯 口 腔 外 科	523	153	676	32.2	412	154	566	29.8
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
計	17,656	2,612	20,268	965.1	15,452	2,495	17,947	944.6
栗 谷 診 療 所	41	11	52	2.5	39	0	39	2.1
合 計	17,697	2,623	20,320	968	15,491	2,495	17,986	947

科 別	2 月 (診療日数 18 日)				3 月 (診療日数 23 日)			
	旧患	新患	計	1 日当	旧患	新患	計	1 日当
内 科	4,934	757	5,691	316.2	6,092	869	6,961	302.7
（呼吸器内科）	694	97	791	43.9	877	99	976	42.4
（循環器内科）	874	250	1,124	62.4	1,071	207	1,278	55.6
（腎臓内科）	581	38	619	34.4	752	49	801	34.8
（糖尿病内科）	1,199	75	1,274	70.8	1,479	102	1,581	68.7
（消化器内科）	1,451	249	1,700	94.4	1,707	336	2,043	88.8
（神経内科）	69	10	79	4.4	86	12	98	4.3
（緩和ケア科）	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
（血液内科）	7	7	14	0.8	20	8	28	1.2
（総合診療科）	59	31	90	5.0	100	56	156	6.8
精 神 科	11	5	16	0.9	8	6	14	0.6
小 児 科	526	48	574	31.9	867	77	944	41.0
外 科	1,191	80	1,271	70.6	1,412	83	1,495	65.0
乳 腺 外 科	374	108	482	26.8	565	39	604	26.3
整 形 外 科	946	163	1,109	61.6	1,162	184	1,346	58.5
形 成 外 科	234	30	264	14.7	276	40	316	13.7
脳 神 経 外 科	816	121	937	52.1	1,046	122	1,168	50.8
呼 吸 器 外 科	219	27	246	13.7	361	35	396	17.2
心 臓 外 科	382	28	410	22.8	571	33	604	26.3
皮 膚 科	543	100	643	35.7	675	156	831	36.1
泌 尿 器 科	1,703	97	1,800	100.0	2,171	120	2,291	99.6
産 婦 人 科	989	89	1,078	59.9	1,090	115	1,205	52.4
眼 科	703	54	757	42.1	779	55	834	36.3
耳 鼻 科	416	125	541	30.1	593	190	783	34.0
治 療 科	627	16	643	35.7	751	47	798	34.7
麻 酔 科	32	270	302	16.8	39	354	393	17.1
救急・集中治療科	56	200	256	14.2	55	184	239	10.4
画 像 診 断 部	27	49	76	4.2	11	74	85	3.7
歯 口 腔 外 科	479	133	612	34.0	575	168	743	32.3
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
計	15,208	2,500	17,708	983.8	19,099	2,951	22,050	958.7
栗 谷 診 療 所	41	3	44	2.4	40	1	41	1.8
合 計	15,249	2,503	17,752	986	19,139	2,952	22,091	960

診療科別入院患者数

2020年度 月別入院患者数 (4～7月)

科 別	4月(診療日数 30日)				5月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	265	334	3,788	126.3	216	263	3,363	108.5
(呼吸器内科)	41	56	1,169	39.0	35	57	1,009	32.5
(循環器内科)	51	75	661	22.0	49	51	641	20.7
(腎臓内科)	24	38	469	15.6	20	24	546	17.6
(糖尿病内科)	12	12	226	7.5	5	6	119	3.8
(消化器内科)	136	150	1,219	40.6	104	124	1,009	32.5
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	1	3	44	1.5	3	1	39	1.3
精神科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小児科	27	27	158	5.3	30	29	195	6.3
外科	90	104	1,188	39.6	97	95	1,240	40.0
乳腺外科	21	20	107	3.6	16	15	149	4.8
整形外科	98	113	1,439	48.0	77	105	1,198	38.6
形成外科	9	7	129	4.3	1	4	74	2.4
脳神経外科	31	50	936	31.2	30	46	800	25.8
呼吸器外科	25	24	380	12.7	24	31	400	12.9
心臓外科	32	37	694	23.1	21	30	594	19.2
皮膚科	15	23	166	5.5	5	4	54	1.7
泌尿器科	85	82	527	17.6	77	87	706	22.8
産婦人科	75	80	575	19.2	71	71	471	15.2
眼科	35	40	156	5.2	24	24	112	3.6
耳鼻科	33	47	403	13.4	24	25	232	7.5
治療科	0	3	94	3.1	3	2	92	3.0
麻酔科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	138	45	320	10.7	148	39	273	8.8
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯口腔外科	5	7	53	1.8	5	3	44	1.4
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	984	1,043	11,113	370.4	869	873	9,997	322.5

科 別	6月(診療日数 30日)				7月(診療日数 31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	245	282	3,551	118.4	295	346	3,875	125.0
(呼吸器内科)	43	48	938	31.3	38	54	1,085	35.0
(循環器内科)	54	63	680	22.7	84	96	905	29.2
(腎臓内科)	18	26	533	17.8	21	29	487	15.7
(糖尿病内科)	7	8	119	4.0	11	10	125	4.0
(消化器内科)	122	135	1,254	41.8	139	154	1,253	40.4
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	1	2	27	0.9	2	3	20	0.6
精神科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小児科	23	23	145	4.8	32	30	192	6.2
外科	103	116	1,354	45.1	110	123	1,400	45.2
乳腺外科	18	17	112	3.7	16	21	122	3.9
整形外科	88	90	1,129	37.6	99	105	1,374	44.3
形成外科	6	5	43	1.4	6	8	20	0.6
脳神経外科	32	39	771	25.7	32	47	890	28.7
呼吸器外科	26	24	435	14.5	26	26	408	13.2
心臓外科	36	35	553	18.4	44	45	899	29.0
皮膚科	5	5	119	4.0	14	14	199	6.4
泌尿器科	82	84	648	21.6	76	91	808	26.1
産婦人科	78	77	508	16.9	74	72	605	19.5
眼科	40	38	114	3.8	40	40	118	3.8
耳鼻科	33	29	223	7.4	35	33	335	10.8
治療科	2	5	76	2.5	5	4	79	2.5
麻酔科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	139	37	291	9.7	162	49	285	9.2
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯口腔外科	9	9	88	2.9	13	13	85	2.7
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	965	915	10,160	338.7	1,079	1,067	11,694	377.2

2020 年度 月別入院患者数 (8～11月)

科 別	8月(診療日数 31日)				9月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	261	314	3,857	124.4	236	325	3,668	122.3
(呼吸器内科)	40	61	1,050	33.9	36	57	820	27.3
(循環器内科)	76	85	784	25.3	51	70	607	20.2
(腎臓内科)	20	29	520	16.8	22	30	594	19.8
(糖尿病内科)	12	16	247	8.0	12	12	175	5.8
(消化器内科)	111	121	1,181	38.1	110	152	1,379	46.0
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	2	2	75	2.4	5	4	93	3.1
精神科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小児科	35	34	164	5.3	20	20	110	3.7
外科	122	133	1,460	47.1	107	114	1,428	47.6
乳腺外科	15	14	60	1.9	14	10	60	2.0
整形外科	85	100	1,375	44.4	69	83	1,039	34.6
形成外科	4	2	42	1.4	4	5	80	2.7
脳神経外科	29	40	874	28.2	30	36	975	32.5
呼吸器外科	20	22	402	13.0	28	35	353	11.8
心臓外科	35	34	734	23.7	33	45	645	21.5
皮膚科	14	18	193	6.2	10	12	168	5.6
泌尿器科	86	103	713	23.0	80	83	634	21.1
産婦人科	94	89	742	23.9	68	75	650	21.7
眼科	31	32	122	3.9	37	36	94	3.1
耳鼻科	31	38	344	11.1	37	31	287	9.6
治療科	5	4	94	3.0	2	2	82	2.7
麻酔科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	173	57	399	12.9	163	53	256	8.5
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯口腔外科	5	4	51	1.6	10	10	94	3.1
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,045	1,038	11,626	375.0	948	975	10,623	354.1

科 別	10月(診療日数 31日)				11月(診療日数 30日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	294	357	3,594	115.9	283	308	3,544	118.1
(呼吸器内科)	42	61	892	28.8	55	63	1,045	34.8
(循環器内科)	68	77	641	20.7	74	70	711	23.7
(腎臓内科)	19	31	400	12.9	12	17	264	8.8
(糖尿病内科)	11	11	172	5.5	9	16	160	5.3
(消化器内科)	151	170	1,417	45.7	129	138	1,295	43.2
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	3	7	72	2.3	4	4	69	2.3
精神科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小児科	38	38	159	5.1	32	31	216	7.2
外科	110	123	1,499	48.4	103	102	1,407	46.9
乳腺外科	16	17	164	5.3	21	22	203	6.8
整形外科	101	106	1,279	41.3	98	101	1,360	45.3
形成外科	8	7	49	1.6	4	3	89	3.0
脳神経外科	31	50	903	29.1	32	44	899	30.0
呼吸器外科	27	29	375	12.1	31	30	383	12.8
心臓外科	30	32	655	21.1	39	37	660	22.0
皮膚科	18	16	206	6.6	16	16	212	7.1
泌尿器科	94	101	690	22.3	81	83	642	21.4
産婦人科	78	83	579	18.7	86	83	542	18.1
眼科	38	41	134	4.3	26	24	74	2.5
耳鼻科	39	42	410	13.2	30	35	286	9.5
治療科	0	1	43	1.4	2	1	58	1.9
麻酔科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	146	50	293	9.5	152	43	332	11.1
画像診断部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯口腔外科	9	12	64	2.1	6	5	28	0.9
遺伝子診療部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,077	1,105	11,096	357.9	1,042	968	10,935	364.5

2020年度 月別入院患者数 (12～3月)

科 別	12月(診療日数31日)				1月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	289	392	4,157	134.1	261	285	3,797	122.5
(呼吸器内科)	72	91	1,190	38.4	50	61	1,000	32.3
(循環器内科)	71	94	931	30.0	61	72	961	31.0
(腎臓内科)	16	23	357	11.5	26	28	395	12.7
(糖尿病内科)	13	13	258	8.3	10	8	233	7.5
(消化器内科)	115	166	1,389	44.8	111	115	1,172	37.8
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	2	5	32	1.0	3	1	36	1.2
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	35	36	201	6.5	28	30	167	5.4
外 科	94	122	1,421	45.8	91	89	1,376	44.4
乳 腺 外 科	25	31	209	6.7	20	20	154	5.0
整 形 外 科	101	132	1,339	43.2	106	100	1,395	45.0
形 成 外 科	5	9	69	2.2	0	0	31	1.0
脳 神 経 外 科	40	49	863	27.8	27	34	797	25.7
呼 吸 器 外 科	23	28	393	12.7	21	22	361	11.6
心 臓 外 科	34	51	572	18.5	37	35	536	17.3
皮 膚 科	14	23	210	6.8	13	13	187	6.0
泌 尿 器 科	82	102	637	20.5	81	79	644	20.8
産 婦 人 科	85	95	598	19.3	78	73	552	17.8
眼 科	28	30	112	3.6	26	26	84	2.7
耳 鼻 科	32	33	315	10.2	23	25	341	11.0
治 療 科	1	3	22	0.7	2	1	32	1.0
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	152	51	369	11.9	167	52	401	12.9
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	7	6	78	2.5	9	6	66	2.1
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	1,047	1,193	11,565	373.1	990	890	10,921	352.3

科 別	2月(診療日数28日)				3月(診療日数31日)			
	入院	退院	計	1日当	入院	退院	計	1日当
内 科	230	281	3,510	125.4	282	323	3,865	124.7
(呼吸器内科)	28	37	657	23.5	52	63	818	26.4
(循環器内科)	63	75	810	28.9	80	80	842	27.2
(腎臓内科)	17	22	313	11.2	20	20	497	16.0
(糖尿病内科)	6	10	175	6.3	8	12	151	4.9
(消化器内科)	115	133	1,494	53.4	121	147	1,541	49.7
(神経内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(緩和ケア科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(血液内科)	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
(総合診療科)	1	4	61	2.2	1	1	16	0.5
精 神 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
小 児 科	22	26	104	3.7	44	41	190	6.1
外 科	85	100	1,304	46.6	97	101	1,406	45.4
乳 腺 外 科	21	19	181	6.5	25	21	192	6.2
整 形 外 科	85	105	1,297	46.3	91	100	1,356	43.7
形 成 外 科	5	4	36	1.3	4	5	51	1.6
脳 神 経 外 科	28	38	813	29.0	34	38	923	29.8
呼 吸 器 外 科	25	27	364	13.0	43	43	480	15.5
心 臓 外 科	41	38	545	19.5	42	43	695	22.4
皮 膚 科	6	9	119	4.3	12	8	188	6.1
泌 尿 器 科	79	88	677	24.2	85	86	837	27.0
産 婦 人 科	66	70	490	17.5	88	86	659	21.3
眼 科	27	27	83	3.0	21	21	83	2.7
耳 鼻 科	23	30	179	6.4	43	38	270	8.7
治 療 科	1	2	31	1.1	2	2	37	1.2
麻 酔 科	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
救急・集中治療科	145	59	417	14.9	157	47	486	15.7
画 像 診 断 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
歯 口 腔 外 科	7	9	82	2.9	10	12	88	2.8
遺 伝 子 診 療 部	0	0	0	0.0	0	0	0	0.0
合 計	896	932	10,232	365.4	1,080	1,015	11,806	380.8

平均在院日数

2020年度 月別 診療科別 平均在院日数

(単位: 日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内 科		15.0	16.6	17.3	14.0	15.2	15.0	13.5	14.0	14.1	16.6	16.0	14.5
小 児 科		4.0	6.1	4.4	5.1	5.6	5.0	6.5	5.1	5.1	6.4	5.4	4.9
外 科		16.5	14.0	18.7	17.6	14.9	13.8	14.8	16.0	16.3	15.6	15.1	17.7
整 形 外 科		14.7	14.6	12.6	12.9	13.0	14.5	13.5	14.8	13.0	14.4	16.5	14.3
形 成 外 科		12.0	7.9	7.2	5.6	5.5	6.2	12.2	18.8	7.3	10.0	6.3	10.7
乳 腺 外 科		4.8	7.3	5.8	7.0	14.2	6.0	5.8	7.2	5.9	6.1	8.7	7.6
脳 神 経 外 科		24.3	23.2	24.0	24.7	19.0	25.1	17.0	20.7	21.4	28.9	18.4	22.7
呼 吸 器 外 科		17.0	18.8	23.8	16.0	16.4	15.9	19.8	15.1	18.8	23.7	18.7	15.7
心 臓 血 管 外 科		32.6	23.9	32.8	45.7	26.1	26.6	23.8	24.2	16.4	17.9	16.6	13.7
皮 膚 科		13.1	9.0	13.7	6.1	9.5	9.0	10.5	8.3	8.3	7.8	16.0	22.2
泌 尿 器 科		11.3	12.4	10.6	11.2	12.0	13.8	11.3	12.0	11.1	12.5	10.8	9.2
産 婦 人 科		9.8	8.4	7.7	8.0	7.8	8.2	9.5	9.6	10.1	10.4	9.2	8.7
眼 科		4.6	5.3	7.5	8.7	5.1	4.9	5.9	3.0	8.0	6.3	4.6	7.1
耳 鼻 咽 喉 科		8.8	11.7	9.9	11.2	12.8	10.2	9.1	8.3	11.2	10.9	8.6	9.8
放 射 線 治 療 科		80.0	36.8	21.7	21.7	18.8	26.0	24.0	14.0		50.0	24.0	19.3
歯 科 口 腔 外 科		8.8	11.0	9.8	6.5	14.3	9.4	6.1	5.1	12.0	8.8	10.3	8.0
緩 和 ケ ア 科													
総 合 診 療 科		22.0	19.5	18.0	8.0	37.5	20.7	14.4	17.3	9.1	18.0	24.4	16.0
救 急 科 ・ 麻 酔 科		3.6	3.0	3.1	2.7	3.2	2.4	3.0	3.4	3.6	3.7	4.1	4.6
計		12.3	12.6	12.4	12.3	12.4	12.3	11.3	11.9	11.4	13.0	12.4	12.1

2020年度 月別 病棟別 平均在院日数

(単位: 日数)

科別	月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
西 病 棟	3 F	13.2	14.8	12.2	11.9	11.9	12.1	12.3	12.9	12.7	15.7	11.6	13.0
	4 F	6.7	8.9	6.3	5.4	6.6	7.4	7.0	7.7	7.2	7.4	7.0	7.6
	5 F	15.9	15.3	15.4	15.3	20.7	21.9	14.3	17.7	14.8	17.5	16.7	16.2
	6 F	9.9	11.5	11.0	11.8	8.6	6.3	5.5	6.0	0.5	16.9	0.0	0.0
	7 F	17.0		13.7	14.1	17.3	13.9	12.5	13.4	14.7	15.9	13.3	13.9
	8 F	18.3	12.0	15.3	9.6	15.8	8.8	12.0	13.0	12.5	11.4	17.0	12.2
	救 命	7.5	7.5	6.7	7.9	7.5	8.5	6.9	6.8	6.7	7.5	7.6	7.5
東 病 棟	3 F	13.0	11.6	11.3	12.7	13.5	10.5	10.6	11.6	10.0	12.4	11.7	12.4
	4 F	11.8	13.3	13.5	12.6	11.9	12.6	12.7	12.2	14.5	13.8	14.9	14.8
	5 F	8.3	0.8	12.3	9.8	11.4	11.7	11.3	13.2	11.9	11.5	14.6	13.6
	6 F	16.6	15.9	16.8	18.1	18.2	14.8	11.4	8.6	6.9	10.2	12.5	1.0
	7 F	2.7	2.5	2.5	2.6	2.5	2.9	2.9	3.1	2.6	2.8	2.7	3.4
計		11.0	11.5	10.8	10.9	11.2	11.0	10.2	10.9	10.3	11.6	11.2	11.3

資
料

地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

2020 年度
地域医療支援病院紹介率（月別）

月別	紹介率
4月	91.6%
5月	100.6%
6月	99.8%
7月	93.8%
8月	98.4%
9月	95.4%
10月	94.1%
11月	95.3%
12月	91.9%
1月	94.5%
2月	96.7%
3月	94.5%
合 計	95.4%

2020 年度
地域医療支援病院逆紹介率（月別）

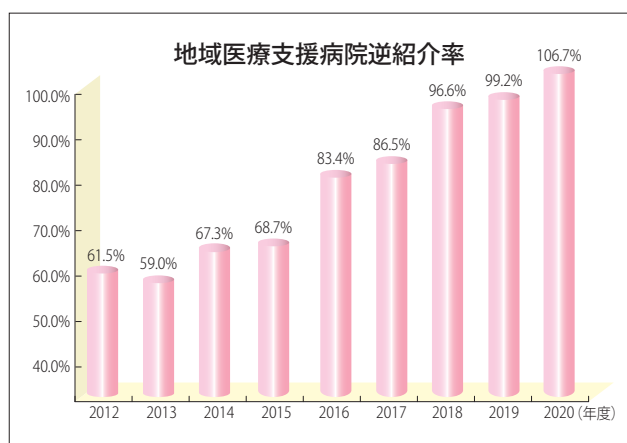
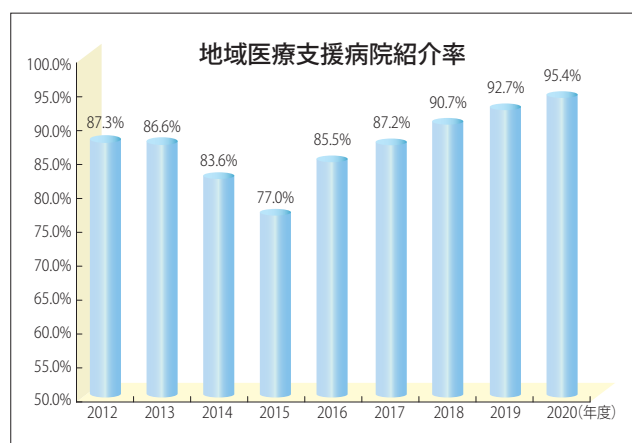
月別	逆紹介率
4月	117.9%
5月	117.8%
6月	102.3%
7月	102.2%
8月	109.9%
9月	105.0%
10月	98.7%
11月	102.9%
12月	109.8%
1月	112.1%
2月	112.7%
3月	99.2%
合 計	106.7%

2020 年度
地域医療支援病院紹介率（診療科別）

科 別	紹介率
総 合 診 療 科	85.59%
精 神・心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 内 科	81.7%
循 環 器 内 科	108.3%
腎 臓 内 科	90.1%
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	93.6%
消 化 器 内 科	101.1%
小 児 科	61.5%
外 科	114.9%
整 形 外 科	118.0%
形 成 外 科	93.0%
乳 腺 外 科	104.0%
脳 神 経 外 科	125.1%
呼 吸 器 外 科	53.8%
心 臓 血 管 外 科	26.3%
皮 膚 科	96.6%
泌 尿 器 科	92.0%
産 婦 人 科	92.2%
眼 科	112.2%
耳 鼻 咽 喉 科	98.9%
放 射 線 治 療 科	109.1%
麻 酔 科	34.6%
画 像 診 断 部	99.7%
歯 科 口 腔 外 科	52.3%
神 経 内 科	97.0%
緩 和 ケ ア 科	—
救 急・集 中 治 療 科	-506.4%
合 計	95.4%

2020 年度
地域医療支援病院逆紹介率（診療科別）

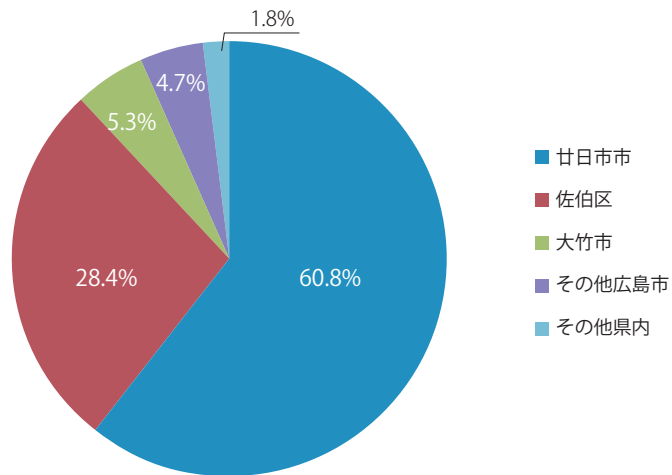
科 別	紹介率
総 合 診 療 科	70.3%
精 神・心 療 内 科	0.0%
呼 吸 器 内 科	121.5%
循 環 器 内 科	182.2%
腎 臓 内 科	254.1%
糖尿病代謝内科・糖尿病センター	398.4%
消 化 器 内 科	117.4%
小 児 科	21.4%
外 科	167.5%
整 形 外 科	104.4%
形 成 外 科	13.3%
乳 腺 外 科	219.4%
脳 神 経 外 科	219.9%
呼 吸 器 外 科	204.7%
心 臓 血 管 外 科	163.2%
皮 膚 科	35.1%
泌 尿 器 科	39.9%
産 婦 人 科	33.7%
眼 科	229.1%
耳 鼻 咽 喉 科	43.0%
放 射 線 治 療 科	109.1%
麻 酔 科	34.6%
画 像 診 断 部	130.8%
歯 科 口 腔 外 科	65.3%
神 経 内 科	200.0%
緩 和 ケ ア 科	—
救 急・集 中 治 療 科	-819.2%
合 計	106.7%



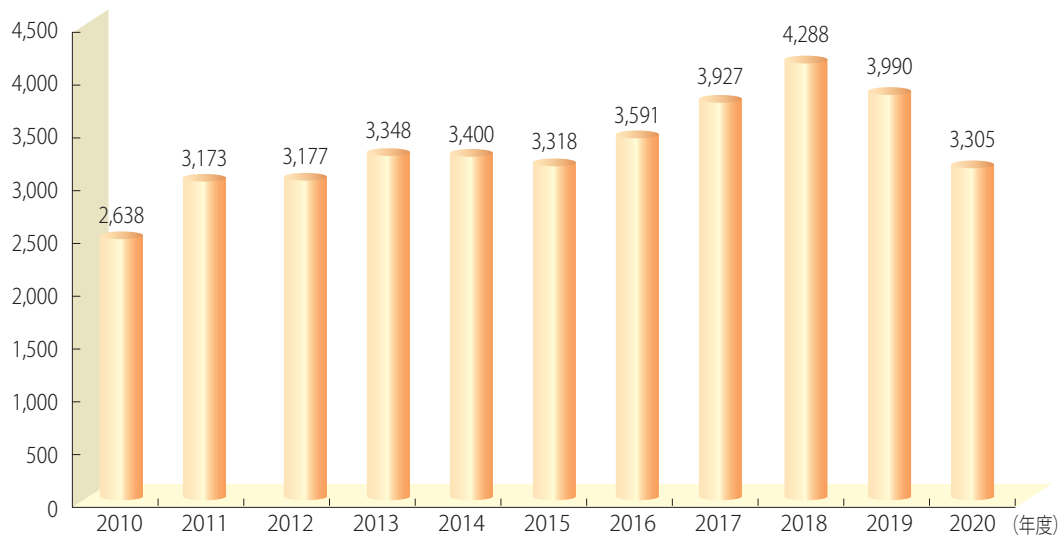
救急車来院件数

2020 年度
救急車来院件数（管轄別）

2020 年度	
廿 日 市 市	2,009
佐 伯 区	905
大 竹 市	176
そ の 他 広 島 市	155
そ の 他	60
合 計	3,305



救急車来院件数



資料

【その他業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
在宅療法指導	44	43	45	55	57	59	73	64	55	58	57	51	661
分娩	31	40	33	36	38	27	39	42	36	37	29	47	435
その他分娩	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腎尿管結石破碎	7	13	11	17	7	17	17	9	3	9	10	7	127
化学療法件数（外来）	419	377	404	417	421	410	425	374	409	449	438	554	5,097
化学療法件数（入院）	98	69	100	129	125	107	105	91	110	104	108	95	1,241
（超音波内訳）													
内科	214	209	271	247	222	243	273	218	242	218	209	239	2,805
小児科	24	26	21	36	42	24	37	36	29	32	27	32	366
精神科・心療内科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
外科	201	193	240	212	173	212	251	196	221	176	184	224	2,483
整形外科	14	13	18	23	19	15	13	19	21	13	12	13	193
脳神経外科	30	27	25	25	28	25	12	18	18	16	8	25	257
産婦人科	313	262	366	430	442	432	357	373	374	361	343	412	4,465
眼科	3	4	4	4	0	4	5	6	1	0	1	2	34
耳鼻咽喉科	61	57	83	86	73	97	128	64	85	60	80	121	995
皮膚科	1	1	2	3	0	0	3	0	1	3	5	3	22
泌尿器科	135	113	166	186	181	160	157	163	174	148	149	181	1,913
歯科口腔外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	343	0	343
救急科・麻酔科	83	117	101	120	117	81	90	86	102	105	94	124	1,220
放射線治療科	0	0	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0	4
画像診断部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
心臓血管外科	74	77	104	93	74	79	92	69	64	62	59	86	933
呼吸器外科	2	2	3	0	2	1	1	3	0	0	0	3	17
健康管理課	19	18	157	192	236	255	291	235	235	219	203	143	2,203
超音波診断計	1,174	1,119	1,561	1,658	1,611	1,628	1,710	1,487	1,567	1,413	1,717	1,608	18,253

【内視鏡業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
胃ファイバー検査 内科	195	152	236	221	194	198	211	207	204	171	197	209	2,395
胃ファイバー検査 ドック	51	18	203	182	203	233	261	201	222	179	182	128	2,063
気管支ファイバー検査	14	15	19	16	11	20	16	22	16	15	12	20	196
大腸ファイバー検査	109	84	117	123	100	107	130	114	129	107	113	132	1,365
上部止血（消化管止血術）	22	18	11	34	17	21	17	16	35	12	19	25	247
EVL（食道静脈瘤血紮術）	1	1	1	4	0	0	2	3	1	1	1	0	15
PEG（胃瘻造設術）	5	5	4	3	3	4	8	6	8	3	3	3	55
上部EMR（粘膜切除）、ESD	10	5	5	9	10	7	6	13	2	6	3	7	83
下部ポリペク（ポリプ切除）	30	19	43	29	32	43	43	37	33	21	20	29	379
下部EMR（粘膜切除）	59	48	63	60	35	47	71	54	52	51	52	49	641
ERCP（膵胆管造影）、ERBD	6	3	1	7	2	6	7	3	3	5	5	3	51
EST（乳頭切開術）	27	19	23	27	20	33	32	2	23	20	17	22	265

【リハビリテーション業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
消炎鎮痛等（器具）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
運動器リハビリテーション	768	542	623	766	716	536	759	737	766	626	747	839	8,425
脳血管疾患リハビリテーション	1,848	1,380	1,855	1,832	2,020	2,073	1,991	1,788	1,871	1,678	1,817	2,177	22,330
呼吸器リハビリテーション	556	450	527	578	527	446	521	455	528	425	385	507	5,905
疾患対象外	675	489	659	717	771	769	836	791	956	691	715	965	9,034
心大血管疾患リハビリテーション	512	344	423	595	579	528	643	581	623	527	491	638	6,484
A D L 加 算													0
早期リハ加算	2,185	1,556	1,960	2,292	2,257	5,912	2,080	2,025	2,067	1,849	2,091	2,488	28,762
リハビリテーション総合実施計画書	204	166	185	223	200	160	191	194	193	155	171	191	2,233
退院時リハ指導	91	85	66	91	67	55	82	73	84	58	50	78	880

【給食業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
常食	4,191	3,291	3,018	3,592	4,151	3,376	3,410	3,375	3,220	2,793	2,924	3,498	40,839
全粥	6,227	5,728	5,739	6,606	6,996	5,707	6,390	5,989	7,029	6,167	5,300	6,922	74,800
五分	67	60	62	78	152	58	195	56	76	59	33	34	930
三分	30	33	39	78	181	96	77	70	33	40	23	22	722
重湯	128	113	64	179	148	95	175	79	76	137	122	91	1,407
特別食	18,210	16,418	17,087	19,835	18,939	17,985	18,343	18,733	19,821	19,143	18,753	20,297	223,564
計	28,853	25,643	26,009	30,368	30,567	27,317	28,590	28,302	30,255	28,339	27,155	30,864	342,262

【栄養指導業務】	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
外来栄養指導	143	95	86	176	157	180	179	162	185	170	164	204	1,901
入院栄養指導	85	70	142	124	93	86	96	92	106	89	81	96	1,160
集団栄養指導	1	0	3	3	3	1	3	2	2	1	3	0	22

医師科別人員／職員数

2020 年度 医師科別人員

部署名		2020 年 4 月
総 合 診 療 科		1
内科	呼 吸 器 内 科	4
	腎 臓 内 科	4
	糖尿病代謝内科	4
	消 化 器 内 科	10
	循 環 器 内 科	7
	合 計	29
小 児 科		6
外 科		13
整 形 外 科		7
脳 神 経 外 科		3
心 臓 血 管 外 科		3
産 婦 人 科		5
眼 科		2
耳 鼻 科		3
皮 膚 科		4
泌 尿 器 科		6
歯 科 口 腔 外 科		3
放 射 線 治 療 科		1
画 像 診 断 部		6
麻 酔 科		8
救 急 ・ 集 中 治 療 科		7
精 神 科		—
形 成 外 科		1
呼 吸 器 外 科		4
健 康 管 理 科		1
臨 床 研 究 検 査 科		1
病 理 研 究 検 査 科		1
臨 床 研 修 医 2 年 次		10
臨 床 研 修 医 1 年 次		12
合 計		137

職員数

区 分	2020 年 4 月
医 師	111
歯 科 医 師	4
臨 床 研 修 医	22
専 修 医	—
医 師 部 門 計	137
助 産 師	34
保 健 師	116
看 護 師	517
准 看 護 師	4
看 護 部 門 計	671
薬 剤 師	39
放 射 線 技 師	26
臨 床 検 査 技 師	48
臨 床 工 学 技 士	16
理 学 療 法 士	13
マ ッ サ ー ジ 師	—
作 業 療 法 士	4
管 理 栄 養 士	11
歯 科 衛 生 士	3
歯 科 技 工 士	—
視 能 訓 練 士	3
言 語 聴 覚 士	4
臨 床 心 理 士	1
社 会 福 祉 士	4
介 護 福 祉 士	—
医 療 技 術 部 門 計	172
事 務	82
事 務 部 門 計	82
ボ イ ラ 技 師	1
電 気 技 師	1
運 転 手	—
調 理 師	—
保 清 員	—
保 育 士	—
看 護 助 手	30
介 護 員	—
技 術 助 手	5
労 務 部 門 計	37
出 向	—
合 計	1,099

学会施設認定

認定種別
日本内科学会認定内科専門医教育関連病院
日本内科学会認定内科専門医制度研修医指導
日本呼吸器学会教育関連施設
日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本消化器病学会認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本胆道学会指導施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本小児科学会認定医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本外科学会認定医制度修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本外科感染症学会外科周術期感染管理教育施設
日本肝胆膵外科学会認定肝胆膵外科高度技能専門医修練施設B
日本消化器外科学会専門医修練施設証
日本大腸肛門病学会関連施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
乳房再建用エキスパンダー・インプラント実施施設
日本脳神経外科学会指定専門医訓練施設
日本脳卒中学会認定研修教育病院
日本整形外科学会認定医制度研修施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本脊椎椎間板病学会 椎間板酵素注入療法実施可能施設
日本胸部外科学会（認定医）指定施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設

認定種別
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本気管食道科学会専門医研修施設
日本麻酔科学会認定病院
日本ペインクリニック学会ペインクリニック専門医指定研修施設
日本救急医学会認定救急科専門医指定施設
日本集中治療医学会専門医研修施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本老年医学会認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度基幹施設
呼吸器外科専門医制度関連施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
日本放射線腫瘍学会準認定施設
日本口腔外科学会専門医制度研修機関
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本病態栄養学会認定「栄養管理・NST実施施設」
日本栄養療法推進協議会認定NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
マンモグラフィ検診精度管理中央委員会認定マンモグラフィ検診施設
日本高血圧学会専門医認定施設
PEG・在宅医療研究会専門胃瘻造設施設・管理施設
人間ドック健診施設機能評価認定施設
腹部ステントグラフト実施施設
胸部ステントグラフト実施施設
下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
日本脈管学会認定研修指定施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
日本膵臓学会指導施設
緩和医療専門薬剤師研修施設
日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師研修施設

編集後記

2020 年度の JA 広島総合病院 “Annual Report” が完成いたしました。

2020 年度は 2020 年 1 月から日本でも始まった “COVID-19” 感染症の拡大で幕を開けました。全国の小中高校の全面休校措置がとられましたが、感染拡大は続き 4 月 7 日には 7 都府県に非常事態宣言が発出され、その後 16 日には全国に拡大されました。非常事態宣言が初めて発出された時の重苦しい社会の空気は今もよく覚えています。感染を予防するワクチンもなく、COVID-19 感染症に特異的で有効な治療薬もなく（一応レムデシビルが承認）、皆が感染に怯える日々だったと思います。当院においても感染拡大に伴い 4 月より COVID-19 専用病床の運用を開始いたしました。緊急事態宣言は 5 月末ですべて解除となり、その後、緊急事態宣言により、経営困難とされる飲食・旅行業界支援のための “Go To キャンペーン” が 7 月より始まりましたが、感染の拡大により 12 月には停止に追い込まれました。人の移動活発化と感染拡大の関係についての指摘もありました。更なる感染拡大により 2 度目の緊急事態宣言が 2021 年 1 月に発出となりました。ワクチン接種は 2021 年 2 月によりようやく開始となりましたが、疾患特異的な治療薬もなく COVID-19 感染症に振り回されて 1 年が経過した様に感じます。正解の分からない感染症対策に苦慮した 1 年だったと思いますが、対策の有効性に対する評価やそれに基づく改善について十分な検証や検討が行われたかという疑問が残ります。

さて目を転じてもう明るい話題が極めて少ない年でした。「富岳」が世界一になったこと、藤井聡太棋士の最年少二冠・八段昇進、ヴェネチア国際映画祭での黒沢清監督の銀獅子賞（監督賞）受賞位が明るい話題と言えます。

暗い話題としては何と言っても広島における河井夫妻による買収事件は言語道断の話であり、未だに広島政界を揺るがしています。他にも木村花さんの自殺に象徴されるネット上での誹謗の横行、異常気象による自然災害発生、リコール署名における不正、不適切な接待を受ける官僚、自粛を守ることのできない国会議員、従来認められなかったことを強引に推し進めようとし、従来なかったことを行いながら詳細を説明しない官邸と日本の政治・経済・社会の劣化を強く感じた一年でした。我々の医療は劣化することなく地域医療に対する貢献を継続しなければと強く感じます。取り留めない話を書き綴りましたが、本年も多くの方の御協力により年報が完成したことを感謝いたします。本年報が地域の方々に我々の診療の実際を知っていただく端緒となれば幸いです。

2022 年 3 月
年報編集委員長
辻山 修司

年報編集委員会

小林 平	柳井 環	新田 克己	小松 浩基
森井 克成	井場 和敏	荒田 晋二	森下空青羽
折出 純			

JA広島総合病院 年報 2020年度

令和4年7月 発行

発 行 広島県厚生農業協同組合連合会
広島総合病院

広島県廿日市市地御前1-3-3

TEL 0829-36-3111

印 刷 株式会社 タカトープ rintメディア



JA 広島総合病院
JA. HIROSHIMA General Hospital